

卒業生が語る

合格への 軌跡2022年

WAY TO SUCCESS

金沢医科大
川崎医科大

2次合格
2次合格

ウイークリーの結果ですら、
講評してもらえるんで。
獲れてなければしっかり怒られるし。
ランキング載ってたよって
褒めてくれるときもあるし。

金沢医科大学進学 丸山翔君（城北高校卒）

まずは、進学先からお願いいたします。

金沢医科大学に進学しまして、合格したのが川崎医科大学と、金沢医科大学に、はい、受かりました丸山翔です。1次は、東北医科薬科と、金沢医科、川崎医科、あと、杏林、聖マリ、獨協医科の6校です。大学の授業はもう、朝9時から夜6時まで授業なんで。まあ、忙しいですね。ハハハ。なんか、逆に代官山来てたときと比べて、今のほうが案外大学行っても忙しいじゃん、って、なんですけど、やっぱり、代官山行ってたおかげで、代官山が朝9時から夜9時ぐらいまで授業があったので、代官山行っというてよかったなっていう。それがなかったら多分、その、9時から6時が耐えられないなって思ったんで。生活リズムが、やっぱり、代官山でついたって感じ、そうですね。はい。代官山で、朝、毎日月曜日から土曜日まで、朝から夜まで塾で勉強っていうのって、今まで人生の中でそのぐらい長く勉強してた経験って、実際、ここまで真剣にやったのは初めてですね、多分。それこそ、前の大学のときも勉強はしてたんですけど、ここまで、厳しくなかったというか、はい。そういう意味では今回が多分、必死さが一番ありましたね。自分の中で、もう、1年で、取りあえず、まあ、受かるにしろ落ちるにしろ、1年っていう覚悟があったので、そういう意味では、もう、ガッツありましたね。あと、本当、先生に支えられたのが大きくて、多分、結構、最初から声掛けが多かったんで、それも助かりました。はい。

一番声掛けてもらったの、え、一番、でも、パワーがあったのはやっぱり石井先生、一番パワーがありましたね。はい。本当に。確かに、でも、それこそ、梅田先生もそうですし。はい。担任だったんで、英語の授業もあったんで、ぼろぼろだったんで、最初から、梅田先生に関しては、もう、その声掛けが大きくて。あと、各先生も結構、なんか分からないですけど、すごい声掛けが多かったんで。はい。で、結構、楽しく会話もできたんで、いろいろ鼓舞もしてもらったんでよかったです。はい。ほとんどの、というか、全先生ですね。自分にだけは厳しかったです。アハハ。なんか、普段はそうでもなんですけど、俺には厳しかった。浅尾先生も厳しいですし、山崎先生とかも。みんな優しいって言うんですけど、俺には厳しかったです。アハハ。なんか、できなければ、やっぱり、しっかり叱ってくれるとか、やってこなかった部分とかは、しっかり言われますし、他の人にはみんな優しく「大丈夫だよ」みたいに言うのに、私には言ってくれず。いや、でも、それは結果ではよかった。自分もそれを望んで、マンツールの先生決めてたりしたんで。自分に甘くない先生のほうが、タイプの的には合ってたかなっていう。教える相性みたいな、含め、はい。

相当なブランクからの再受験は、想像以上に、大変だったのでは？

はい。もう、最初は本当、ハハ、大変でしたね。それ

こそ、まず、鉛筆、シャーペンを持つ習慣がなくて、もう、腱鞘炎になったんですよ。最初に、本当にもう。だから、そこから、きつくて。もう、過酷でしたね。ハハハ。朝は家でしっかり食べて、それは欠かさずに食べて、昼はコンビニで買って、上ですぐ食べて、勉強で自習に戻って。で、夜6時、軽食か、しっかり食べるかでその日の気分、テンションで決めてっていうリズムでしたね。

うーん。むしろ、いやもう、やるしかなかったんですよ。悩んでる時間がなかったっていうのが一番大きいかもしれないです。なんで、取りあえずやって、それで、その中で考える時間があるなら考えればいいけど、多分やってたらもう、考える時間ない。けど、もうやるしかないですよ。だけど、再受験は過酷です。それは間違いない、それは間違いないですね。はい。自分のときとも、カリキュラムも違ったんで。例えば、数学では複素数平面とかが、自分のときなかったんですよ。で、行列とかがあったんで、そういう意味でも全然違ったし。で、生物とかもどんどん細かくなって。もう、だから、自分のときと、わけが違うんで、まあ大変です。はい。

化学も、モル計算とか、ゼロです。無理です。モルという単語は聞いたことがあったけど、何だっけそれってところから入って。で、言われても、もう、全然ピンとこないんですよ。もう年数が離れ過ぎて。はい。もう終わったなって思ってたんですけど。で、そもそも、積分がまず分かんない。なんか微分の逆で、なんか、1個次数を上げる、ぐらいかなと思ってたら、もう、全然、公式もあるじゃないですか。で、考え方もいっぱいあって、もうパニックですよ。本当にもう、それぐらいゼロの知識から入ったんで、逆にちょっとでもある人だったらもっと楽じゃないかなと思いますけど。自分の場合は、それこそ、自分、最初、クラス下げてくださいってお願いしたんですよ、一回、実は。で、A8で、授業がもう付いていけないと、で、下げたら付いていけるかなと思ってお願いしたんですけど、他の人は、なんかすんなり下げてもらってたんですけど、なぜか、私には、今のクラスで付いていきなさいっていうお達しが出て、で、もう、後は、でも、もう分かんなくても行くしかなかったんで、来た授業に対してはそれをやるみたいな感じで行ったんで、分かってない部分もあったでしょうね、多々。はい。でも進みました。詰め込んで、頭にね。インプットしてインプットして。うん。本当にもう。はい。1個でも残ればいいかなみたいなスタンスで行ったんで。なんかもう、やるしかないみたいな。ああ、もうやるしかない。

予備校選びのきっかけは？

ああ、そうです。そうです。そうです。もう、ここの予備校、医専で全部調べて、7個ぐらい調べたんで、そこ全部行って、学長と、どこも話聞いて、ここにしよう。いや、でも一回、全部まわって、一番正解だ

ったんで、親ともその後話して、今振り返ってもやっぱり、一番向いてたんじゃないっていう。そう思います。うーん。あと、一番シビアで過酷だったのがここだったんですよね。アハハ。自分を追い詰めるという意味ではね。やっぱり、もう、最後、1年だと思ってたんで、だらけきるよりは、しかも自分、結構甘える性格も、ちょっとあったりしたんで、そういう意味でも、与えられたものをやるというほうが、知識ない中では楽だったんで、それも考えて。はい。

あ、でも多分入塾する前って、先生たちの様子なんてそんな分かんないじゃないですか。一応まあ、軌跡でこんないい先生いるよとか、こんなことをフォローしてくれるよって言われても、実際その経験してないから、あんまり期待値上げられないじゃないですか。で、実際入ってみて、実際に会ったら、それ以上あって、人にもよるかもしれないですけど自分にはそれ以上あって。それこそ、いろんな勉強法とか、教材とかくれたりとか、もう、すごいアットホームな、で、質問もすごいしやすかったんで、びっくりしました。そう意味では、むしろ期待を超えてきたので、非常によかったですね。佐藤(祐)先生とか、結構、こう、何というかな、遠慮なく言ってくれるし、もう、ずばずば言うんで。アハハ。それは、ウィークリーの結果ですら、あの、講評してもらえるんで。1点獲れてなければしっかり怒られるし。で、先生たちもあれ全部見てるんで、載ってたよって褒めてくれるときもあるし。あれもよかったです。はい。まあでも面談のときに、やっぱり、受験校決めるっていう面談のときに、マンスリーで200までいけるといいよっていう、具体的な

目標が与えられたのは大きかったですね。やっぱり、指標ないともう、さまようんで。特に自分の場合、何もなかったんで、前提知識が。で、他の塾の知識もないですし。そういう意味ではもう、よかったです。で、マンスリーがあるのも、ここを決めた一つの理由でもあったんで。ここの塾だと、偏差値がちゃんと出るんで。で、その、そのマンスリーで何点取ればどこまでいけるよっていうのがあるじゃないですか。あれが特に大きかったんで、ここに決めましたね。

周りの生徒さんと比べて10歳以上、年上な自分はやりづらさはなかったですか？

全然なかったですね、しかも先生、全然、こう、気さくに話をしてくれるし、石井先生にしても。そうですね。いや、もう、どの先生も気さくですね。怖いって感じもなく、いや、真面目にあまり、思わなかったですよ。アハハハ。結構、なんか、女の子とかだと、えー、石井先生ドキドキするから、えー、みたいな感じになりますけど、男の子でもたまに、ああ、はい、いますね。私は全くならず。アハハ。え、でも緊張感がありますよ。やっぱり。でも、行ったら行っただけの、こう、期待以上のアドバイスをもらえるってのはあります。間違いなくもらえるんで、定期的には行ったほうがいいなと、自分は思いますね。成績表、カルテ？を持ってって、今これぐらいの伸びでやってるんですけど、とかは相談に行って、自分の進む道の修正はしてましたけど。はい。ハハハハ。そうですね。でも、先生のその、何て言うんだろう、モチベーション上げてくれる一言みたいなものをいろんな先生から多分もらって。ああ、そうですね。で、あと、θの授業も、緊張感が半端ないなと。アハハハ。あれ、多分、ほぼ、全部の授業、当ててもらったんですよ。石井先生のθの授業。あれは、まあ、緊張感すごかったですけど、結果としてよかったですね。いや、本当に。もう、緊張感が、いつもその授業、ずっとあるんで。で、まあ、それで実際、英語も上がったと思ってますし。で、最初、席、前から3列目のほうにいたんですけど、後半から、あの、斎藤さん(愛知医科大進学)とかに誘われて、一番前に行ったんですよ。あの、意外に見づらいんですけど、ハハハ。それ、意外に見づらいけど、行ったら、まあ、それはそれでまたよくて。前に行った人、多分、ほぼ受かってるんで、実際。分かんないときは行っとけばいいかなと思います。取りあえず。はい。前に行く人は、授業との向き合い方がたぶんしっかりしてる人が多いかなと思います。見づらいし、あの、首、疲れるし、でも、まあ、行く価値はそれでもあるなと思いました。はい。いや、それまでが逆になかったんで、むしろそこで全てを形成したので、自分の場合は。なので自己流が逆に一切なかったからこそよかったのかなとも思って。まっさらな状態で。まあ、素直で、吸収がしやすかったっていうか、はい。何も分かんないんで、取りあえず言われたことだけやる。そうですね。



復習って、全部復習できました？

ああ、そうですね。で、自分の場合は、授業でなるべく覚えようと思ってたのもあって、授業でいかに、その、数学で言えば、解法のパターンを吸収できるかみたいなところは意識してましたね。その、ただノートとるんじゃないくて、その中で何とか処理しないと、もう、回らないのは分かってるんで。なので、どれも授業は切ってないです。はい。全部頑張っていました。アハハ。授業数も多いから。そういう意味で、そんなにこう、自分での復習っていうことに固執するよりも、きちんと授業を受けて、先生たちが言ってることを、こう、同じこと言ってるんだけど言い方変えた内容で覚えてくってというか、自分の中で落とし込んでいくっていうのが出来るんで。あと、逆に忙しんで、逆に、周りとかだべって時間を無駄にできなかったっていう利点がありました。あの、自分が代官山 MEDICAL 入るとき、それこそここに入ってすぐになんか、見抜かれていたんですかねえ、石井先生に最初、あの、相談に来たときがあって、そのとき、「孤独と勝負しろ」と言われたんですね、自分。で、孤独を目指す、結構、やっぱ、先生から、あなたは友達ができやすいからとか言われたんで。その、変に作り過ぎず、孤独で頑張ろうって最初やったんですけど、できて、エヘヘ、できた結果、そういうのをやってたんですけど、でも周りの人たちとの問題の解き合いはあまりしなかったですね、自分。ただ、悩みとか、勉強法に関しては、直接先生に結構聞きましたし、休み時間とか、年齢下の人とかに、まあ、クラスがクラスなんで、周りの、結構周りの子とかにまあ、ちょっと、勉強外の話されても、こう、上手に勉強の話に持っていった、まあ、そうですね。まあ、学内なんで。一応、筋はずれちゃおかしくなっちゃうんで、はい。まあやっぱ結局勉強にもっていきななきゃなっていう、はい、それはちょっと考えてました。一応考えてましたね。はい。アハハ。

再受験の2次面接の難しさは？どんな点を気を付けてましたか？

実際、面接の質問とあって、再受のこととあっていうのは、もう、しっかり触れてきます。最初に全部出すんで、経歴を。それを全部読まれるんですよ。で、ここは、なんで、ここ、大学行ったのとか、なんでこの所で働いてたのとかって全部聞かれるんで、隠しきれないですけど、多分、自分から出さないで、例えば、持ってる資格なんかを過剰にアピールしてしまうと、変に自慢げに話していくと、うん、だったらそっちいけばっていうふうに多分なりますし、で、変な話、他の仕事をけなすと、まあ、じゃあ、他の仕事けなすんだね、みたいな雰囲気になるらしくて。まあ、強く言うと、その話題で終わっちゃうんで、なかなか本題にいけないというか、その、医学を進む理由とかまではいけないんで、そこはうまく、他の学生と同じですっていうのを大事にしていきました。はい。あ、あと、

医師になりたい理由。でも、志望理由を聞かれて、ここで対策もしっかりしてもらってたんで、用意してたのも変ですけど、それをきちんと答えれた。まあ、緊張せずにというか。まあ、そうですね。おどおどはしないようにしてましたね。はい。え、私の場合は、石井先生の授業でも指導されて、まとめられたんですが、それこそ、父の働いている病院で、患者様に出くわしたときに、その、父の担当している患者で、その、息子さんですよって声掛けいただいて、その、父に診てもらってよくなって、救われましたという話を直接聞いたので、まあ、それを機に医師の素晴らしさに気付いて、目指しましたと。はい。ハハハ。でもやっぱ、再受験で、かつ30歳すぎの年齢だと、実際は厳しいかもしれません。ただ、無理ってわけではなくて、多分それを上回る点を取っとけば、1次で。たぶん行けるんで。

ありがとうございます。最後に、後輩にアドバイスすることあれば。

後輩にですか。まあ、最初は自宅から通おうと思ったのですが、社会人だったので少しでも時間が欲しかったので寮から通うことにしました。それで、時間を作ることに通勤いや通学のストレスも1個減りましたね、はい。取りあえず、自分は9カ月で受かったんで、その、初学から。まあ、それこそ、4月から入って、1月の中旬にもう試験で、9カ月で受かったんで。まあ、自分で9カ月で受かるなら、まあ、僕より少しでも知識がある皆さんなら多分、もっと受かりやすいと思うので、ぜひ頑張ってください。応援してます。はい。ハハハハ。

卒業生が語る

合格への 軌跡2022年

WAY TO SUCCESS

順天堂大医学部	2次合格
東邦大医学部	2次合格
国際医療福祉大医学部	2次合格
杏林大医学部	2次合格

本当に代官山じゃないと医学部、
厳しいなって思った1年だったんで。
やっぱり順天に行けたのは、
やっぱここで1年やったからかなって
本当に思います、悔いはないっす。

順天堂大医学部進学 牧野晃大君（芝高校卒）

2次行ったところ、全部、受かった。

えっと、名前は牧野晃大です。2次合格校は順天堂大学、東邦大学、国際医療福祉大学、あと杏林大学です。で、1次通ったのは、えーっと、今の追加して、聖マリアンナ大学が確か、それぐらいですかね。5つですね。僕、受けてる学校が多分、6つ、あ、7つか。7つか8つなんで。少ない？少ないっていうか多分、ボスも、それぐらいでいいみたいになって言ってる。日医と慈恵が、あと東医が1次で通らなくて、それ以外が多分、全部、1次通って。で、聖マリアンナは面接、行かなくて。2次行った所は全部、受かったみたい。聖マは、そうですね、その、杏林を自己採したときに8割超えてたんで、まあ、正規が来る聖マは、まあ、なくてもいいかなと思って。

現役のとき、何やっていいのかわからなかった。

高校のとき駿台、行って。市谷に行って、受かるでしょう、みたいな。

駿台は、えっと、僕、一番上のクラス、一応Sアルファって一番上のクラスで、50人とかいたと思います。1クラス50人とかいたと思います。Sアルファに一応いました。フフフ。偏差値55で、はい。勝手に…。いましたね。なかなかです。で、現役のときは本当、大変でした。何したらいいかわかんないし。あと問題の難易度が、やっぱSアルファ合ってたのか、ムズ過ぎて、授業聞いても分かんない、あと質問に行けないんですよ、駿台は。行けるシステム自体はあるんですけど、並び過ぎて絶対、10分休みとかじゃ行けないし。で、7人ぐらい並びます。10分休みで7人とか並べられると、1人1分なんですよ。1人1分で伝えられるのって多分、本当少なくて。もう、レスポンス含めて1分なんで。本当に、本当に全然、分かんなかったです。あれは大変だなと……。うーん、なんで受かると思ったんですかね、なんで受かると思ったのか分かんないですけど、駿台のテキストは、ほとんどやってなかったです、今思うと、僕には、あんなときは難しかったです。多分、今、代官山でM1行った後に解いたら解けたと思うんですけど(笑)。あのときは、テンプレとかも正直、分かんなかったし、応用問題みたいなものから入ってたんで、無理でしたね、正直。なかなかきつかったです、あんなときは。聞いているだけになっちゃってましたね。で、ここへ来て、代官山で、クラス編成テストで、M3入って、M3は、まだStandardの中で一番上だったんで。M3のStandardが、ちょうど良かったです、M3、そうですね、M2より上は、理科がHighなんで、Highだったら死んでました。

新学期のクラスはM3スタートだった。

牧野：はい、僕、M3スタートで。いや、コケたっていうよりは、もう多分、“実力”だったんだと思います。正直、生物以外は本当ひどくて、偏差値、えーと、か、化学が49、で、英語が43とかで。生物だけ偏差

値78だったんで、本当に生物なかったらM3じゃなかったんで。アハハハ。正直、まあ、これが実力かなと思って。生物は、4月のクラス編成テストの前までに代官山から頂いたハンドブックを全部、覚えたんで。それ、でかかったかなと思って。知識も考察も大体、解けて。僕は、日大の受験終わって、2月の終わりに入塾して「さきどり課題」やったのが、大きかった。2月、3月の間、ずっと生物やって、春の先取り(授業)も取って英語長文を写経したりとか生物の知識、覚えたりとか、数学は積分、始めてみたりとか。微積できないの、もう分かってたんで、化学も、ちょっと理論やってみたりとか、まあ、やれることやってました、春のうちは、何やったらいいかわかんなかったんで、もらったテキストを全部1周、終わらせるみたいな覚悟でやってました。でも、後々、(先んじて)やっというてよかったな、みたいな、やっぱり先に始めたほうが、いい感じ、絶対そうです。あとで始めれば、後々になると、やっぱ友達ができてきたりすると、基本(事項)に返ってる時間とかもあんまりなくて、みんながレベル高くなっていった一人だけ焦ってるのはイヤだったんで、やっぱ、そういうの考えると先にやって、先にやっとかとクラスも上がりやすいんで。最初のほうが上がりやすくて、やっぱ後々みんなできてくると、上がりづらくなっちゃうんで。まあ、クラス上がりたいんだったら、もう早めにやっちゃったほうがいいんじゃないかなって思います。後期とかなってくると、成績もある程度みんな分かってきて、基礎やってる子たちと、やってない子たちみたいな感じになってきちゃうんで、夏前までには。途中でAの9とかから上がってきて、破竹の勢いで、もう、なんかクラス上がってく子とかは、あ、すごいなって、いや、います、ほんと、それは正直、努力だと思います。本当にすごいと思いました。こんなに上がるんだ、みたいな、正直、3つ(3クラス)上がりとか、まあ、僕の場合、M3だったっていうのもあったかもしれないですけど、3つ上がるとか考えられなくて。最後には、でもM1、そうです、最後にM1行きました。でも…、冬です。

僕と旦(伊藤旦：昭和大医学部進学)と一緒に上がって、マンスリーの2回分の総合っていうか、平均っていうか、僕、2位と5位だったんですよ、マンスリーが。2位と5位でM3からM1上がれると思ったんですよ。でも2位と5位取ってもM1に上がれなくてM2になって、「何だ、この野郎っ」と思って。フフ。それで、次のマンスリーで、1位取って、これなら上がれるでしょ、みたいな。それで…、それで上がりました、M1に。うん。あの一、いろいろ、マンスリーだけじゃないんで。そうです。多分ウイークリーが、ちょっと悪かったのかなと思います。いや、悪いですね。フフフ。ちょっとウイークリー、もうちょっと頑張ったらもっと早く上がれたかな、みたいな。でも、生物なんかもいきなりHighからじゃなくて、ハンドブック1冊、覚えてにせよ、やっぱそれを維持するのが正直、すごい難し

くて。やっぱ抜けてきますし、そういう面では、やっぱ Standard でちゃんと基本、やっぱ M3 だと基本から教えてくれる一番上のクラスなので、そういう面では M3 で、最初よかったかなって、夏まで M3 いたんで、夏も M3 でよかったかなと思います、正直。M1 や M2 に一緒に多分ついてける学力は、まだ 1 学期にはなかったと思います、あの頃はまだ正直。クラス分け適正だったですね。

スマホは預けて。

スマホは、もうほぼなしです。ほぼなしっていうか、ここ(代官山 MEDICAL)に来たら預けてたし、家帰ったら親に言われてたんで。友達との連絡も LINE 交換してなくて。1 人だけ、まあ、日根野(日根野龍：順天堂大医学部進学)だけは交換したんですけど他は全然、交換しなかったですね。受験期になって、ミヤシウ(宮本秀太郎：東邦大医学部進学)とか旦(伊藤旦：昭和大医学部進学)とか交換し始めたぐらいですね。僕がここに来たときに LINE を一回、アカウント変えて真っさらにしたんで誰も、知らない状態になったんで。全然連絡は取らなかったですね。まあ、もう親が、僕が高3のときからずっと本当にスマホがやめられなくて、一つの敗因だと思ってて。絶望的にやばかったです。結局、もう聖マですら落ちて、1 次で落ちて。さすがに、自分が浪人すると思ってなくて、現役人ときに、甘かった、アハハハハハ。ちょっと浪人したときは、ああ、(スマホ)やめなきゃなっていう感覚はありました。代官山来た理由も忙しいほうが、スマホから離れられるんです。だから、うん、授業数、多かったのは本当にありがたいです。なんか、やっぱ空きコマ、まあ、有効活用はしてましたけど、あれ以上、空きコマがあると多分、遊んでました。フフフ。ここにちょうど 1 コマ空いてるから、プリント課題をやってってなって、やらなきゃいけないことがあったからやってたんです

けど、あれ以上、空きコマあると、まあ、単純に授業数、減っちゃうんで課題も減りますし…。授業コマ数多いからこそ、ギリ耐えて勉強してたのはあると思います。ちょうど課題、終わるし。授業ギリついていけるでしょう、みたいな感じの授業コマ数でしたね、いや、絶妙でした、あれは、はい。ギリでした。空きコマあり過ぎると遊びます、きっと。元から遊びたい人なんで、僕は。正直、逃げますね。ここ(代官山 MEDICAL)は、完全に管理されてるし、毎月クラス分け、毎月っていうか、あの、毎月クラス分けテストある、マンスリーあるんで。マンスリー取らなきゃと思ってた自分にとっては、やっぱあんまり遊んでる暇なかったですね。気付いたらマンスリーくるんで、次の。

理科の戦略は生物⇒化学の順で。

マンスリーでは、僕、先に、生物⇒化学ですね。僕は生物、本当に得意で、早く解き終わるんで。生物から早く解き終わって残り全部、もうでも、戻らなかったです、生物には一回も。

あんまり生物に時間かけ過ぎると、化学が本当に悲惨になるんで、僕は生物、早めに切り上げて化学をいっぱい解くっていう方式でやってたんで、そうですね、生物は早めに切り上げてました。見直しだと結構、考察は、なんか、一応、三角とか付けとくんですけど。危ない所は、もう一回、問題文、読みたい所とかあるんですけど結局、問題文いちから読み直して、その問題のためだけに、いちから読み直してとか正直、もったいないんで。本当に難しかったりとか実験が多かったりすると、やっぱり、そうですね、戻りたいなと思うときはありますけど、まあ、慣れてくると、一回で読んで全部、解き終わったりできるようになるんですけど。それこそ僕は日医とか、もう一回も戻らずいけるようになって、日医で実験 9 個ぐらいあっても全然、余裕でいけるんで。でも最初のほうは、やっぱり戻りたかったです。最初のほう、何言ってたかな、みたいな。アハハ。はい、でも、考察問題は、一回ちゃんと一回じっくり問題文は読んだほうがいいです。結構、なんか、流して読んで問題文、見て、もう一回読んで戻ってとか、何回かやる人いるんですけど、まあ、それも正しいと思うんですけど一回、問題文じっくり読んで、絶対ポイントとかあるんで。そこを見つけた上で。問題、先に読むのはいいと思います。問題、先、読むんですけど選択肢は絶対、見ないようにしてます。なんか、選択肢、ダミーの選択肢とかあって、合ってるように見えるダミーの選択肢があるんですよ。アハハハハハ。で、その選択肢だと思って問題文、読むと、そう思い込んじゃう。先入観で読んじゃうと、そう思って読んじゃうんで選択肢を読まないで問題文だけ読んで、じっくり、そうですね、その課題文みたいなのを読み込んで一個ずつ解いてく、みたいなのが僕は合ってました。本当に選択肢は絶対、読まないほうがいいと思います。あれは落とし穴ですね。選択肢から読んで失敗



したことが結構、あります。選択肢から読んで、知識でこれだろうみたいな。ウフ。もうあれは絶対、受からないですね。知識でこれだろうは本当に、多分、作った人もそれを狙って作ってるんで。もう絶対よくないですね…。東医の生物とかは、まあ、単純に問題が多いのもそうなんですけど、むずかったですね。解ける問題を探す時点で時間がかっちゃうし。本当に東医は毎年そうなんですけど、毎年むずいです、あそこは。まあ、終わらないのが当たり前みたいになっちゃって。でも、もうちょっといけたかなっていうのはあります。正直、でも、化学との兼ね合いで、もう捨てなきゃいけない問題があるんですよ、なんか…。

友達もみんな受かった。

やっぱ友達いないと、だれます。無理です。過去問、解くときとかも1人で解くのって、その、解き終わった後、自分の点数がどれぐらいなのか、やっぱ友達いないと分かんないし、(医学部の)情報も、先生とかの情報も集まってくるんで。僕がいろんな先生のことを聞いたのも、ある程度の友達がいたんで集まってきた情報なんで。それは、いたほうがいいと…。僕自身、あんまり友達、多いほうではなかったんですけど、どうなんですかね。周りが分かんないんですけど、でも、それなりに楽しくやったんじゃないですか。

やっぱり、その分、成績は互いに意識はします。でもやっぱり成績、取らないと呼び出しされるって、あの、俺らの中では言ってたんで。一回ここに、最初のほう呼び出されたときとかもあったんで、なんか、成績、一回でもランキング外とかいったら呼び出されるんだろうなって思いながら、やりました結局。やっぱ、あの成績じゃないと多分、あの態度は怒られるだろうなっては思いますけど。自分にプレッシャーかけてました。もう初めのうちから順天、もう4月、5月から順天堂に行くってみんなに言ってる。順天じゃなきゃ、もう1浪するぐらいみたいなこと言っちゃってたんで、言っていました。もう慶應受かって、あ、慈恵受かって順天、行くみたいなことも言ってたんで。マンスリーは絶対、ランキング1桁取るとか、生物はランキング1桁じゃないとかあり得ないとか言ってたんで。あとはまあ、逐一、各科目点数、張り出されてるところとか見て、やっぱ全部、見られてんだな点数、みたいな。ウイークリーも全部、張り出されるしマンスリーも張り出されるし。そうですね。やっぱり、でかいんじゃないんですか。あと、名前、覚えてもらえとかも、おっきかったと思います。現役の他の塾とか全然、名前覚えてもらえなかったし。まあ、多分、先生も名前覚えようとしてないんで、あれなんですけど。ここは全員の名前、先生がた、受付の人も含め全員、覚えてくれてたんで。やっぱ、そういうのは、ちゃんと見えてるんだなみたいなのは感じてました。

まあ、友達は選ぶべきですけど、僕は、たまたま恵まれました。その、なんか、勉強を全くしない友達では

なくて、成績もいいし、ある程度、勉強もするし、いい所、受かったしみたいな友達だったんで、それはまあ、恵まれたなと思います。いや、本当、運にも恵まれたと思います。やっぱ、日根野順天行って旦も昭和受かって平井(平井豪:昭和大医学部進学)も昭和受かって益子(益子友里:国際医療福祉大医学部進学)なんて国福受かって。ああと、超最後のほうに奈良(奈良拓矢:昭和大医学部進学)。ナラタク、最後、なんか、めっちゃ伸びましたね。なんか、びびるぐらい伸びましたね、最後。あと、武田(武田真輝:昭和大医学部進学)とか、昭和、行った武田とか。あれも最後、岡宮(岡宮海:獨協医科大進学)たちと一緒に勉強してたグループは最後、上がりましたね。岡宮も受かりましたね。なんか、何だかんだ最後、めっちゃ勉強してたんで、1階で。2号館の1階で、その、男子集団、集まって勉強してましたね。ずっと課題で出された過去問、解いてました、一緒に過去問、解き合ってたね、時間、計って。僕は日根野と旦と俺と、あと誰だ、山原さん(山原万由子:埼玉医科大進学)とか益子さんとか川島ちゃん(川島綾美:日本大医学部進学)とか、そうです、その辺…みんな受かったじゃん。そうですね。僕と一緒に過去問、解いてたグループは全員、ちゃんと受かりましたし、全員Mクラスにもいたんで、それなりにやったんじゃないですか。

順天堂の英語の自由英作文対策は朝岡先生と。

細かいっすからね。朝岡先生は本当に、細かいっすね、なんか…。文法も、朝岡先生は長文よりも、文法とか自由英作とかの先生だと思うんですけど、とにかく、あの、派生でした。なんか、すごい授業、1個の問題にかける時間すごい長くて。1個の問題から、すごい派生した文法とかいっぱい教えてくれて。すごい役に立ちました。つなげて覚えないと、やっぱり文法は覚えられないし。文法はやっぱり、ああやってつなげて覚えないと覚えられないんで。そういうところで朝岡先生は、すごいありがたかったなと思います。一番インパクトあるし、頭に残る授業でした。朝岡先生に言われたとおりに覚えていきました。自由英作も、朝岡先生が作った型でやって、あの、小論文みたいに多分、代官山生…。伝わると思うんですけど。小論文みたいに、なんか、第1段落の書き始めはこうで、例えば題名、題名っていうか、その、問題文で聞かれてることの答えを最初、書いて、2段落目はこう書いて、終わりはこう書いて、真ん中は例えば体験談とか、こういうことを書けばいいんだよ、みたいな。で、あと、5個か6個ぐらいのフレーズ教えてもらって、場合によって合わせて書いていく、みたいなのをやりました。そういう感じで自由英作力がつきましたね。自由英作用のプリントもいっぱいあるんで、朝岡先生が、なんか、言ったら作ってくれます。順天はそれで書けたましたね、自由英作、はい。順天は、200字ぐらいなんですけど、それで書き切りましたね。本当に狙ったと

おりでした、今年は。できれば、自由英作は早く始めたほうがいいですね、青葉先生もやってらっしゃいますし、三ツ橋先生もやってらっしゃるんで、好きな先生に自由英作を見せて、やるべきだと思います。僕は本当に冬でギリ間に合ったんで、夏からマンツーマン取って、冬でやっと200字、あの、時間内というか、ちゃんと終わる時間内で解けるようになったのが冬なんで。早く始めたほうがいいですね。石井先生のθの授業も、そうですね。僕、あの一、石井先生の目の前の、前から2列目だったんですけど、目の前が、一番左の目の前の席座ってて、はい、ずっと通年あそこに座ってたんですけど、順天の問題とかくると当ててもらったりとか、先生も知ってるんで、はい、順天の自由英作、石井先生が書いてくださったのが、模範みたいな書いてくださったりとかも、言ってもらったりとか、よくしていただいたと思います。あの先生、一人一人、全部知ってるから、まあ、そうですね。本当にボスには、本当に救われたと思います、僕は。本当に。ここに来て良かったなって、今でも本当に思ってます。

本当、運良かったです。今年は本当に英語が運が良くって、なんか、長文が早く終わって、思ったよりも早く終わって、思ったよりも自由英作に時間かけられたんで、それがやっぱり、でかかったかなと思います。いやー、もう受けたくないっすね。アハハハ。あの雰囲気と難易度は、もう無理ですね。フフ。一回で十分です。大学だと、僕は英語5段階に分かれるんですけど、TOEFLのスコアで、五つにクラス、英語、分かれるんですけど僕、下から二つ目なんで。全然かなわないです、英語は。もう本当、留学生とか、あと純ジャパでTOEFL満点取ってくるやつとかもいて。本当に英語は全然できませんね。B方式とか、英検、使ったりとかTOEFL使ったりとかの子は、帰国じゃない子でも、本当に満点近く取る子もいるんで。帰国の子も正直、すごいできますし、留学生の人とかは、もちろんすごいしゃべるんで、英語、飛び交って、英語の授業とかは、僕たちは黙ります、取りあえず。フフ。しゃべって、しゃべってくれてるんで、それで僕たちは見守ってます、それを。アハハハハハ。フフ。遠目から見守って。

僕にとって代官山の1年は人生の転換期だった。

いやー、本当に人生の転換期っていう感じで、学科、面接はもちろんですけど、社会常識みたいなのを、もろもろ学びました。やっぱ高校、僕、男子校で結構、暴れてたほうなんで。はい。結構、本当に、あの一、受験直前とかもボウリング行ったりとかして、本当に遊んでたんで。あの、本当に、なんか、ここ来て、努力する、何かに努力するみたいなのを本当に突き詰めた1年だったなと思います。はい。まあ、代官山じゃないと受からないんで、と思ってるんで僕は。まあ、妹もここに入れたぐらいですし、本当に代官山じゃないと医学部、厳しいなって思ったぐらいの1年だった

んで。やっぱり順天に行けたのは、やっぱここで1年やったからかなって本当に思います、悔いはないっす。もう第1志望に受かったんで。アハハハ。これ以上は、ないっす、もう僕は。楽しかったです。やっぱ友達にも恵まれて。友達の存在って、やっぱ大きいです。やっぱ負けたくないって思う友達、まあ、僕が勝手に負けたくないと思ってただけかもしれないんですけど。

自分のレベルに合ったテキストをやったほうが伸びる。

自分のレベルに合わないテキストとかプリントとかを解くのは、本当にやめたほうがいいと思ってて。なんか、時々いるんですけど、自分はもっと、この教科できるからもっと上のレベルのテキストやりたいとか。なんか、俺このレベルあんまり低いから嫌だって言ってる子いるんですけど、僕も生物、自分ではできたと思っててもスタンダードでよかったって思ってるぐらいなんで。結構マンスリーテスト、ちゃんと自分の成績どおりのクラスなんで、クラス信じて、そのテキストを使ってやり込んだほうがいいと思います。

やっぱ生物とかは、圧倒的に知識不足だと、知識ないと限界がくるんですよ考察にも、正直。その限界がくる、きてからレベル下げて基礎、固めるのは遅いなって思うんで。本館の子とかで、それは早くないかみたいな、勝手になんか、マンツーマンの先生とかに駄々こねて、プリントもらってる子とかいたんですけど。いや、ちょっと、信じてやったほうがいいです、テキストは本当に、まじで低ければ低いほうがいいってわけじゃなくて、そのもらったテキストをガチでやれば良いと思います。なんか、どのテキストでも結局、完璧にすれば受かるんで。ベーシックでも、スタでも。自分のもらったテキストやれば良いかなって思います。



卒業生が語る

合格への 軌跡2022年

WAY TO SUCCESS

福岡大医学部

2次合格

有効数字だけは気を付けてください、
本当に。その1点で人生変わりますよ。
あと、先生の言うことを素直に聞くって
こと、絶対それに尽きると思う、本当に。

福岡大医学部進学 長尾快登君（巣鴨高校卒）

よろしくお願いします。現役合格を果たされた長尾君ですね。

はい、長尾快登です。最終合格大学は福岡大学医学部です。1次合格は、聖マリと、獨協と金沢と福岡です。現役 Standard クラス出身です。もう、本当 Standard の星？ですよ(笑)。福岡大の補欠番号見て、あ、受かったなあみたい。繰り上げの、電話が来たときは、ああ受かった、みたい。逆に14番って分かったときに、めっちゃほっとしました。うれしいっていうより、でもなんか、これ言っているのかな、俺、チョロイと思って、もう俺、1次チョロっと思った。でも最初5連敗したから、愛知、岩手、帝京、杏林、東邦と5連敗、はい、それはちょっときてた、やばいって思った。まあ、でも、俺らしくないんですけど、●谷学院からこっちに変わって、親にそんな学費払ってもらって受かんなかったら、マジ申し訳ねえとはずっとと思ってたんすよ、俺。勉強のモチベーション、俺ある種それもあったんすよ。勉強しなきゃいけないと思ってたから、頑張れましたね、割と、うん。甲斐あってか、終盤伸びたっていうか、これ、数字じゃ現れない俺の能力があって、12月マンスリーあったじゃないですか、あのあと2カ月で俺、めっちゃ伸びたって実感できるぐらいなんすよ。めっちゃ伸びましたまじ、絶対。化学、絶対伸びました。だって俺、受験とか自己採するじゃないですか。化学だけ毎回安定してたんすよ。8割もいけないけど、大体少なくとも6割は超えてました、どこでも。化学だけやっぱ有機、無機、高分子で安定してたから。そう、それはもう覚えまくって、はい、でも、理論はゼロっす。だからまあ取れるとこだけ取って、理論は…。なんかもう酸化還元とか、もう捨ててて、俺。もうこれ、現

役だから、俺全部攻めてたらもう終わんねえと思って。自分の得意なとこ伸ばそうと思って、そっちに徹したら、まあ、運よく受かりましたね。

結構俺メンタル強いって言われるほうなんすけど、強いっていうより、多分、普通に俺、天性の頭あほなんすよね。能天気だから、多分。周りとか割と、E判定取って落ち込んでたんすけど、それが理解できなくて、俺はもちろん、自分の実力に見合っただけでE判定なんすよ、毎回。たとえE判定っても、もう結局最後受かればいいから、それはずっと俺はそういう考えだったから、俺、高3の1学期の化学の期末テストも1点取ったけど、そう、1点取った。で最初…、マジ、その1点のせいで俺、指定校推薦消えたもん、俺。推薦受けられなくなった、その1点のせいで。そう、お母さんにめっちゃ怒られて、1点取って。でも「受かるからもうちょっと黙ってて」つつたんすよ。それで受かったから、まじよかったって感じっす、まじ。そう、まじで。他んどこ来なかったもんね、1次すら。だから、俺、福岡受けてて本当よかったなって思いましたもん、完全に。まじ、あれ、運命っすよね。

代官山に来る前は？

●谷学院っす。●谷学院、もうひどいっすよ。あの、高2の初めから行ってたんすけど、あの55段階あるじゃないですか。俺あれ、ちゃんとクリアしたんすよね、55段階。あの、55段階って何かその、数学だったら、单元ごとに…ハンコもらえる、ってやつ。全部クリアしたんすけど、まじで俺、復習、予習、何もしなかったから、何にも身に付かなくて。で、もう高3なるじゃないですか、で、最初なんか、ちょっとまあ、志望校決める的な面談があつて。担任制度があつたんで、担任になった人と、俺と、お母さんで面談したんすよ。そのときに、4月の初めの頃に、あ、もうこれ国立大現役間に合わないから私立にしようっていうふうに固めて、で、●谷学院の面談行ったんすよ。そしたら、その私立の話するじゃないですか、お母さんとその3人で、で、その先生まずえぐかったのは、あの医学部に2次があること知らなくて。やばくないですか、やばすぎますよね。で、あと何か藤田医科大とか名前も知らなくて。藤田医科大の名前すら知らなくて。こいつやべえと思って。これはやばいってなって…。私立専願でこの塾行ったら100パー受かんねえってなって、で、じゃあ医専行こうってなって、ウインダムか、代官山か、野田クルゼだったんすよ。で、どれも行くじゃないですか、面接。で、もうこれは今だから言えますけど、俺あんととき野田クルゼ行く気満々だったんすよ。なぜなら、一番緩そうだったから。で、一番厳しそうだったのが代官山だったんすよ。で、その、でも、俺緩い四谷行って、緩い野田クルゼ行くの違うなって直前で思って、一番厳しい所に行こうと思ってここ来たんすよ、そしたらめっちゃ楽しかったっすね。てか、代官山の Standard が多分、合ったんですよ、俺に割と。だか



らその、結構友達みんな作ってたから。俺でも黙って勉強できないタイプだから。でも分かんない、他行っても友達できたかもしれない。いや、聞くもん、うわさを、他の。そう俺の、でもここの塾って、あと長澤のお姉ちゃん（長澤 奈々乃：杏林大医学部）が、代官山に行ってたってのがあって、だから長澤のお母さんもちっと助言してくれたから、代官山のことを。

代官山で大きく変化を遂げましたか？

それはまじで思う。本当に、最高の中身だった。仲間会ったしな。そう、みんな普通に、なんか、俺の代の Standard はみんな割となんか仲良かったから、そこはめっちゃよかったすね、普通に。俺普通に今後、人生でずっと俺、付き合っと思うてるからね、代官山のやつら。超おもしろいもん、あいつら、まじで。医者になってさ。そうそう、みんなでね。俺、本当に、ちょ、宗教的なやつじゃなくて。それは多分、●谷学院だったら絶対受かってなかったから、多分。でも間違いないでしょ。間違いない。絶対受かってない、まじで。だってテキストもなんか、代官山テキストって数学とかって、Standard の授業テキストとか、問題くまなく網羅されてたから、それが助かった、割と、数学とかもう、なんか、苦労しなかったし、あと生物・化学だな。三上先生とオガティー（緒方先生）まじ神だった。いや、オガティーまじめっちゃおもしろいんすよ、あの人。まじ、めっちゃ普通にめっちゃわかりやすい、あの人。これは俺の学校の先生と比較すると、学校の生物の先生は、模範解答をひたすら読んでる感じ。なんか、問題、演習させるじゃん、演習して、本当、解説の本に書いてあることをまんま板書してく感じだったから、そんなん読めばわかるやんって感じなんだけど、オガティーはなんか、何ていうのかな、まず出してくる問題がオガティーが作った問題だから、解説もしっかりしてたから、で、あの人、質問言っても、まじ嫌な顔全くしなかったから、三上ティーチャーはすげえ嫌な顔するやん。すげえ嫌な顔するから。めっちゃ、生物腐るほどしてましたよ、俺。だけど、俺、考察問題とかすげえ苦手だったから、それを補う知識付けようと思って、知識付ければ考察も解けるようになるやろと思って。あの緒方先生の授業の板書なんか、全部書けるようにしてました。それ最初、書けるようにしろって言われて、最初思った、こんなめっちゃ量多いのに、書けるようにしろとか頭いってんだろって思ったんすけど、だんだんこれ書けたほうができくねと思って、書けるようにしたら、めっちゃできましたね。だからその、大学によっては、知識さえあれば8割9割取れる大学とかあったから、福大がまさにそれで。福大の生物、俺、福大は化学も生物も8割は超えてたんすけど、知識だったら、まじで、高田さん（高田真央：日本大医学部現役進学）に匹敵しましたね、俺。あ、でも高田さんは、考察問題も超強かったから。昨日何か（合格者）座談会で、あの人、日大の生物9割

って言ってたんすよ。俺4割っすよ。もうバケモンやんこいつと思って、あれで9割取れるのバケモン過ぎると思ったんすけど。完敗しましたね、高田さんには。

高校生って、勉強時間少ないじゃないですか、どうやって時間を作ったの？

ない、ないっす、本当にないっす。俺もうだから、大体みんな代官山に朝早く来てたじゃないですか、黒坂（黒坂陽一郎：昭和大医学部現役進学）とか、あいつもう極端で、朝6時には塾来てましたよね、友達から刺激受けたってのは結構、そう、それはめっちゃある。あいつ、それこそ、俺がすげえなと思ったのは、あいつ2号館こもるとき、あいつ1歩も外に出なくて、2号館から。だから、俺1回びびったのは、夜の8時ぐらい、休み時間じゃない日、普通に授業時間に、俺たまたまコンビニに飯買い行って、あいつも買いに来て、8時ぐらいに。で、「おまえ、これ今日出たの初めて？」つったら「うん、俺6時に来て、今日これ出たの初めて」って言って。朝6時に来て、1周、時が回って、夜8時まで1歩も出なかったらしくて、それ聞いたときは、こいつやべえと思いました。普通に。トイレは行ってると思いますけど、さすがに。漏らしながらやるやついないから（笑）、それはシンプルにすげえなこいつと、うん、それは普通にやばい。あと、他の Standard の奴らは、俺が言うのもなんだけど、俺のほうが「上」って見てくれてたから、俺はあいつらに追い付かれたくなかったから、差を広げたいと思ってたから、だから、一回、石井先生が、θの授業で、なんか、塾で勉強し切って疲れ切って、家ではもう寝るくらい



じゃなきゃ駄目だ、的なことをおっしゃられてて、多分、みんなそれを、あ、じゃあ寝ようって思って多分、みんな家帰ってからあんま勉強しなかったと思うんすよ。俺はそれを逆手にとって、みんな絶対家でやらないから家でめっちゃやったらと思って、俺毎日11時半までやってたんですよ、家で。そこで、多分、差がついたかなと、思いますね。これも、(合格者)座談会では話そうと思ってたけど、石井先生が、YouTubeとかSNSやるなっておっしゃられてたわけが、YouTubeとかってあなたへのおすすめ出てくるじゃないですか、関連動画とか、あれに引きずり込まれちゃうって言ってたんすよ。それはめっちゃわかるんすよ、確かに、って。塾で疲れたってなったら、昼飯食ってるときとか、軌跡読んでましたもん。あの鈴木理咲子(東京慈恵会医科大現役進学)とか岸川さん(杏林大医学部現役進学)とか。ああ、そうそう。この2人めっちゃ読んでたな。この2人。現役で受かったやつ中心に、そうそう。やっぱ現役。

マンツーマンはとっていましたか？

数学は、マンツーマンを取ってましたよ。俺あの、数学の小島先生取ってました。俺、小島先生よかったっすよ。冬とか、俺毎朝7時に来てたんすよ。で、小島先生すごい来るの早くて、大体、どの先生も8時45分とか8時半ぐらいに来ると思うんすけど、あの人8時に来てたんすよ。

だから俺、毎朝7時に来て、7時から60分数学の過去問解いて、どっかの。その過去問を解いて持ってってたんすよ、小島先生のところに。で、それを毎朝やってたら、朝数学やるのすごいノルマになって、いいんすよね、はかどる、頭が回るから。だから、それでそう、小島先生毎日持ってって、今日はこうだった、今日はできた、できなかったっていうのをやってたんで、振り返ってそれよかったっすね、めっちゃ。普通に俺の愚痴とか、雑談めっちゃしてくれたんで。あと、石井先生に相談しにいった、あ、相談しましたね。東海の推薦のやつで、それで行って、そう。(推薦)受けてもいいんじゃないって言われましたよ。けど、あれ、共通テストのリスニングが俺、本当できなかったんで、やめましたね、それで。まあ、高校で化学1点で、推薦消えましたけど、結局(笑)。

後輩たちに言いたいこと？アドバイスとか。

うん。俺が一番後悔してるのは、聖マリアンナ有効数字事件ね、これ。俺あと補欠12番だったんすよ。今年148まで補欠回って、俺160番だったから、で、その、有効数字3桁のところ2桁で書いて、4問。そこで4点落としたから。有効数字だけは気を付けてください、本当に。その1点で人生変わりますよ。それ以外は、なんか、先生の言うことを素直に聞くなって、絶対それに尽きると思う、本当に。俺まじ、無駄な反抗一切しなかったから、やれって言われたことは

ちゃんとやってたし、どのタイミングでこれやれとか多分、指示あるから、それは、ちゃんと、俺ちゃんと守ってたのよ。で、ちゃんと守ってないやつもいたの。そう、そうだから、それをちゃんと守ってたから、知識の定着が俺めっちゃ早くなったし。例えば、無機化学、有機化学が。無機が確か夏、授業があって、そのとき三上先生が、あれ夏の最後だったんだけど、今週中にセミナー1周しろって言われて。で、その後、2週間以内にあと2周しろって言われて、俺それ全部ちゃんとやったのよ。全然できる。そう、だから、本当多分、石井先生とか言ってることやるほうが絶対いいのよ。とくにθの授業で言ってたこと。基本的に言うこと聞いたほうがいいと思う。たまに自分でアクセント加えてくのも大事だと思うけど、例えば、俺数学とかは、それこそ数列、ベクトルとかは、俺、テキストだけで分かんないとこあったら、俺フォーカス解いてたし、足りないところは、自分で参考書とか使って補うのがいいんじゃないかな、多分。信じ過ぎもよくないと思う、正直。信じ過ぎもよくないと思う。90パー信じて、10パー疑ってたもん、俺。それがアドバイス。うん。普通に素直に指示してくれたやつやったら多分、合格できる力付くと思う。多分、代官山で浪人してる人、まあきつい思いしてる人もいると思うけど、楽しい人とかもいると思うんだよな。それ多分、遊びとかの楽しいじゃなくて、普通に勉強が楽しいって思うと思うんだよな、多分、割と。俺は全然苦じゃないし、楽しいと思ってたから、そう。それはあったかな。いや本当にお世話になりましたよ、本当に、まじで。俺。

卒業生が語る

合格への 軌跡2022年

WAY TO SUCCESS

日本大医学部	Ⅱ期2次正規合格
東京女子医科大	2次正規合格
岩手医科大医学部	2次合格
北里大医学部	2次合格
獨協医科大	2次合格
東北医科薬科大医学部	2次正規合格

「みんなの当たり前は自分の
当たり前のようにするっていうこと」、
それが多分、できたら
普通に受かります。

日本大医学部進学 川島綾美さん（白百合学園高校卒）

ここでの2年間は、自分を知る機会となった。

川島綾美です。2次合格したのは、東京女子医科大学、東北医科薬科大学、岩手医科大学、北里大学、日本大学、あと1個、あ、あと獨協医科大学です。で、最終的に進学したのは、日本大学です。私、2年いたんですよ、代官山に…。現役のときは、個別専門の塾に行っていて、でもやっぱりエンジンがかかるのが遅かったから、高3の夏ぐらいからやっと受験勉強始めて、そりゃあ理科も追いつかないし、数学ももうムリみたいな…。なんかもう個別いいやと思って、個別だけだと競争もないし、自分の位置もわからないし、だったら、集団だけど、いっぱいいると、自分が空気感に飲まれちゃいそうな気がして、適度に人数少ないし、ここ(代官山 MEDICAL)ちゃんとしてるって聞いていて、で、代官山来て。自分が受かるには、私あれやりました、あの、何だっけ、なんで落ちたかの分析をしたんですよ、4月に、多分、石井先生…に書いてって言われた、あ、あれをコピーして、自習席に貼ってたんです。私。(受験に)失敗した理由を、1年間ずっと自習室の机に貼って、恥ずかしいけど、でも、みんな同じだからいっかと思って。そもそも何かしら失敗してみんな来てるわけだから、だから恥ずかしいとかいう思いはなかったですね。自分への戒めとして必要なものだからって、思って。だから、なんで落ちたかっていうのを考えて、貼って、ぱって見たら、自分が落ちた原因が分かるみたいな。なんか、それが結構よかったです。またこれやってみたい、って結構思えたから。自分がその、行動面とも含めて、なんかやらかしちゃってところは、自分で客観的に見れる、なんか、去年、なんで受かんなかったかっていうのを書いて、貼ってみて、失敗の原因は、(日)「英語」みたいに、そしたら、ああ、英語やんなきゃみたいに思ったりとか、逆にあと、数学とか化学とか、まあ、できる科目も、なんで自分の何が足りなかったのかってとこ分析してたから、ああそこやろうみたいに思ったりして、だから、落ちた自分からちょっとでも変わろうっていう意識はありました、ずっと。まあでも、見られてくすって笑われるんだったら別にいいやんみたいな。笑われるぐらいだったらいいしって、さすがに2年目は思いました。この代官山での2年間って、なんか、自分を知る機会でした。なんで解けないのかって考えるときに、演習量が足りないのか、根本が理解できないのかって考えたり、自分はこういう癖があるから直さないといけないとか、そういうのを、全部この時期に、この2年間で学べて、で、すごい演習量こなさないと、確実に解けないってのが分かってきたから、先生に課題のプリントもらいに行ったりとかして、1年目よりがむしやらにやってみましたね。

1年目は、知識を増やすので精いっぱい、2年目になってようやく、自分を知って、なんか、点につながるためにどうするかって考えるようになって、できる人と同じことやっても、自分は一緒になれないから、自

分と似たような人とか、逆に自分がどうやったら点が取れたのかなっていうことを考えてやるってことが、結構、大切だと思いました。

自分の成績や勉強の進め方までも各教科の先生がみてくれた。

1年目、失敗した原因っていうのを考えたときに、やっぱり自分には英語が足りないんだなと思って、だったら、英語やないと受かんないし、なんならもつと他の教科も上げないといけないけど、なんか、苦手科目をどうにかこうにかするには、取りあえず前期しかないなと思って焦ってた時も、本当に、みんなに英語やれって言われて、先生たち。平野先生とか、石原先生とか、1年間、おまえはずっと英語をやれって言われ続けて。「生物なんて、そんなの後でいいんだから、英語をやんなさい」ってずっと言われました。悲しいぐらい言われましたね。生物やらせてってめっちゃ思いましたけど(笑)。生物は、知識が抜けないようにすることを考えて、ちょっとやらなくなると、すぐ知識抜けちゃったりとかするから、気を付けて、なんか先生に質問聞いたりとかして、あと、考えながら覚えられることとかは、自分で頭使って、どうやってやるんだろうみたいなことを聞いてましたね。なんか私、考察もともとすごい苦手で、その、生物って暗記科目だから、頭使うのがすごい苦手で、で、夏から考察メインでやって、最初のころは、解いてたときに、できなさ過ぎて、感覚で解いてたから、まず言って言われて、なんか、「どういう目的で、どんな動物で、どうやって、なんか実験してるのか」とか、で、「そっから分かることって何?」、「結果は?」とか、全部、1回言われて、「これを意識して解きなさい」って言われて、すごい時間かかるんですよ、1問解くの。なんか、最初全然、頭使ってなかったんで、まず頭使うところから始めたから、すごい大変で、でもなんか、慣れてきたら、割と何でも解けるんですけど、その、始めるまでがすごい時間かかる、慣れるまでは。でもなんか、いっぱい解かしてもらって、覚えてました、覚えてっていうか、どうやって使うのかって。

数学はまだましなほうで、英語とかよりもできる部分があって、ただ、変なところでミスしないように、計算ミスしないとか、表記ミスしないとか、そういう基本的なところの、なんか解けなかったことに対して、なんで解けないんだって思うよりも、ミスして、点取れる、点取れるはずの問題でミスしたときに、そこはちゃんと反省するようにしてましたね。なんかこれ、薄先生に聞いたら、「自分がどこで間違えるのか、1カ月間データ取って」って言われて、例えば、引き算で間違えた、移行で間違えた、とかいうのを、ルーズリーフに全部書いてって、1カ月後に、自分、どこで間違えやすいのかっていうことを、リストアップして、それを、マンスリーの前に、紙にマーカーで書くんですよ、気を付けることみたいな。で、それ見ながら、

マンスリーの数学の前にそれずっと見てて、よしって、おまえはここでミスるんだからと、自分に言い聞かして、やっぱり見直しするようにして、最後の何分か、絶対、全部、見直しに回すって決めてました。あ、9月頃からもう、9月のマンスリーが、個人的に一番やばいなと思って。で、すごい、なんか、取れるはずの問題で点を落としてるから、よくないなと思って、薄先生に聞いたら、なんか、「そうしな」って言ったら、次ちゃんと点が取れたんで。数学は、私ずっとテキストやってました。代官山のテキスト。代官山の前期の範囲のテキストをずっと繰り返しやってて、なんかあるたびに、試験前に、平パンに、「じゃあ一周やろうか」って言われて、1週間ぐらいで、1項から15項、第1集から第6集まで全部、回したんですよ。もう、吐くかと思って、でも、平パンがやれって言うてるから、やらないといけないしとか思って、分かんないところに付箋してみたいな。で、最後の3日、分かんないところ全部解いてってやってました。

石井先生からすごい衝撃だったこと、言われたこと、その面談したときとかなんか。

え、ちょっと、無理だったらカットしてください。「今の医学部合格スピードは平均は2.4浪だから」って言われて、「だから、そうならないように頑張るんだよ」って言われて、なるほどみたい。そうなんだって思いましたね。あと、そんなときか分かんなかったけど、石井先生に、「昭和第一志望」って言ったら、「ああじゃあもっと上目指さないと昭和には行けないね」って言われたんですよ。あ、そうなんだと思って、もうなんにも考えずに、ただ昭和に行きたかっただけだったから。面談のときに言われたんですよ、「人生、第二志望から」って。「第一志望に受かるために勉強する

と、大体、第二志望に受かるんだよ」って。「で、第二志望のキャンパス歩いてるんだよ」って言われて、実際にこないだ見返したときに、私、ここに(代官山MEDICAL)入るときに書いた第一志望が昭和で、第二志望が日大だったんですよ。ああ、言ったとおりになってる…、って。そうなんです。だから、ああ、すごーって。そっか、だから先生は、昭和に行きたいんだったらもっと上をって言ったのかって。第二志望が昭和になるようにしないといけないんだってことか。そこまで当てると怖いですね…。でもなんか、逆に石井先生がおっしゃったこと聞いて、そういうふうにしたから、私、今、ちゃんと受かってるなっていう実感はあります。みんな言われたとおりにやって、合格したって(軌跡に)書いてる人も多いから。本当にそれ体現できたって感じで。

受かるための秘訣は、3つ。(1) 朝早く来る、(2) 先生に頼る、(3) 苦手をつぶす、です。

1個目は、朝絶対来ること。もう本当に、朝、頑張ってる起きると、試験のときに、起きれるんですよ。

何時までに出ないといけなくて、何時に起きないといけなかったからって、目覚まし鳴って、ううって言って起きるみたい。それこそもう、試験中は疲れちゃって、なんかママに「大丈夫？」って言われちゃう、朝。でもなんか、分かっている、起きるからって言って、それでも起きてたのって、代官山のときに一生懸命起きてたから、起きることは大丈夫って自分で思ってた。朝、普通に起きれない人間が、急に試験期間中、そんな早く起きるって無理があるって、思いますね、その、朝起きて、勉強してっていうのが結構、良かったです、自分で。あと何だ、先生に頼ること？ やっぱり。いろんな先生の特徴があって、ヒラパンとか三井先生とか、石原先生って結構、プリントいっぱいくれて、それを解いてくスタイルで、私は演習量を絶対にこなさないと人と同じぐらい解けないって分かってたので、もう、本当に、三井先生とかには、プリント1枚のために質問行っていました。それぐらいなんかもう、ずっと、やってたし、ヒラパンとかも、「はい、じゃあ解いてきて」って言われて、「はい」つつって、分かんなかったら聞きに行っていたみたいな感じでした。でも、その、やっぱり、緒方先生とか、薄先生とか、ヒラパンもそうだし、ちゃんとやってる人は、頼りに行ったときに、ちゃんと、何だろう、返答してくれるっていうか、頑張ってるのを分かっているから、私がすごい勉強してるってのを分かっているから、先生も全力でやってくれる。…全力で返してくれるし、だから、それは本当に良かったです。先生の所、行って、で、まあ、すごいもう、どうしようもないときとかには、「先生どうすればいいですか」とかいう、すごい抽象的な質問をしても、ちゃんと返ってくるから、まあ、そういう意味では、もう困ったら本当にすぐ、先生のところ行くっていうふうにしてました。全力でやって、何が分かんないのかとか



ていうのもやってるし、もやもやして勉強ができなくなるほうが自分的に問題だから、「今、これが不安なんです」って言いに行く。本当にこういうところが分かってないだとか、まあその、本気でやったからこそ出てくる質問、本気でやったから聞かなきゃっていうふうに動けることって、多分、何となく聞きに来てる人って、周り見てるとたまにいたりするんすよ。なんかかんかしやべりに来てるだけじゃないみたいな質問してる子とかもいるし、なんか、今みたいに本気でやってるから、どうしても聞きに行かなきゃいけないんだっていうふうに思ってるっていうのは、やっぱ、そこだけ姿勢が違ったんだなって、よく分かると思う、そこは。だから数学とかも、1個の問題解くために、こうやって解けるのかな、ああやって解けるのかなっていうのを、自分の中で考えて、ヒラパンにもっていくと、「これどうやって解ける」って聞かれて、なんか、「私こうやって解いたんだけど、でもこうやって解ける気もするんだよね」みたいな話はしてました。そうですね。本当に、自分で考えて、ギリギリのところまでやってかないと、意味ないから。三つ目は苦手科目やることですかね。そうです。英語でした。もう本当に、多分、理系3科目で受かってる大学も、点数的に、正直あると思うんですけど、ただ、その、やっぱみんな都内いたいって思うし、いいところ行きたいって思うんだらって、私は正直、都内に残りたいって思ってたから、もうとにかく英語やんないの意味ないと思って、ずっと英語やってたから、なんか苦手科目を克服しないと、いい所には入れない。だから、自分がどこを目指すかは別だけど、割とフラットにどれも均等に取れてる子のほうが、受かりやすいです、どこも。それは、結構、思うんで、だから、苦手科目を克服してほしいです。

1年間がんばってこれた理由。

そうですね。あと、先生が、みんなを見てくれる。一人一人見てくれるっていうのがいいかなと思って、緒方先生とか、授業中、何回も目合うし、ヒラパンとかは、解きながら、解いてるときに、回って、「この解き方駄目」とか、だから、なんか、「これまた同じやり方で解いたでしょ」とか言われたりとかして、よかったですね。先生と距離が近いのがいいし、先生のほうから逆に見てくれてるんだと思って、うれしかったです。

大手とかになっちゃうと、講義して終わっちゃうことになるだろうから、見て回って、その場で指摘してくれることもないし、目合うこともないし。生物でも、テストゼミとかやっても、なんか点数微妙だしみたいな。マンスリーなんてもう微妙だし、過去問解いても微妙だしみたいなときに、緒方先生に、「なんかちょっとできないんです」みたいなこと言ったら、「大丈夫、できるから。自信持って」ってすごい言われて、なんか小テストでどんなに悪い点取っても、「大丈夫、あみ、できるから勉強して」ってすごい言われて、あ、なんか、

私、やり方間違っていないし、先生が「大丈夫」って言ってくれてるから大丈夫だと。やっぱりその、生物で点が取れないと、落ち込む自分もいるっていうのがあったんで。まあそうですね。だから、なんかもう、「大丈夫だよ」ってすごい言ってもらって、はいってそこで不安バーって流して、勉強してました。なんか緒方先生「大丈夫」って言ってるし、大丈夫と思って。三ツ橋先生とか、すごい英語できなくて、めっちゃ間違えてるのに、「まあここ合ってたからいいですよ」とか、なんか、偏差値50ちょいぐらいのマンスリーの結果とか持ってっても、「ああ、でもまあ必須とか取れてるんで、成長したんじゃないですか」とか、必ずいいところ言ってくれるんですよ。それで、ああ、英語頑張ろうとか、言ってくれる、なんか、思える、だから、1年間、頑張って英語勉強できたのかなって思います。なんか、ここが取れてないってのは分かっているけど、それ以上に先生に、なんか、できたところを言われると、苦手科目だったから、頑張れました、普通に。

前期は6時45分にタイムカード押してました。

やっぱり当たり前を当たり前にやってほしいかな。それですね。私が言いたいのは。なんか、特別なことじゃなくていいから、基本的なことやって、受かる、ですかね。それに尽きると思います。ヒラパンに、「当たり前のことはやんなさい」って言われて、「テキストやんな」って、「はい」つつつて。あとなんか、これ、ちょっと言ってきたんですけど、私、ヒラパンが毎回言う、数学のときに、「人として当たり前の行動」っていうのがすごく好きで、あ、人として当たり前の行動で何する、この図形に、どうやって線を引くって言われたときに、それができることが、受験で勝つための秘策だと思うんですよ。例えば、五角形だったら、じゃあ、代官山生だったら、コサイン5分のパイとか言えるよねみたいなこと言われて、出てこない、差つけられない。本当に、みんなの当たり前を当たり前にしてほしいなって。朝も、周りの人間がちゃんとこんだけ朝早く来てるんだから、私も代官山生として当たり前で、早く来ようっていうふうにして、結構周りからいい刺激もらったりするんで、なんか、宮本秀太郎くんとか、すごい勉強してるんですよ。できるのにすごい勉強するから、ああ、「(自習室)宮秀…いる、やろう」とか思って、本当に、やってました。逆に、周りからいい刺激もらってた、私は。特に2号館にいる人たちは、その気は強かったんじゃないかなって、自習時間終わりのチャイム鳴った瞬間、誰が一番最初に立つかみたいな。自分が一番最初に立つのすごくためらうみたいな。それぐらいの空気で、ずっとみんな勉強してるみたいな感じでした。なんかあんまり(自習中に)立つってことに多分、抵抗があったんだと思います、最初のほうはすごく。「みんなの当たり前は自分の当たり前のようにするっていうこと」、それが多分、できたら普通に受かります。

卒業生が語る

合格への 軌跡2022年

WAY TO SUCCESS

東邦大医学部	2次合格
杏林大医学部	2次正規合格
聖マリアンナ医科大	前期2次正規合格
獨協医科大	2次特待合格
北里大医学部	2次正規合格
愛知医科大	2次正規合格

難しい過去問が解けた、解けないとか、
本当、どうでもよくて。一番、マンスリー
の点数を命に生きてましたね。マンスリー
獲れないと、もう、人権なくなるっていう
気持ちでやってましたね、本当に。

東邦大医学部進学 宮本秀太郎君（青山学院高等部卒）

数学終わった瞬間、ああ、もう絶対受かったって思って…。

東邦大学医学部の宮本秀太郎です。えっと、出身校は、青山学院高等部です。1次受かったのが、日医、東医、東邦、愛知、北里、聖マリ、ええと、獨協…。それで、東邦が2次繰り上げで、聖マが正規で、獨協は特待で上位10名でした。あと、北里と杏林が正規で、愛知もですね、はい。東邦以外、全部正規でした。

でも、日医、補欠、あと10人ぐらいだったんで、東邦、回ってきてからも、日医、来るかなっていうラインだったんで、結構、惜しかったですね。東邦回ってきたのが、やっと3月28日とかで、本当、よかったです。1次受かったのも、うーん、“奇跡”っていうぐらい英語できなかったんすよ。過去問で、石井先生がよく、東邦の英語は、もう、絶対やれっていう教えだったんで、みんな結構、朝とかやってたんですけど、僕は昼休みを使って、食事をみんなと食べるの我慢して、自習で、1日大問1個、東邦の英語をやるっていうのを、毎日決めてやって、毎日ドリルみたいに、指示通り大問を縦割りやってたんで、東邦の英語は、めっちゃめっちゃ研究できてたんですよ。で、最新の過去問とかも、7割、8割ぐらい英語は取れてたんで、ああ、もうこれは、僕、英語は得意なほうじゃなかったんですけど、それでも、こんくらい取れるようになったから、多分、本番こんくらい取れば大丈夫だろうっていう、マインドはできてたんです。特に、本番めっちゃめっちゃできたのは東邦の数学、はい、本当にできて。数学終わった瞬間、数学、英語っていう、順番だったんですけど、数学終わった瞬間、ああもう絶対受かったって思って。

1浪してもっと頑張ろうっていうモチベーションは、結構、ありましたね。

受験勉強は、苦ではなかったですね。何て言うか、青学って、そのまま青山学院に進学するんですよ、結構。なんで、そこから出るって勇気要ることなんですよ。だから、それなりに、ちゃんとした志がないといけないっていうか、ガチで受験勉強しないと医学部に入れないと思ってたので、現役の頃も一応ちゃんと勉強して、まあ、でも、駄目で。もう1浪してもっと頑張ろうっていうモチベーションは、結構、ありましたね。同期の宮永さん(慶應義塾大医学部進学:宮永りか)もあつたんですけど、僕の姉が、今東邦の3年生で、姉の友達が、結構、代官山(MEDICAL)出身の人が多くて。代官山出身の人たちが「いいよ」っていうのを、姉からも聞いていたんです。東邦、結構、代官山勢、多いですもんね。なんで、まあ、1年頑張るなら、ここで頑張ってみようかなっていう感じでした。あと、同じ青学で、初等部からずっと仲良くて、大嶋が浪人決まったときも、「おれ、代官山にするわ」って言って、その大嶋(昭和大医学部進学:大嶋明仁)と、じゃあ、一緒にここで頑張ろう、みたいになってたんで。この1年は大嶋がいなかったら、本当に、結構きつかった。本当

お互い支え合って、切磋琢磨してたんで。そうですね、本当に彼なしではこの1年は無理でしたね。人付き合いは、せっかく1年、浪人させてもらって、こういう場所にいさせてもらえたんで、やっぱ、横のつながりを大事にしようかなと思って。大学に進学した後も、横のつながりで、いろいろ情報共有できたりしたりするんで。やっぱその、M1、M2の人たちとか、その友達とかは、よく仲良くしてましたね。なんか、1人でいても、やっぱストレスたまっちゃうし。やっぱ、いかにその苦勞を楽しくできるかが、浪人生活大事だと思って思うんで。月イチのマンスリーテストの終わった後とかも、友達同士で、こう、いろいろ、この問題あーだこうだったっていうやり取りしたり、M1の間島(東京医科大進学:間島 理)とか、西村(東京医科大進学:西村直記)とか、あと、林(昭和大医学部進学:林 靖衡)とか、林ノブですね。あと、平井(昭和大医学部進学:平井 豪)とか、日根野(順天堂大医学部進学:日根野龍)とか。そこら辺、結構、みんな仲良かったんで、そこら辺の、M1、M2の人たちと、みんなで丸付けとかしてたんで、終わった後。で、ここ解けたんだ、すげえ、みたいな話とか、ここ解けなかったのやばくね?みたいな話とか。もう、何でも言うんで。みんな結構、言いたいように言っていましたね。

現役のときは、国立の数学、東大とか京大とかの難しい問題を、じっくり解いて満足するみたいな…。

僕、現役のときは、数学はめっちゃめっちゃ勉強してたんですよ。でも、結局、現役はどこも1次通ってないんですよ。で、自分は数学できるって思い込んでたんですけど、やっぱ、ここに(代官山に)来て、最初のクラス分けテストでしくって、全然ダメで…。僕なんか、数学は難しい問題をじっくり解くのが好きだったんですよ。現役のときは、大手の駿台とか通ってたんで、国立の数学、東大とか京大とかの難しい問題を、なんか、じっくり解いて満足する、みたいな勉強ばっかしてたんで。数学好きになれたのは、そういう問題をやってたからっていうのもあったかもしれないんですけど、私立には全然、スピードとか対応できなくて。その、最初のクラス分け(テスト)で、めっちゃ量多くて、やっぱその、求められてるのが、数学力っていうよりかは、私立医学部には、対応の仕方があるんだっていうのを痛感して。難しい問題を解けたからって、マンスリーの点数が上がるわけでもないし、模試の点数も上がるわけじゃなかったんで。やっぱその、数学力と得点力は違うんだなって思いました。

あと、やっぱその、自分より全然数学できる人がいっぱいいたんで。本当に、西村とか高瀬君とか、最後の最後まで、この人に数学は多分かなわないなって思っていましたね。やっぱ、自分が得意だと思ってた科目も、上には上がいて。

小技とかテクを、教えてくれて、ここ(代官山 MEDICAL)が、すごくなってしまいましたね。

僕んそこ(青学)は受験のための高校じゃないんで、数Ⅲとか全然終わらないんですよ。なんで、難しい問題を解けば、どっかには受かるだろうって思ってたんで。やっぱ、その、受かり方を、知らなかったっていうのが、大きいのかなって思います。ヒラパン(平野先生)の授業で、その、「あのマンスリー見て驚いたでしょ、これが私立医学部だから」って言われて。ああ、やっぱそうなんだって思って。先生は、数学そのものっていうか、別解と、点を取るための方法って、別々に教えるんですよ。これは、マーク対策で、記述じゃ駄目だけど、点を取るには、こうやれば一番速い、みたいな、そういうの別々に教えてくれるんで。大手とかのやつは、ちゃんとした理論が通ってないと、許せない先生ばっかなんで。そういう、小技とかテクを、教えてくれたりしたのは、ここ(代官山 MEDICAL)が、すごくなってしまいましたね。やっぱ、点の取り方を教えてくれました、本当に。数学っていうよりかは、点の取り方って感じでした。

マンスリーはめっちゃめっちゃためになりました。

めっちゃめっちゃためになりましたね、マンスリーは。どのくらい解けてれば、今回は大丈夫なのかっていうのが、結構、本当に学べて。本番でも、全然解けない、全然むずくて解けない問題あっても、でもどうせ、みんなも解けてないから、ここは多分、やんないほうが正解みたいな。そういう取捨選択がめっちゃ練習できるようになって、点の取り方がわかった気がするって、本当に思いました。そういう意味で、それぞれの科目の学力を上げるだけでなく、得点競争力はすごくついたと思います。本当に、限られた時間で、もう、1



点でも多く取るっていうその、気持ちもマンスリーで芽生えて。クラス分けとかのときは、なんか、むずい問題あると思って、これ解けたら格好いいだろうみたいな、それでじっくり時間使っちゃって、で、結局計算も間違ってたって合ってたなくて点数が低い…。落ち込むマインドを改善できたんで、そのときの自分から、本当にめっちゃ成長してると思いますね。毎回、平野先生もマンスリー終わった後に、「ここは、飛ばして正解だったけど、ここは、やんなきゃ駄目だぞ」みたいな。結構、レベルに合わせてくれて。「お前は、ここは、やなくていいけど、お前はここは解けたほうがいい」みたいな。その、一人一人の、レベルに合わせたアドバイスとかをマンスリーで、そう教わってましたね。マンスリーの、その次の週だと、絶対に顔合わせただけで、「どうだっ」みたいな。「何点だっ」みたいな。聞いてくるんですよ。なんで、ちょっとそれは意識してやってました。自分以上に自分の成績のこと意識してくれるっていうか、「この科目やったほうがいいんじゃない？」みたいなアドバイスとかもしてくれてたんで。自分、化学と英語めっちゃ苦手だったんですけど、化学も、途中から、ほとんど上位とかになれたんです。化学は、三上先生でした。結構、はっきりもの言ってくれるから、あと、性格はちょっと普通に面白くて。最初、三上先生に、質問しに行ったりして。三上先生と話すために、結構、マニアックなとこまで化学やってたりして。「こんなのあったんすけど」みたいな。そういう話を、化学の知識とかを深めてたりして。はい。結構、三上先生のおかげで、化学はめっちゃ成長したかなって思いました。

先生たちから、こまめに成績や生活をチェックされている感じ。

校舎でもすれ違いざまに、ヒラパンとか、どうだった、みたいな。ちゃんとここできたのか、みたいなのがあったり、すれ違ったら何かしら言われるんで。結構、先生たちも、ちゃんと自分たちのことを気にかけてくれるっていう実感はめっちゃありました。全然自分と違う観点で言ってくれるっていうのは、ありがたいっていうか、ヒラパンとかは、なんかアドバイスっていうよりかは、作問者側の立場になって、「あ、これ出す、出したか」みたいな。三上先生とかにも、アドバイスとかもらってました。月1回面談をします、みたいな予備校とかはあったりするけど、うちの場合は、先生たちとの距離が近いから、わざわざこう、システムチックにしなくてもいいかなと思うんですよ。常に多分、石井先生が、一人一人の学習状況を把握されてると思うので、面談はそんな細かにしなくても、そんな時間があったら、勉強の面からサポートしてもらって、メンタルをフォローしてもらったほうがいいのかって思います。とにかく先生と距離が近い予備校なんで、各科目の先生の数も多くいらっしやると思うので、積極的に、まあ、利用するって言い方は悪いかもしれない

いんですけど、せっかくこういう環境にいるんで、どんどん、先生たちを使っていかないと、力は身に付かなかったのかなって思いますね。

高校とは雰囲気全然違いましたね…。

本当に全然違って、まあ、うちの高校は、まあ、取りあえず、試験前になったら、まあ、勉強するか、みたいな感じなんで。一夜漬け…。基本みんな遊んでるんで。あと、派手な人とかめっちゃ多いんで。そこら辺は全然、こことは違うなって思いましたね。代官山 MEDICAL に来ると、本気で勉強のことができるし、本気で、自分の一生懸命やんなきゃいけないことに、格好つけずにできるっていうか、ここ来ると、自分の実力がもう全部、周りにばれるじゃないですか。結構、その前の塾とかでは、自分のことを過大評価して言うてくる友達とかもいたんですけど、ここではそういうのは、やっぱり、通用しなくて。もう、点数が全てなんで、自慢したかったら、本当に点数を取るしかないんで。そこはもう、本当に実力がすべてっていうか、絶対何点取ってやる、みたいな、すごく点数意識が高まりましたね、ここ（代官山 MEDICAL）の中ではもう、点数が命なんで。石井先生も、θ（の授業）のときに、慈恵とかの過去問のここができたとか、ここではもう、難しい問題が解けたから価値が高いとかは、どうでもよく、「点数が全てなんだ」ってθの授業でおっしゃってて。本当にそのとおりだなって思っただけ。難しい過去問が解けた、解けないとか、本当どうでもよくて。結局マンスリー取れてないじゃんってなっちゃうんで。ここにいるときは、一番、マンスリーの点数を命に生きてましたね。もう、マンスリーも低くなったらもう、人権なくなるっていう気持ちでやってましたね、本当に。そんなくらい、本当に、マンスリーは頑張っていました。

英語なんかも、結構、青葉先生からプリントをもらって、そのプリントをめっちゃやったり、記述の対策をしなきゃいけないってなって、青葉先生と話して。で、その、記述の形式で出るのが、聖マリと、日医と、慶應とか、あと、大阪医科とか、で、青葉先生に、どの順番で記述の過去問を解くかを、決めてもらって、毎週添削してもらって。英作文や英語の記述式を、日本語で書いたり英語で書いたりするのを、もうどんどん繰り返すことによって、英語の記述力がめっちゃめっちゃ付いたんですね。青葉先生に、毎回その、コメントとか書いてもらって。めっちゃ良かったときは、結構、褒められたりしてたんで。「いや、良かったよ」みたいな。そういうのを、モチベーションにして。

優先順位をつける、とか取捨選択のマインドが身につきましたね。

問題の取捨選択も、極論言えば、優先順位を付けてるってことなんで。生活の優先順位とか、授業が多い予備校なんで、やっぱりできることは、限られてるんで。その、何に関しても、優先順位を立てて、やんなくて

もいいことと、やんなきゃいけないことをはっきり分けて生活するっていうマインドが、今の大学生活でもやんなきゃいけないことと、今は、まあ、いいんじゃないかなみたいな、そういうのの取捨選択も、結構、身についたかなって思いますね。授業中に、結構難しい問題とか入ってるときに、テキストに入っても、「これは解けなくていいよ」でも、なんか、「これは解けてね」みたいに、よく言うんですよ、薄先生とかも、授業中に、差が付く問題は、「差が付く」ってめっちゃでかい声で言うんですよ。なんで、そういうのを普段から、解かなきゃいけない問題と、解けなくてもいい問題と、解いたらアドバンテージっていう問題を、普段の勉強から意識して。やっぱりそれも、マンスリーで、問題配られて、試験開始で問題を見たときに、あ、これは絶対解かなきゃなっていうのを、すぐ、最初に決めるんですよ。で、解けなくてもいい問題は、もう、全然飛ばして。その、薄先生とかは、「俺がやりたいのは、君たちを上に乗らせることだから」みたいな。すごい、そのハートはとて、結構、薄先生めっちゃハートが熱い先生なんで、それはめっちゃめっちゃ、伝わってきて、本当に良い先生だなって思いました。

ルーティーン化で、自分の勉強のスイッチを作るのが、やっぱり大事な。

やっぱり、この1年で、自分なりに成績上げるためにどうすればいいのかって、試行錯誤とかしてきたんで、成長できたと思いますね。朝早く起きるのは、普通のへらへらした精神力じゃ、続かないもんだと思うんで、朝は絶対起きるんだっていう精神力の強さとかも、身に付いたかなって思いますね。医師の仕事って、とても感謝されて、とても尊い仕事だけど、その分、人の生き死に関わってくるから、つらいこともいっぱいあると思うんで、それに耐え得るだけの精神力というか、絶対救わなきゃいけない、だからこそ、結果出すためにどうすべきかみたいな、浪人生活は、医学部に受かるっていう明確な目標があるんで、その一つの目標クリアするのに、自分をやっぱり成長させなきゃいけないので。そういう考え方も成長できたかなって思います。浪人生活で、毎日決まったことを同じことするんですよ。やっぱり一番大事かなと思うのは、自分の場合は、コンビニでまず、おにぎりとかキリマンジャロコーヒをチャージしてから自習室行って、積分計算と英語の写経とかをして。それがないともう、1日の勉強が始まらなかったですね。やっぱり、勉強のスイッチを作るのが大事だと思うので、積分計算やってから勉強！やっぱりその、ルーティーン化で、自分の勉強のスイッチを作るのが、やっぱり大事な。

卒業生が語る

合格への 軌跡2022年

WAY TO SUCCESS

国際医療福祉大医学部

2次合格

杏林大医学部

2次正規合格

聖マリアンナ医科大

前期2次合格

愛知医科大

2次合格

みんながモチベになってた。
環境がモチベだった。初めてあんなに
ガチで勉強したし、
ちゃんとやったなって思う。代官山で
よかったなって思います、まじで。

国際医療福祉大医学部進学 益子友里さん（国府台女子学院高等部卒）

卒業生が語る

合格への 軌跡2022年

WAY TO SUCCESS

日本大医学部	I期2次合格
北里大医学部	2次合格
東北医科薬科大医学部	2次合格

僕は、勉強に、真面目に、
真剣に向き合えた時期だったし、
メンタルの弱さも自覚できたけど、
頑張ったら、ちゃんと結果が
出るんだなって

日本大医学部進学 井原幸佑君（川越東高卒）

寮で、メンタルを維持できた。

井原：1次合格出たのが、杏林、岩手、北里、日大、東北医科薬科。杏林は2次落ちで、それ以外は全部、受かりました。日本大学に進学してます。ちゃんと医学部医学科のほうに、アハハ、歯学部でもなく…。僕は全部、補欠です。

益子：益子友里です。国際医療福祉大学に入学しました。1次合格は国際と杏林と順天、あとは北里、聖マリ、愛知、かな、多分、6個。6個受かれば十分でしょ。でもまあ、順天は2次落ちです。で、最終合格は、国際受かって、杏林は正規で、聖マリも受かって、愛知も受かって、北里は、棄権しました、2次に行っていないです。

井原：正直、3浪ぐらいは覚悟してたんですけど、僕は。お父さんの病院の先輩が代官山にいたんですよ…。聖マリのパンフレット(入塾案内)に載ってた子です。聖マリに行った現役生かな。現役、秀明から。なんかその子のお父さんが、僕のお父さんの病院の先輩で。結構、代官山MEDICAL 厳しいけどって言われたけど、まあしょうがないだろうっていう感じで、親はもう、そこで決めろと。でも僕最初、学力的にやばくて、偏差値が42…。いや、全然できなかったっすよ、高3のときは。だからその、マジなんも分かんなくて。もう親はそれを覚悟しつつ、まあでも、一年で決めろみたいな感じで。1年目、寮に入って、世に送り出されたっていう…。

僕、やっぱり、合ってたというか、それこそマンスリーとかで結構、僕、お豆腐メンタルな、メンタルが弱いんで、すぐ、崩れるんですけど、まあそんなときは、すぐに寮に帰って、予備校終わってから、次の日まで1人の時間を確保していたので、メンタルを保つのは大きかったですね。それこそ家に親とかがいて、どうだったのとか、なんか、勉強はちゃんとやってんのかなみたいなことを、言われてる人もいるじゃないです

か。で、うちの親も結構、心配性なんで、いろいろ伝わってくところがあるので、寮にこもってたら言われないんで、メンタルは結構、崩れなかったっす。ずっとこもって、正月も帰りませんでしたし、友達とも会わずに、1年目は本当にメンタル沈んでた時もあるんですけど、本当にチャイム鳴った瞬間に帰って、頑張ってたときは、寮とかでもちょっと勉強したりとか。逆に9時半ぐらいに寝て、8時間ぐらい寝てくるみたいな。結構そういう、睡眠もしっかり摂れたり、時間を自由に自分で使えるのは、結構大きかったですね。本当、人として変わった1年でした。

環境は、受かるんだったら厳しいほうがいいと思います。

井原：現役のときは、メディカル●●に行っていました。うち(代官山MEDICAL)と全然違う、です。フフ。それこそ、僕は厳しくされたら頑張れるタイプだったんで、僕はメディカ●●ボよりこっちのほうが合ってたんですけど、メンタルが弱い子とかは、弱いっていうか、何ていうの、もう医学部辞めちゃいたいみたいな、親に医学部辞めたいみたいなことを言う人は、逆に、なんか過保護に細く長くやってたほうがみたくない、そういう派閥がメディカ●●ボにいましたけど(笑)、まあでも、受かるんだったら厳しいほうがいいと思いますね、絶対。

益子：なんか、私、メディカ●●ボの先生に、聞きましたよ。そもそも私、駿台通ってて、1年間。プラス、家庭教師を数学だけ取ってたんですよ。で、その人がメディカ●●ボの先生で、なんかその人から聞いてて、「いいよ」って。そうそうそう。「代官山、いいよ」って聞いて。

井原：え、ちょっと待って。メディカ●●ボの講師の人が、代官山勧めたの？



益子：そう、そう。家庭教師と掛け持ちしてたってことでしょ。家庭教師とメディカ●●ボの先生やって、その人。で、なんか、その家庭教師の教え子の生徒の中に、代官山に通ってた子がいて、それで、なんか厳しい塾探してて、どこですかって聞いたら、そう、代官山厳しいよみたいな。浪人決まったときに、やろうかなと思って見にきて。

井原：そうそうそう。いや、本当にそう、僕なんか、怠惰な一面が見えてたよ、先生には多分。こいつ理科全然やってねえ、うわ、こいつさぼってるわ、って。いや、まじでやばかった、来てよかった、本当に。1年で受かったら、高校の担任がビックリするレベルで…、そんなやばいんだってなって。

2年目は2号館からスタート。

井原：2年目からは、1年目の反省生かして、病む暇もなく、っていう感じでした。2年目は2号館からスタートできてました。今年は、マンスリーのランキングを見たら病むと思ったらもう見ないようにしてました、僕。マンスリーの後、自己採(点)みんなでしたときに、やばいかもと思ったら、ちょっと途中でやめて。でもなんか、それは病んでるんじゃなくて、ランキング見たら、なんか今頑張ってる自分がちょっと揺らいじやうから、そのままいったん見ずに、次のマンスリーまで頑張ろうと思ってやってましたね。良くも悪くも気持ちの上下する時があったから、自分の中で、今頑張ってるなってときはあえて(ランキング)見ないでいました。

一緒だった子が、同じクラスで、それこそ益子とかが、最初、A1一緒だったんですけど、ぽんぽんとクラス上がっちゃって。なんか、うわあ、これが1浪かあと思ったんですけど、でも、そこで負けるわけにはいかないからって、頑張って、最後、M5に上がったんで。ある意味、自信を持って、ま、入試直前期まで頑張ろうと思いました。



益子：私、2号館、ミヤシュウ(宮本秀太郎：東邦大医学部進学)と横で。ほんと、自習席の配置が結構、良かったですね。最初、M2の2人に囲まれて。で、私、A1で。くそ恥ずかしかった。めっちゃ恥ずかしかった。テキストも違うじゃないですか。で、それでそのテキスト、あ、こいつらなんか、やばいテキストやってるみたいな感じに思われるのが嫌で。なんかすっごい恥ずかしかったけど。でもだから、もう逆に燃えた。

井原：うん。頑張れたよね。

益子：ほんつとに燃えた。

井原：俺も、それこそ2号館なって、2年目上がった後に、あんまり僕、周りをつるまないようにしようと思ってたんですよ。

英語、ロッキー、めっちゃよかった。

益子：ロッキー(岩瀬先生)はまじでおすすめ、本当に。私、単語力なくて、ハハ。単語をとにかく語呂合わせで教えるでしょ、あの。耳に残る…。結構よかったかなって、あれ良かった、ロッキーおすすめ、単語力ない人には。

井原：そうだよ。しかも過去問の対策の仕方教えてくれるの、ありがたかったよね。やっぱこの大学の傾向はとか、いろいろ知れるし、めっちゃよかったです。説明も詳しいし。

益子：私、英作の対策もしてもらってました、順天とか。そう、上位狙ってたから。ちゃんと書けるようになりました。うん、面倒見めっちゃいい。めっちゃ優しいしね。

井原：これ、やらなきや駄目だよって言って、先生の持ってる、俺らにくれたプリントから、ここにあるでしょって、こうやって、しかも何回もやってくれるし、やったっていうのを繰り返してくれるから、なんか本当に、授業中にも覚えさせてくれるし…、先生のプリントを1枚ずつやってたら、量多いよね、いっぱい先生が作ってくれてるんで、飽きることない。しかも何回も同じことを次の週に行っても何回もやってくれるから。経験値だよ、絶対。

益子：経験値。いきなり過去問出して、ここが分かりませんって言うても、普通だったら、ちょっと待って言うけど、それがない。毎回なんか、すぐ、ああ、この問題ね、みたいな。もう何回も解いたみたいなテンションで来てくれるから、もう言ってること全部、はいつて、なるよね。そう、先生が過去問見て、ちょっと時間、5分ちょうどいとか言われることが全くなくて。質問行って、課題じゃない過去問出しても、ああ、これはね、みたいな。

井原：そうだよ。先生が持ってるプリントだから。何でも答えられる。

益子：そう。だからそのプリントのことだったら、もう何聞いても。何聞いても秒で答えてくれる。

その、マニアックなことも。

井原：しかも、多分、ラフな性格というか、陽気な感

じだから、なんか、これ聞いてもいいのかなというか、ちょっとややもやし過ぎてるなって質問も、結構、言えるんですよ。

益子：疑問点がなくなってくよね。マンツートか、取ったほうがいい。そう、あと英語って、時と場合によって点数にすごい差がある人とか、成績に波がある人は、多分それは、長文の読み方が分かってない人。だから、そういう人は絶対にマンツートで取ったほうがいいと思う。読み方が分かりました、本当に。

代官山の生物科、ほんと、やばい。

井原：代官山の生物科やばいよね。すごいよね。入試で必要な知識とか全部くれるし、しかも、考察とか、正直、入試っていうか、学校ではやらないような難しいことも本当に簡単に教えてくれるし。無駄がないし、分かりやすいし、面白いし。代官山の生物科、まじで全員、神だよね。

益子：やばい。代官山の生物科はやばい。もうド変態だよね。めっちゃいい。全員、神。ハズレがない。

井原：いや、ガチですごい、あれは。

益子：不安要素が消えた。なんか直前期に、忘れてそうところとか、絶対覚えてなきゃいけないところとかを、絵でばーって書いてくれたりとかするよね。だからまじで良かった、あれは。

井原：まあ授業中とかも。てか考察系も、なんか日本語とか、考え方から、一から教えてくれるってか、根本的な脳みそのとっから教えてくれるよね。

益子：うん。地頭がいいんだよね。FT(深瀧先生)はね。そうそう。

井原：そう。地頭はいいんだけど、それを地頭が悪い俺らにも与えてくれるというか。なんか、頭いい人をやってることを言語化して全部、言ってくれるから、すごかったよね。

益子：入試問題とか、そう、7択とかあるんですよ。で、それでなんか、大体の先生、これは明らかに違うねとか言うけど、FT(深瀧先生)は、これはここがこうやって書いてあって、ここがおかしいから矛盾する、だからこれは違うとか。もうめっちゃ言ってくれる。で、それで、後からやっぱ復習するときに考えると、ああ、やっぱそういうことかみたいな、めっちゃ、全部、教えてくれる。その選択肢がなんでこれがいけないのかとか、あと別に、その選択肢になくても、ここの文章は、なんかちょっと、ああ、これがあるからこうやって書いてある、みたいな、全部、教えてくれる。

井原：FT、授業中、1人ずつ指していくじゃん。で、なんか、まあ正直、覚えてなきゃいけないけど、結構みんな忘れちゃってるみたいなこととかあるじゃん。で、なんか、3人、4人当てて、分かんなかったら、確認するかって言って。

益子：そう、確認してくれる。

井原：だから、なんか寄り道しながら、俺らができてないところを、授業中に補填してみたいな。知識は、

少しあったとしても、考察できないとなーとか、いろいろ不安要素とかあって、俺、あんまり生物得意なんだとは言えなかったけど、めっちゃ自信持たせてくれるし、分かんないことも、めっちゃ的確に、これ分かんないんですよって言ったらすごい的確に教えてくれるから。

益子：そう、結構ありがたかった、まじで。

石井先生の授業はガチでした。

井原：めっちゃ、良かったよね。θの授業。

益子：うん。めっちゃ良かった。私、シータ、ガチ勢でしたよ。

井原：だよな。

益子：うん。私、もうシータ、とにかく本気でやってて、ノートをまず1冊でつかいの買って、そこに、コピー貼るんですよ、白文のコピーを貼って。予習の段階で、そのコピーが全部汚くなるくらい、もう全部、調べて、分かんない単語は。で、まず、1回目で普通に問題解いて、で、だけどたまに分かんない問題とか出てくると、その問題を、白文で、文の構造を調べたり、分かんない単語調べてるときに、それで答え導き出したりとかして、自分なりの解答つくって、授業に出席するんです。もうどこ聞かれてもいいレベルまで上げてから授業聞いて、まあ授業中のやつも、自分の、ノートに書き込むんですよ。復習のときに、シータのテキストに全部、写経、写すっていうのをやってて、1年間。だから、入試会場にもそのシータのテキスト持ってって。井原：俺も持ってきました。試験会場に。

益子：そうそうそうそう。いや、まじでθ…。シータ持ってって。うん、私もそうそうそうそう。

井原：シータはそれこそ、まあロッキーは、入試として問題を解くって感じだったけど、シータは、入試英語が全部、読めるっていう感じだったじゃん。頭から



尻尾まで。本当、全部、解説して、難しい単語も解説。背景知識まで解説だから、例えばどっかの過去問、シートでやった過去問見たときに、全部、分かるんですよ。分かんないものがないから、入試会場ではそれが不安になんないじゃん。

益子：シート、ガチ勢だったから、英語もめっちゃ伸びました。

井原：うん。俺も1年間ずっと前、座ってたよ。意地でも前、座ってたな、1列目。1列目だった。確かに結果出てますからね、俺らのクラスの1列目、みんな日大ですからね。一緒に1列目座ってた、アオバ(日本大医学部進学:佐々木青葉)ちゃんとトモヤ(日本大医学部進学:渡邊智也)と俺で。一緒に。一緒にA1からM5に上がって、みんな日大入った。

益子：確かに。すごい。

井原：いやー、本当に。でもM5空気良かったです、正直。ヒライ(昭和大医学部進学:平井豪)、あと俺でしょ、あとあれでしょ、ヒノキ(防衛医科大進学:檜康友)とかもいたし。あとアオバちゃんもいたし、トモヤもいたし、タケダ(昭和大医学部進学:武田真輝)もいたか。結果として、結構いいところ受かってる人、多いんですけど。直前期でも、なんか授業中、笑ってたし、難しい問題とか数学のときも、みんなで競争し合いながら、やって、入試1週間前とか、そんなときの数学も、みんなで和気あいあいやってて、なんかいいクラスだなーって思ってたから、結局みんないいところ受かってたから。最後の最後まで気を抜かずに頑張ってたクラスだったんだなと思いました。授業もみんな切んなかったし。全然、切らなかった。本当、最後の最後までいて、それもよかったというか。なんか自分でやりたいことあっても、やっぱ授業は出たほうがいいと思ってたんで授業出ようって、宿題とかやってても出てたんですよ、そうするとみんないるから。全然なんか、ストレスというか、焦りにもならず、本当、一回も授業切んなかったな、そういや。

益子：私も切ってない。

井原：だよな。いや、ぜってー。切らないのはなんか、なんか大切な気がするわ。

益子：うん、私もそう思う。切ったら私、偏差値5下がると思ってさ。フフ。

代官山のテキストを詰め込んで入試に行ったら、ぽんぽんぽんと1次が…

井原：僕は、まあ代官山では、それこそ朝来て、夜帰って、最後まで残って。でもなんか、代官山に飲まれたほうがいいというか、それこそ、石井先生が授業中に、人間関係のこととかも言ってくれるんで、おかげで、変に人間関係で悩むことなかったし、朝のこととか勉強のこととか、いっぱいいいこと言ってくれるんですよ。あと、栗原先生も、授業中に勉強法とか、そういうこと言ってくれるんですけど、先生たちが言ったことを、丸飲みして、先生が言ったことをやって、悩んだら質

問に行ってっていう生活をしてれば、そっちのほうが、マンスリーとかで落ち込むこともあるけど、次に切り替えやすいし、僕、結構、2年目、成績は、A1からM5で、結構、横ばいだったんですけど、ちゃんとやってた分、最後のマンスリーが終わった後に、今までやってきたことの大きさというか、それこそ過去問解き始めたときに、ああ、これやったことあるわ、これ前期やったわっていうので、思い出しやすいし、直前期、俺なんか、電車の中とかでテキスト開いてたんですけど、逆に時間的に限りがあるからこそ、全部最後に、頭に入れなおして入試に臨めるって思えたんで、それは最後大きかったかなと思うし、実際、最後の最後まで代官山のテキストを詰め込んで入試に行ったら、ぽんぽんぽんと1次が、3、4連チャンぐらい出て、だいぶ自信になったんで、本当、入試が終わるまで、今までやってたことをひたすら繰り返してれば、全然受かんない所にも手が届くようになるなあとと思いますね。益子：やっぱ受験って、もう夏。本当、夏が勝負って言われるけど、私、夏までが勝負だと思ってて。前期と夏、いかにやったかで、結構、(合否の行方が)決まると思うから、そこはガチでやってほしいし。あとは何だろうな、自分なりのルーティーンは作ったほうがいい。決まりごととか。ルーティーンって言ったらあれだけど、毎朝、下のコンビニで、ひじきと、チョコラBBっていう2種類を買って、それが私の朝ご飯って決めて、食べるものはもう決めてる、悩む時間をなくすっていう、それを食べると1日始まるみたいな感じで決めて。で、夜はなんか、夜9時半に、はい、(自習室)閉めるよって言われたら帰る準備始めるようにするとか。あと、そう、試験会場に、各教科1個ずつ持っていけるような、まとめの感じのものを1個つくるっていうのは決めてたし。そういうのが大事だと思います。

代官山は、はじめてガチになった場所。

井原：僕は、勉強に、真面目に、真剣に向き合えた時期だったし、自分のまあ、メンタルの弱さも自覚できたけど、頑張ったら、ちゃんと結果が出るんだなっていうのを、知ることができたという感じですね。本当に、結果が出たんで。合格したから、それはそうなんですけど。全然、勉強できないところからいろいろ悩んだけど、ひたすらやって、結局、受かったっていう、その一連の経験は、すごいいいものです。いいものってか、うん、いろいろ今後の人生にも役立つ経験にはなったと思います。

益子：私は、初めてガチになった場所です、でしたね。今まで結構、学校のテストとかも、一夜漬けで、何とかなっちゃうタイプの人間だったんですよ。一夜漬けで普通に、クラスで、まあ、1番か2番は取れるくらいで。そう、だからなんか、そんな感じに考えてたんですよ、医学部受験も。まあ、直前にやれば、どうせ私だから受かるっしょみたいな、変な安心感があったけど、全

然違って。現役でやって、で、だから代官山きて。ここ来ると、なんかもうみんな勉強する環境だし、ガチだから、あ、やらなきゃってなって。しかもそれがずっと続くから、1年間、本当、みんながモチベになってた。環境がモチベだった。だからすごい、初めてあんなにガチで勉強したし、ちゃんとやったなって思う。代官山でよかったなって思います、まじで。

井原：みんな等しくつらいから。競争だよな。

益子：競争。なんか1個の社会だからね。医学部しかないから、みんな医学部目指してるから、みんな医学部行きたいから。なんか同じところ目指してると、やっぱりすごい、あ、こんなにやってて、私やってなかったら、私、落ちるわとか思うし。そうそう、勉強も学んだし、いろんなこと学んだ、人間関係とか。それが良かった。

井原：ちょっとさぼったらクラス落ちたりするしね。なんか、ちょっとこいつ頑張ってるなと思ったら、ちゃんとクラス上がったりするから。

益子：そう。実力社会だっていうことを、学びました。

2次試験の大切さも。

益子：ヒロさん(小論文科：高橋浩先生)。ヒロさんは取ったほうがいいね。フフ。ここは1学期から、2次徹底してしてるけど。

井原：ああ、取ったほうがいいね。あれは。なんか面接。めっちゃ大切だと思います。勉強はガチでやるけど、それプラス、やっぱヒロさんの言ったことを、どれだけ再現できるかっていう感じ。

益子：そう、だからヒロさんはね、面接で困らなかったですよ、何聞かれても全然いけた。

井原：それこそ、変に、俺はこうしたいほうがいいんだろうとか悩むことなく、ヒロさんが言ったことをそのまま入試の2次のときに出せば、相当アドバンテ

ージになる、て気がする、俺は。

益子：受かるよね。そうそう、思う。だから、補欠も出たし、正規も出たと思います。

井原：それこそ数学とかむずいときに、取れるとこだけ取って、ちゃんと2次でちゃんと決めれば、補欠が回ってくるから。そう、多分、2次が大切なんだろうなーと。あ、俺、2次で褒められたし。北里で褒められたから。なんか、北里、数学むずいじゃん。だから俺、最低限しか取れなかったんだけど。その代わり、2次褒められたし、小論文も、医療系の、コロナのトリアージの話だったから。まあ、代官山の考え方をそのまま、800文字か、最初から最後まで一貫したことをばーって書けたから、本当。

益子：ヒロさんね、あれ、自分の経験に落とし込むっていうのが、大事。結果的に順天は落ちたけど、でもなんかその、面接の担当の先生に、すごいいい小論文でしあって褒められたから。そう、面接で褒められたんですよ。印象いい。2次は大事。

井原：2次は大事。



卒業生が語る

合格への 軌跡2022年

WAY TO SUCCESS

昭和大医学部	1期2次正規合格
帝京大医学部	2次正規合格
東北医科薬科大医学部	2次正規合格
日本大医学部	1期2次正規合格
北里大医学部	2次正規合格
岩手医科大医学部	2次合格
杏林大医学部	2次合格

間違いなく夏ですね。

夏、思いっ切り突っ走ったおかげで、
さぼりなかったおかげで、もう受験のとき
には、もう俺より夏頑張ったやついない
だろうっていうマインドで臨めてたので。

昭和大医学部進学 大鹿颯大君（青山学院高等部卒）

やっぱり他人と同じ量やってちゃ駄目だなんて
思っ

浪人が決まって、友達に紹介されて、同じ青学の大嶋君（大嶋明仁君：昭和大医学部進学）に紹介されて来たって感じ、で、現役のときも医学部は受けましたが、生物は全然、履修してなかったの、帝京だけ3教科で受けられるっていうので受けたんですけど。3日間受けて、3日とも落ちて。それで生物も初学から頑張ろうって、こっちに来たって感じです。偏差値生物38。はい、もう40切っちゃいましたね、一回目のマンスリー。クラスでいうと、Aの9ですね。A9スタート。もう、やば、素直にやばいなんて思っ。めっちゃめっちゃ焦ったし。でも現役のとき勉強しなかったなとは思ってたので、妥当っちゃ妥当なのかなとも思ってた。自分だと、最初、もう2年ぐらいかかるなと思っってたんですけど、マンツーマンでいろんな先生に、マンツーマンで励ましてもらったので、もう6月、5月ぐらいから、もう今年で決めるかって、決めよって、ちょっと思い始めて。頑張ってた。それ、5月ぐらいにはもう思っましたね。マンツーマン、三井先生、岩瀬先生、あと石原先生か。生物ちょっと厚めには石原先生に見てもらいつつ。生物は初学だったので、やっぱり人よりやんないといけないうって思っ。英語も、自分の中で苦手意識があったので、たくさん取るようにはしてたって感じ

です。まあ、A9で、始まって、マンツーマン取ろうと思っ。きっかけは、もう普通に、単純に焦りもあるし、だから負けちゃいけないなとは思っ。過去に受かった方たちが、そのクラスで、まずは自分のクラスで1位になるようにっていうことを目標に、まあいろんな方たちが言っ。自分もそうなるためには、やっぱり他人と同じ量やってちゃ駄目だなんて思っ。いろんなマンツーマン取って頑張ってた。毎日、何をやればいいのか、どれくらいやれば1年で受かるのか、全然わからなかったんで、とにかく信じて、ここ信じてやってみようって、集団+マンツーマンで、大体、1日5コマとか6コマやって、1学期きつかったんですけど、なんか終わってみると、なんかあつという間ででした。なんか2年目になったらもっと辛くなると思っ。今年で決めるには、やっぱり7コマぐらい入れて頑張んないとなんて思っ。で、7月8月の夏期講習は、もっと（授業を）ツメツメにして、夏の単科やマンツーマンも取って、代官山（MEDICALの中）で1番取っと思うんですけど、もうそのときは、辛いなとか思ったりしたんですけど、ただ成績が付いてきてたので、まあそれで何とか、自分を励ましつつって感じで頑張りました。そしたら、マンスリーで、化学とかはランキング載ったりしたんで、で、お前はできるみたいなことをいろんな先生から言っ。すごい自信になったって感じ。やればちゃんと伸びる子だみたいな感じで言っ。そこは自信になりました。でも、数学は、結構アップダウンが

激しくて。夏明けとかは、もう本当に18点かなんか取っちゃって、計算ミスがやばくて、で、いろいろ落ち込んだりもしたんですけど、いろんな先生に励ましていただいて、アップダウンの理由とか分析してもらって、質問とかも行けたので、なんか分からないなうって思っ。その日のうちには解決するようにはしてました。授業終わったら、講師室に行っ。質問してました。極力、自分で解決するタイプだったんですけど、自分で解決できないようなところは行っ。あとは、基本的に授業終わったらすぐマンツーマンだったので、そのマンツーマンで聞いたりっていうことをしてました。夜はもう帰って、すぐ寝る、って、結構、過密なスケジュールだったので、夜勉強してたらもたないなうって思っ。夜は帰って寝るようにはしてました。

朝は、あの、本館始まるのがちょっと遅いんで、2号館よりも。7時ぐらいに来て勉強してました。時間に関しては、ひたすら厳しくって感じでやってたので、自分に厳しく、周りから驚かれるぐらいやんないと、やっぱり、驚かれるような位置には行けないうって思っ。やっぱ、そんぐらい頑張っ。クラスも上げてってやっ。かかないといけないうって思っ。たので。

やっぱり自分、さぼっちゃう性格だなんという
のは何となく思っ。て。

最初のほうは、自分のクラス以外、そこまで意識せずに、まずはこのクラス（A9）で1番になるんだっていう気持ちでやっ。たんですけど、A9の中でも1番取れなくて。やっぱりすごいやついるなうって思っながら、上のクラスにすごい人がいたり、毎回ランキング載ってる人とか見たりして、そういうので刺激受けたりしてたんですけど。序盤のうちは、やっぱりおんなじクラスの人たちを目標というか、ライバル視してやっ。ました。同じ高校の、他に2人、宮本君（東邦大医学部進学：宮本秀太郎）と大嶋君がいて。M2とM4で、最初スタートしてたんですよ。自分だけA9で。でも彼ら、現役のときものすごい勉強してたのは知っ。たので。まあ、やっぱそこを最初から目指してんのはおこがましいかなとも思っ。たので。やっぱり、まずは自分と同じぐらいのレベルの人たちを、まあ倒してって言うのもおかしいですけど、まあその人たちに成績で勝てるようにして。で、だんだん、あの、総合ランキングとかでも近く、大嶋とかとも近くなったりはしてた。結局、勝てなかったんですけど、目標を変えつつって感じで頑張っ。ました。やっぱり自分、さぼっちゃう性格だなんというのは何となく思っ。て。前期のあのスケジュールでも、空きコマあったりすると休んじゃうときとかもあったんですよ。そういうのが自分で分かってきてたので、単科取る時期には。だから、もうそこは、自分に厳しく行こうっていう。授業は、基本的に、もう前期は一番前で全部、受けてって感じで。夏期講習のときは、単科とかだと2号館のすごい人

ちが来てたりするんで。ちょっと萎縮して、真ん中とか後ろのほうで受けちゃったりしてたんですけど。それでも頑張って、集中して受けようとは思ってました。自分のためなので、そこは集中してって感じで。先生変えたりすると、なんか自分は、なんか教え方とか変わっちゃったりすると混乱しちゃうタイプなので。で、あの前期で、もう各先生が、付いていけば大丈夫って言うてくれたので。じゃあもうそのまま付いていこうって感じで、信頼して取ってました。もう今年受かるって決めてからは、あいつら倒すぐらいの、レベルに持ってかないといけなくなってるって思ってたんで。もうそこからは自分の芯を固めて、勉強だっけ決めて頑張ってた。

A9 から A6 にあがってみて。

いや、もう嬉しかったっていうか、安心しました。やっぱり一番努力した自信はあるし、一番成績も、まあ A9 では取った自信はあったので。で、最終的には 2 号館に行くつもりでいたの。まず A9 から A6 に上がって、A6 から、できれば A3 に行きたかったんですけど、まあ A4 で。まあ、最終的に 2 号館に行ければいいなって思ってた。ペースとしては、なんか、安心、もう今、あ、順調に行ったなみたいな安心感のほうが強かったです。でも、付いていけるかなっていう不安は若干ありました。メンバーもがらっと変わるし、A9 で一緒だった子は一人もいなかったの、不安は若干あったんですけど、また新しい知り合いとかもできて。で、また目標とかもできたりしたので。それは、それはそれでまたよかったかなって思います。先生もいろいろと変わっていいこともあって、薄先生の数学とかは、なんか小学生みたいな解き方でも、なんか解けちゃったりする大学入試の問題みたいのを紹介してくれたりし

てて。あ、こういう考え方があるんだみたいな感じで。なんか新しい発見がすごいいっぱいあって、すごい分かりやすかったです。そういう意味でも、やっぱり単科ってためになったっていうか、普段、見られてなかった、いつもと違う教え方、自分に合う先生が見つかるって感じがしました。本館と 2 号館の先生は違ったりすることがあるので。単科とかで 2 号館の先生とかに触れて、ああ、こういう教え方する先生がいるんだみたいな感じで、刺激になったりもしたので。そこでまた、この先生いいなって思ったりもして。夏までに全部の穴をつぶしたかったし、受験に必要な範囲の履修を完結させたくて、なんか、本当に魅力的な先生ばかりで。もう全部、取りたいって感じだったので。もう貪欲に取りに行きました。そうです。そこはもういろんな先生に言っていたし。やっぱり、本当に自分はさぼっちゃうので。まあ取って後悔するほうがまだいいなって思ってた。

A6 から、さらに A4 へ。

はい。なんか A3 じゃないなって思ったんですけど。でも、なんか自分と同じ、ていうか自分よりもすごいなと思ってたライバルも A4 で。まあ彼が高瀬君(獨協医科大進学:高瀬穰)なんですけど、高瀬が A4 にいるんだったら、もうそれはしょうがないなって思えて。そこは、また逆に高瀬と一緒にしたので、じゃあそのまま高瀬を目指して、越えられるように頑張ろうって、そこは切り替えて頑張りました。やっぱり、A4 とかになると、もう知らない人とか、全く顔見たことない人とかもいたので、そこは不安はあったんですけど。まあ生物とかの知識だったら、勝つ自信があったので。そこは挑戦的な気持ちで、もう頑張ってた。8 月 30 日か 31 日ぐらいに行われた河合塾記述模試で、偏差値 76.6 かなんか取って。なんか 1 桁ぐらいに入れたんですよ。そこで、ああ、やっぱりできるかもしれない、行けるかもしれないなって思ってた。で、マンツーマンでも石原先生に、もう「1 位を目指せ」って常に言われて。十何位とかでも、あれ、1 位じゃないんだみたいな感じであられたりしたので。あ、目指せる、自分でも目指せるんだって思えるようになって。最終的には本当に一番自信のある、得点源にできる科目になったかなって思います。

でも、2 学期は、疲弊はすごくしてましたね。でも周りも、その分、頑張ってたんで。もう後は少しだから乗り切ろうって感じで。もうそこはみんなで支え合いながら頑張りました。挨拶、会う人みんなと、あとちょっとだから頑張ろうみたいな感じで。励まし合いつつっていう。そうですね。生物とかは、なんかクイズとか出し合ったりすると楽しかったんで。他の生物の人と、話し合ったりは、問題出し合ったりはしたんですけど。基本的には 1 人でやりました。ここの代官山の自習室、やっぱり集中できる、めちゃくちゃできますね。もう、何なら昭和にも欲しいぐらいの。勉強ス



ペースあるんですけど、なんか1年間ずっと代官山で勉強してたんで。ちょっと染み付いちゃったかなってというのが。みんな、周り、もうものすごく集中してて。机から離れないので。自分もなんか、これ、離れちゃいけない雰囲気だみたいな感じ。もう集中できるっていうので、ものすごくありがたかったですね。

最後のクラス分けで、最後、なんとA1に。

2学期入ってからは、本当に、自分でも、成績的にも、まあ落ち着いてはいるけど、A4で1位ではないかなとか思ってたので、やっぱ高瀬のほうがすごいなとは思ったりもしてて。でもタカセと2人でA1に行けたので。まあ行ったからには、もうやるしかないって感じで。タカセは本当に数学がものすごく、数学と物理がものすごくできて。まあ自分は、なんか全ての教科、まあ基本的に平均的で、まあ理科でアドバンテージ取ればいかなぐらいのマインドだったんで。まあ、そこはもう個性の違いというか、まあそういうもんだなと思って、自分の中で片付けて。まあ、取りあえず2号館に行けたので。うれしかった。2号館行ったとき、やっぱめっちゃうれしかった、いや、もうものすごくうれしくて、舞い上がっちゃいました。あ、2号館に、取りあえず行けたって思って。やっぱ目標にしてた、2号館は。そうですね。もう取りあえず医学部受かるためには2号館に行けっていうのは、山室先生から、石原先生からも、もう年中言われてたので。もうなんか変な知識とか、特に石原先生とかに言ったりすると、なんかコアな知識とか、本館なのにみたいな感じであおられたりしたので。じゃあ2号館行ってやんよみたいな感じで頑張ってたので。ようやく報われたって感じで。

2号館に行ったので、もう医学部はどこか引っ掛かるかなっていう自信にもなったので。そこは本当に、やっぱ大きかったですね、自分の中で。

2学期進んでいって、「面接」も意識するようになって。

面接対策もとくに、2学期、意識してました、2回に1回、2週間に1回の授業だったので、負担にもならなかったし。で、何だかんだ浩先生（高橋浩先生）のマンツーマン取ってたおかげで、1次合格した所、多分、全部2次受かってるんですよ、最終的に。だからありがたかったなって思います。なんか、こう、「こういう質問がくるから、なんか、どう答える？」ってまず最初に言われて。自分の答え言ってみて、ああ、これはこう言ったほうがいいのか、そういうふうに直してくれるので。ある程度、自分の答えがある中で、その、まあ修正できたかなって。正しい方向に持ってくれたかなっていうのはあります。固定化され過ぎちゃうと、なんかそっちに寄らないといけなくなっちゃって、自分の言いたいこととか、なんか言えなくなっちゃうみたいなことがあるんですけど。やっぱり自分の持ち味

みたいなのはちゃんと保持しつつ、修正してくれたので。そこはありがたかったですね。

マンツーマンは、一緒に伴走してくれている感じがよかった。

岩瀬先生はもう。暗記の仕方とかを、結構、面白く教えてくれたりして。なんかダジャレとか、そういうのをういて教えてくれるので。自分の知ってる知識とかぶつけると、あ、これも知ってるんだみたいな感じで喜んでくださるので。すごい嬉しいなと思ってどんどんやれたりして。楽しくマンツーマンできたかなって思います。マンツーマンって、前の予備校とかだと、なんか結構、きついなとか、勉強って感じだになって、集中して疲れるなっていうイメージだったんですけど、代官山のマンツーマンって、特に岩瀬先生とかを筆頭として、あまり疲れない。あんま疲れたってイメージのない、ちゃんと勉強はしてるんですけど、結構、楽しくて。で、それでいて身になるっていう。すごい良かったなって思います。もうレギュラーと同じぐらい大事だと思って、本当に一緒に伴走してくれてる感じがあったので。結構、悩みみんな一緒なんだなとか思えたりもして。そういう意味でも、本当にマンツーマンは大きかったですね。受験期は、とにかくもうやれることはやったつもりではいて。で、自分の中でも、どこかしら受かるなとは思ってはいたので。うーん、とにかく睡眠時間とか、計算ミスとかをしないように、落ち着いて臨めるようにやってみました。帝京の2日目で、岩手の1次来たよみたいな感じで親に言ってもらえて、じゃあもう、これは自分、行けるやみたいな感じで。ちゃんと受かってたので。ああ、こんだけできてたら、やっぱ受かるんだって思い始めたら、そこからはもう落ちることなく、もう、ぼんぼんぼんぼん受かってたので。



夏くらいに、昭和受かるかもって、予言された。いや、間違いなく夏ですね。夏、思いつ切り突っ走ったおかげで、さぼんなかったおかげで、もう受験のときには、もう俺より夏頑張ったやついないだろうっていうマインドで臨めてたので。あの夏がなかったら、多分、気持ち的にも負けてたと思うし。やっぱ単科は、夏びっしり埋めてよかったなって思います。配分とかも、やっぱ先生がたは分かっているの。どういうペースでやればよかったっていうの。それぞれもう従ってやってだけで、自動的にもう受かったって感じなんで。「大学生活、今、寮生活なので。めちゃめちゃ楽しいです。今は昭和、昭和1年生、寮なんで。富士吉田のほうで、生活してるって感じで。薬学と同じ部屋の人、歯学部と、看、あと、薬学部と、あと同じ学部、もう一人って感じ。男子寮、やっぱ看護とか、そういう系は少ないですね。理学、作業も。」昭和行ってよかったっす。あんだけ帝京、帝京言ってたけど、昭和来てからは、いや、まじで来てよかったなってすごい思うし。めちゃめちゃ今、だから父親に感謝してますね。まさかの2次正規で合格して、石井先生にも報告行って、行ったらものすごく喜んでくれて。あ、もうまじで嬉しいなって思って。石井先生の授業は、前期は、一番前で、もうずっと受けてて。結構、小ネタとかも挟んでくれて、面白くて。その小ネタとかも全部メモしましたね。なんか、この話、面白かったよみたいな感じで。入試の前とかそれ見て、あ、こんな話あったなとか思ったりもして。やっぱ先生、いろんな合格者見てきてるし、いろんな受け方みてるから、それこそ過去の先輩たちの話とかもしてくれて。結構、面白かったの。で、模試とかも、去年の人たちの成績とかも開示してくれて。あ、ここ勝ってるとか、ここ負けてるみたいな感じで。でも、そんな自分と変わってるわけではなくて。だから、あ、じゃあ今年やっぱ行けるなみたいな自信にもなったし。夏くらいに、石井先生に何か質問に行ったときに、君、マンスリー200超えたね、みたいな感じで、話してもらって、夏前ぐらいに超えたんですよ、1回。で、先生に、石井先生に、じゃあ昭和狙えるんじゃないかと言っていただいて、今思うと、なんかものすごい予言されてたなと思うんですけど。実際に、その通りになって、今、結構びっくりしてます。先生、予言もうめちゃめちゃ当たりますよ、もう。ここ受かるとか、受からない、きっぱり教えてくれる本当に、うん。もう合格させてきた数がすごいから、はい。

振り返れば、結構楽しかったかなって思います。きつかったですけど。

知り合いとかも、ライバルとかも増えて、この人に勝てたとか、この人には負けたみたいな感じの関係性とか、勝負してたりっていうのは、結構、面白い感じでした。やっぱ代官山のランキング形式って、そういうのも含めてると思うんですけど。振り返れば、結構、楽しかったかなって思います。きつかったですけど。

ど。医専だから、やっぱ、同じベクトル向いた仲間がたくさんいるっていうか、その知識知ってるなら俺も覚えなとかな、とか、なんかそういうふう刺激合えてよかったです。あいつは、英語ランキング載ったんだ、負けらんないみたいな感じ。代官山来てよかったなって、まあ、全体を通して、前行ってた予備校よりも、質は高かったなって思います。

自分は、できないって思っちゃうと駄目なので、もう本当に、自分できるって思って、諦めずにやり続けるっていうのが、一番大事なのかなって思います。やっぱ自分に自信をつけるっていうのが一番大事かなっていうふうに思うので。その自信つけるときって、まあちっちゃい目標でもいいんで、多分、まずは、理科取るとか、自分のクラスの中で1番取るとか、少しずつ伸ばしていけばいい。俺はマンスリーが自信になると思ってたので、マンスリーで取るためにはまず考えて、自分は理科得意だったし、だから、まあ理科、頑張る。で、英数も、その空いた時間に勉強して、マンツーマンとかでも勉強してって感じで、そういう、自分の中でこうすれば点が取れるみたいなビジョンがあったので。そういうのが見えてくれば、多分、大丈夫なんじゃないかなって思います。

卒業生が語る

合格への 軌跡2022年

WAY TO SUCCESS

東京医科大	2次合格
愛知医科大	2次正規合格
北里大医学部	2次正規合格
岩手医科大医学部	2次正規合格
聖マリアンナ医科大	前期2次合格

代官山 MEDICAL で、友達できて、
気分転換にもなって、
競争相手にもなるんで、
友達いるって結構大事だなって。

東京医科大進学進学 西村直記君（西武学園文理高校卒）

卒業生が語る

合格への 軌跡2022年

WAY TO SUCCESS

順天堂大医学部	2次合格
東京医科大(共テ)	2次合格
杏林大医学部	2次合格

僕でも、理転して
1年で医学部に行けた
”環境”は大きかった。

順天堂大医学部進学 日根野龍君(渋谷教育学園幕張高校卒)

それぞれの苦手科目、得意科目は？

西村：西村直記です。僕は、1次受かったのが愛知、岩手、聖マリ、北里、獨協、東医、昭和です。で、2次は、愛知、岩手、聖マリ、北里と東医に受かりました。最終的には東医です。東医に進学ですね。

日根野：日根野龍です。1次合格は、愛知、杏林、東医、藤田、関西医科、順天。で、2次合格来たのが、愛知、杏林、東医、順天来て、藤田と関医は棄権しました。東医の開示は、面接が満点でした(笑)。僕は、2浪目で、理転して、1年目は河合(塾)にいて、なんか環境が、やっぱ雰囲気、全然違いましたね。河合のときは、すごい緩かったんで、朝とか全然、授業始まるちょっと前とかに行って、何ならちょっと遅れてもいいかなみたいな感じで行ってたんですけど、で、午後全然自習もせずに友達と、じゃあ帰るかっつって、なんか帰りがけにラーメン食べたりとかして帰ってただけだったんですけど、もうこっちは、なんかそんなことで、空き時間こそあれど夜まで授業あるんで、朝早く来て勉強みたいな感じでしたね。月イチのマンスリーに向けて勉強するっていうよりは、毎日勉強していくうちに、マンスリーが来るみたいな。で、クラス懸かってるし。なんか、前回よりいい順位とか、クラスのために今やれることを今これやれって指示があったのがよかったですね。

西村：そうそうそう、クラスのために勉強してました。

日根野：理転だったんで、化学とか生物とか数学とか、初学のやつは本館で受けてて、俺、結構時間割がカスタマイズされて、多分、カスタマイズの恩恵一番受けてたの俺じゃないかなってぐらい、すごいカラフルになってた。

西村：僕は、英語が壊滅で、1回目のマンスリーで偏差値46とかだったんで、でも、数学のおかげで、M1にいて、でも、英語は、M5に下げて、4クラス下の英語受けて、M5でも、付いていけるか怪しかったん

ですけど…、数学は、トップ(レベル)でずっと受けてました。数学は、なんか元から、結構、計算ミスとかは少なかったほうかな、でも、トップだと計算速い人とか結構いて。M1やM2の計算トレーニングみたいな授業とかあるんですけど、その中でも多分、僕、ビリのほうだったんですけど、スピードは。結構、刺激にはなっていましたね。

日根野：やっぱ、生物と化学が、やばいっていうか、1浪人までノーベンなんで、右も左も分からないのは自覚してたんで、一応、マンツーマン取ってましたね。特に、どの先生が合うのかも分かんない段階だったんで、取りあえずランダムでお願いしたんですけど。結果的には、石原先生は、結局、もう最後まで、直前期までお願いしてたのすごいいいかったですね。啓寿先生(佐藤慶寿先生)は、厳しいところは厳しく言うてくださる方だったので、公式覚えてなかったら、すごい、結構怒られて。正弦定理とか余弦定理とか覚えてなかったんですけど、なんかその場で導出してたんですけど、おかしいって言われて。理系じゃないって言われて。たたき込めって言われて、たたき込みました。普段優しいイメージの先生がすごい厳しく言うてくれて、だからなおさら、あ、じゃあやりますみたいになりました。小林先生は、なんか、主に有機お願いしてて。で、実際、俺、有機、なんか1学期の中盤ぐらいにはもう、マンスリーほぼ満点ぐらいは取れるようになってました。それと菊本先生にもプリントもらって並行して解いてたので、それのおかげは大きいと思います。その2人のおかげで、有機はもう、結局、終盤まで武器になったんで。

西村：英語できないっていうのがすごい有名だったんで(笑)。なんか、マンスリーのランキング、英語だけいない、みたいな。ガチ苦手だったんで。

日根野：他(の科目)、全部1桁台にいるのに、英語だけいないよ、あいつみたいな。逆算できるんですよ、



英語の点だけ(笑)。

西村：いや、ボーダーラインは届いたのか、結構怪しいんですけど。英語は、最後は、結構、文法を頑張っていました。なんか、長文はもう分かんなかったんで、文法でどうにかしようと思って、まあ、やったって感じです。はい。

日根野：すごいなんか、俺、菊本信者で。フフフ。化学は菊本先生の授業受けてればできるようになるみたいになって、出てたんで、百発百中。すごい、なんか、俺の考え方と菊本先生の、問題の解き方とかが、すごいマッチしてて。理論もそうだし、有機もそうだったんですけど。あと、菊本先生のプリントがすごい良くて。プリントもらって、問題も解き、教えてもらい、みたいな感じで。正直、化学は、1学期伸びたのは、菊本先生のプリント、めっちゃやったからだと思います。授業があるたびに、解いて持ってって、またもらって、解いて持ってって、もらってっていうのを繰り返してました。自習時間もしてましたよ。他の人に比べて、まあ、世間一般の、いわゆる大手に通ってる人たちよりは、はるかにしてたとは思いますが。

1年頑張り続けられた理由って？

西村：クラス懸かってるっていうか、月1回のマンスリーで。やっぱ下がりがたくないよね。周りに、周り全員分かるもんね、下がったらね。やっぱそこが、1年間頑張り続けられた理由みたいなところになるのかな。その一、ずっと走ってこれたみたいな。僕は結構もう下がるぎりぎりまでいったんで、最初M1にいたんですけど、最初良くて調子乗ってた、第3回ぐらいで結構やばくなっちゃって。いつ落とされるか分かんなかったんですけど、もう落ちないようにしないとしか思ってなかったです。夏とかやばかったです、1回、55まで下がってる。1回だけ。

日根野：危機感覚えるたびに、おまえ、持ち直してたよね。

西村：もう行ったり来たりみたいな、あ、落ちた、やばい、落ちる、みたいな感じでした。

日根野：ウイークリーは、俺は700選ちゃんとやりました。はい。胸張って言えます。1学期は全部満点だったかな。他の科目は、1週間の復習みたいな扱いでやって、ある程度復習して、ウイークリーの対策をするっていうよりは、1週間、授業の復習したことの結果がどう出るかなみたいな感じで。で、あ、ここ、もう覚えてなかったなみたいな、やんなきゃ、みたいな感じで受けてました。

西村：僕は、数学のトップ(レベル)、5人、4人としかいなくて、トップだけの数学のテストとかあったんで、ウイークリーが。もう、総合(ランキング)とか全然狙ってなくて、数学だけ頑張ってた、時間かけてもいいから、結構、記述だったんで、数学だけちゃんとやろうと思って。なんで数学以外は結構悪い点数取ったりしてた気がします。

日根野：僕は、英語できるようになったのは、700選おっきいんじゃないですかね。成績表、多分見てもらえば分かりますけど、英語、後期にかけて急激に伸びたんで。やっぱ700選、素地つくるというか、パターンを、ガーって覚えて、そう、俺は特に、語彙と文法弱かったんで、それを700選で補えたっていうのは大きかったかなと思います。フフフ。

西村：いや、いや、僕は全然、なんか。700選、結構やったんですけど、そもそもなんか、英語、本当に苦手で、700選やっても、そんなできるようになんなくて。やっぱ、覚え方なのかなって途中から思いだして、テストのために勉強するやり方の人と、ちゃんと理解する人っているじゃないですか。僕、多分、結構、テストのためだけにやってたりしたんで、まあ、いい加減だったのかなっていう面は、今思うと。はい。

日根野：そうですね。構造把握は大事だったと思います。本当に、英語は。

西村：数学は、薄先生、楽しかったんで、後期とか、薄先生の授業がテストゼミとかで、順位いいと貼られるんですけど、だからその、そのために頑張ったりしてましたけど。薄先生の教え方って、結構、他のいろんな卒業生にも聞くけど、すごいなんか独特というか、1個の方程式覚えたら全部解けるみたいなやり方教えてくれるっていうような、そんな感じだった。俺は結構好きだったすね。

日根野：俺は、薄先生が数Ⅲ担当だったんですけど、数Ⅲは俺、本当に苦手だったんで、なんかあんまり。すいません。授業中も、I、ⅡBの知識使って解けるやつは、ごりごり計算して解いて、解けましたみたいなことができるみたいなことはあったんですけど。数Ⅲのごりごりの知識使わなきゃいけないときは、もう本当に分からず、先生の解説を待つみたいな状態でした。でも、朝の過去問。なんか朝、過去問解こうぜみたいな感じがあって。薄先生のやつ、結構それでテスト慣れとかもできました。それこそ、旦(伊藤旦：昭和大医学部進学)とか平井(平井豪：昭和大医学部)とか、そのグループで、6人ぐらいのグループからちょっと。本当に古い過去問の中で、薄先生が厳選してきたやつを、コピーして解けみたいな。それを朝来て、みんな7時ぐらいに来てやりました。普通に楽しかった。

西村：対決とかだったんで。

日根野：なんか友達と、競うの楽しかったんで。やっぱ、その場で丸付けして何点みたいな、俺、何問合ってた、みたいな。

ダレるというか、たるんだ時期もありましたか？

日根野：夏、なんか(笑)急に、呼び出されて。

西村：ああ、呼び出されましたね。

日根野：4人？プラス、旦と牧野(順天堂大医学部進学：牧野晃大)も。

西村：あと久保田（東北医科薬科大進学：久保田芳人）もいた。呼び出されて…。

日根野：5人だっけ、6人だっけ。なんか呼び出し。もう1人ぐらいいたよな。なんか、何人かで呼び出された感じがします。呼び出されましたね。確かに。

西村：いや、やれよみたいな。ばれてんだね。

日根野：そう。なんか。ちゃんとばれてんだね。はい。まあ、結構（空き時間に）しゃべってたんで、それを注意されて以来は、それが結構、夏の序盤だったんで、結果的にはそのおかげで夏は勉強できたかなと思います。教室で話しちゃったりするときに、なんか事務の人が、結構圧力掛けに来たりするんですけど、やっぱ、それ結構、多分効果あったんじゃないかなって。

西村：それで結構、みんな自習室戻るとかあって。自分のやったほうがいいけど、まあ、強制的に多分やらされることも多分大事だと思うんですね。

日根野：そうですね。やっぱ、強制的って大事ですね。

西村：フフフフ。それはしみじみと思います。

日根野：普通、注意なんて来ないもんね。他の予備校とか。

西村：そうなんです。

日根野：まあ、河合塾にいたときは特にはなかったし、本当にひどい人たちとかもいて。ずっとしゃべってるような、あいつら、なにしに来てんだよ、みたいなのがあったんだけど、それ（注意されること）はなかったかなと思います。ここは、石井先生も、こう、ぴりっとね、空気締めるからね。

西村：そうですね。若干の恐怖心はあったかな。ちょっと。あんまり怒られなくなかって。やっぱ、山室先生にもそうですね、石井先生にはもっと怒られたくないんで。ちゃんと見てるからね、石井先生ね。全員のこと見てるからね。うーん、確かに。フフフフ。サボれない雰囲気あった。まあでも、おかげで伸びたし、一気に、2個飛ばしで上がりましたね、俺は。うれしかったですですね。なんか、M5に戻るのを目標にしてて、M4までは考えてなかったんで。

小論文や面接のほうの自信は？

西村：僕、小論文は、面接だったっけ？、石井先生と高橋先生で、「ブラックリスト」っていうのを作らしいんですけど、僕、選ばれて。対策しつかりやらないとまずいって感じで、普段の授業から対策してもらって、なんか、話すのが遅いって言われて。話すのが遅いのと、話しだすのも遅いって言われて。あと、なんか、若く、若くないって。なんか、暗いって言われて。日根野：若さがないって…（笑）。ランカーって呼んでました。ランキング入りしてるっていう。ブラックリストのランキング入りでランカーって呼んでました（笑）。

西村：若さがないみたいな。明るくやれみたいな感じで。フレッシュさっていう感じがなかったそうです。言葉が出てこない。常識がなかったらしくて。

日根野：ああ、それは言われてたね。

西村：本当に、国語ができないんで、僕。直前の1月の初めとかに、高橋先生のマンツーマンで、なんか通してやるんですよ。そのとき、謙譲語ができてないぞと言われて。で、もう今からやっても、時間がないので、ですますしか使うなって言われて。丁寧語しか使わないでいけみたいなこと言われて、あ、はいみたいな感じで頑張ってた。結構言われましたね、知識系も全然、僕入ってなかったんで、知識も詰めてもらったり。

日根野：DVのDとVが何か知らなかったもんな。

西村：一般常識が、ないって、結構、そこ言われてましたね。この大学はこういうこと聞いてくるからみたいな感じで、対策はやってたので。授業でやりつつ、はい。

日根野：なんか面接のときだと、やっぱはきはきしてたほうがプラスには働くので、当然。

受験本番が始まってからの過ごし方は？

日根野：俺、戻ってきてましたね、予備校に。石井先生がおっしゃっていたように試験終わったら、戻って来てましたね、問題の確認とか、先生も結構いるんで。

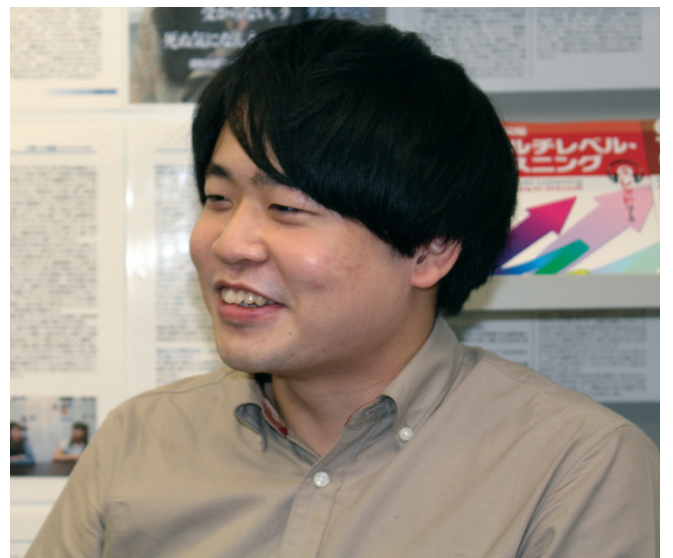
西村：なんか丸付けしてなかった？ 丸付けに戻って。

日根野：そうですね。なんかやっぱ、友達みんな戻ってきてたんで、戻ってきますよね。ていうか、1人で家帰って、言い方あれですけど、くよくよしたり、なんかナーバスになるよりは、友達と丸付けして。それこそ友達が逆に、あいつが大丈夫、この点なんだった俺も大丈夫だなみたいなことになることもあったんで。まあ、その逆もありますけど、でもそっちのほうが大きいんで、安心感のほうか。

西村：心強かったです。2次試験会場とか代官山生だらけなんで。

日根野：ああ、分かります分かります。受験会場とか、心細さとかない。まあ、いつものマンスリーを受けてる感覚に。

西村：いや、そうです。結構近い。基本、しゃべって



んのは代官山生だけで、ホーム感ありましたね。

日根野：そう。ホームがありましたね。それこそ、愛知とか、俺、前が旦で、いつもの仲いい友達、前にいて。休み時間とかも、いつもどおりの代官山の日常みたいな感じで過ごし、だからなんか、マンスリーとかも受けてるような感覚で解いてっていう感じだったんで。リラックスしてたかな。精神安定にはなったよな。

西村：2次とかも、その一、2次、人数が少なくなるんで、他の学校は、1人とかで行くと思うんですけど、心細いけど、楽しくみんなでいましたね。結構、大学の1次合格のうち1割が代官山(生)っていう…。

日根野：それこそ、2次こそ一番緊張してたらまずいんで、やっぱ1人で緊張するより、俺も西村直記と行ったんですけど、2次、一緒に、新幹線から行って、それこそ面接の、これから始まる中堅の前哨戦みたいな感じで面接して。みそ煮込みうどん食べて帰ってくるって言う感じで。

西村：楽しかった。でも、1年間楽しかったです。

日根野：分かります。つらかった時期もあったんですけど、なんかその一、世間一般でいわれてる浪人生活とは、ちょっとまた違った面で、勉強しつつも、なんか、暗い感じではなく、ある程度の希望を持ってっていう感じだったんで。予備校で言うには適してるのかどうか分かんないですけど。いやまあ、楽しかったですね。

西村：友達の存在とか大きいと思うんですよ。僕、現役のとき、友達ゼロだったんで、本当、そもそも男子いなくて、誰ともしゃべらず来てたんですけど、結構苦痛でしたね。友達できてくると、気分転換にもなって、競争相手にもなるんで、結構大事だなって感じです。

日根野：それは分かりますね。なんか、友達つくれないで、一匹オオカミみたいに勉強する人もいるんですけど、なんか、多分、切磋琢磨する友達をつくったほ

うが、プラス、よりプラスになるんじゃないのかなとは思います。

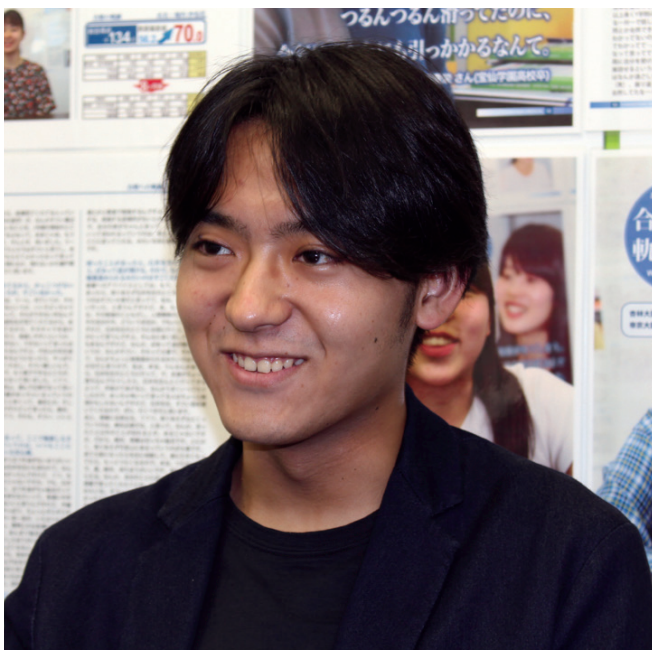
一緒に競い合う、過去問解くとか、ランキングで競い合つてとか、そういう友達は、むしろつくるべきだと思うし。やっぱ、友達と話してると人間明るくなるんで。誰ともしゃべんなかったらしゃべり方忘れちゃうじゃないですか、2次面接だと、愛知みたいに特殊なところもあって、何て言うんですか、ぶっつけ本番の、対策の立てようがない質問みたいなものがあって。でも、臨機応変さを見られてるやつだと思うんで、やっぱ日々の生活環境ですかね、重要なのは。

1年、あらためて振り返って。

日根野：理転して1年で医学部へって、絶対書くよみたいな言ってたんですけど、まさにそのとおりになって。理転して1年で医学部。順天医学部へ。フフフ。OK。なかなかいないと思うんで、世の中に。

西村：すごい、友達とかもできて、すごい勉強について語れたっていうのもあったんですけど、やっぱその一、学力で、2号館と分けてんのも結構大きいと思うんで。周りに自分と同じぐらいの学力の人がいるから勉強の面で相談もできるし、結構、助けられることも多かったんで。あと、石井先生の授業はやっぱ残ってますね。何だかんだ、数学とかのほうが全然好きだったし、集中してたのも数学だと思うんですけど、今思い出してみても、何を教わったかとかは、何話されたか、数学そんな覚えてないんですけど。なんか、石井先生の授業は、話す、なんか授業の前にお話があるんですけど、結構、その言葉は、印象に残ってる言葉が結構多くて。これ、9月とかに言われたと思うんですけど、落ちたときに後悔に残るような行動はするな的なことを言われて。なんかそれ、本当、ずっと頭の中に残ってて。だからそれ、勉強以外にも使えると思うんですけど、スポーツやってて、くじけるときに、後に、後悔するようなことをできる限り減らせみたいな言葉は、結構心に残ってますね。そういう面で、代官山(MEDICAL)に通ったのは、よかったんじゃないかなって、今、思います。

日根野：石井先生、結構どきどきしてたんで。なんか、当てられるので。大勢いる中で当てられて、答えられないと、やっぱ恥ずかしいじゃないですか。ただ俺の場合、なんか和訳要員みたいになってて。本当に和訳、集中砲火して当てられて。英語のちょっとした長文とか、みんな大体1文ずつとか、和訳しろって言われてるんですけど、俺の番になると、全文和訳になるんですよ、急に。なんか1人だけ長さ違って。そうですね。なんか、そういう、ちょっとどきどき感あったんで、引き締まる授業ではありました。なんか、英語以外っていうか、勉強以外のことも結構教えてくれるって、やっぱ医学部について教えてくれる時間多いっていう、それも多いですね。最低点の話とか、あとはなんか、何人受かるかとか、結構勇気付けてくれる話は



多かったです。なんか行けるって思えるような話もモチベーションにつながるし。俺は、英語さえできればってことはないですけど、やっぱ、英語を武器にできれば強いし、数学もやっぱり同じで。やっぱ、英数は、武器にはならずとも、プラスに持ってけるぐらいの実力は付けたほうがよくて。あと、俺は2次ですね。2次できれば何とかなったりするよって言いたくて。例えば俺、杏林とか、パーセンテージで言ったら65パーとかで1次。

西村：まあ、僕、多分、ぎりぎりで落ちた人なんで。

日根野：そう。65で同じだったんですよ。で、俺が受かって直記が落ちたんで、多分、俺がそのボーダーなんですけど。結局、2次で、多分、小論と面接、すごい感触良かったんで、それで、もう一気にひっくり返して。本来だったらボーダーぎりぎりの人って、2次、どうあがいても、結局落ちる人、多いと思うんですけど、俺、結局、補欠29番で。1次突破者の人数分かんないんであれですけど、2次面接で300～400人ぐらい抜いてるんで、順位。俺より10パーセントぐらい高かった人が、補欠順番が俺よりも50番下とかもあったんで。2次できると、やっぱ、奇跡が起こること多いなと思います。なんで、2次も軽視せずに、英数を頑張って、理科は、落とさなければ受かると思います。



卒業生が語る

合格への 軌跡2022年

WAY TO SUCCESS

東邦大医学部
福岡大医学部

2次合格
2次正規合格

親が両方、別に医者じゃないんで、
医学部っていうこと自体が、
そもそも未知だったんで、
どんぐらいやればいいかとかも全然、
分かんなかったんで、家族全員が。

東邦大医学部進学 井吹 拓馬君（桐蔭学園高校卒）

自習室の整理整頓はできていました。

めちゃくちゃ、机はめっちゃきれいにしていました。やっぱり机をめっちゃきれいにすることによって、ちゃんと整頓してプリントごとに上に乗つけて、その出したものすぐ出せるんで、それも勉強の効率アップにつながると思ったんで、あれは結構、効率的だったかなっていうふうに思います。自習室、個人的にはもう全然、広くて、快適で、むっちゃ広く使っていました。そうっすね。もう完全に、やるやつっていうのをその日に決めて、そのやるやつをこう、その机の上に置いて、他のやつは全部ロッカー入れてみたいな感じで。確認とかも、自分がそのずっと使ってるまとめみたいな、まとめる教科書みたいなのを、僕は常に置いといてすぐ調べられるみたいな状態にしてたんで。

で、1次で合格したのは、岩手医科と東北医科薬科と福岡と東邦で。2次が来たのが、福岡と東邦。で、東邦大学に進学しました。大学生活は、めっちゃ楽しいです。部活(ラグビー)も宮本君(宮本秀太郎)と一緒になんで。楽しくやらせてもらってます。代官山(MEDICAL)に入って、毎朝、7時半ぐらいには来て、そこからもう休み時間とかもずっと勉強して、ずっと昼とかも5分ぐらいでばぱっと済ませて、9時半ぐらいまではずっと勉強していました。携帯も、もう親に預けてって感じで。1年間、全く携帯持たず、ほぼ持てなかったですね。本当に、僕、高校がすごい、高校の部活がすごい強豪で、もう1月ぐらいまで、部活動やって、まあ本当に(知識)ゼロだったんで、浪人決まったときには、すごいやる気はあったんですけど、本当に何も知らない、全部何も知らない状態だったんで。だから、代官山で一つ一つ学ぶのが新鮮というか、すごい楽しかったっていう記憶ありますね。

代官山に入った瞬間からスイッチ入って、A8、A8のメンバー、みんな勉強しっかりやって、丸山君(金沢医科大進学:丸山翔)とか、斎藤さん(愛知医科大進学:齊藤優希乃)とかいたんで、A8で真面目な人多かったんで、励みになったかなと思います。1学期がA8スタートで、そこから徐々に1個ずつ、そうですね。A8からA7、A6、A5、で、最後A5だったんで、ま、そんなに、クラスとしてはそんな上がってないですね、でも、正直、もうちょい上がりたかった。いや、すごい最初から飛ばしてたんで、最後の冬のほうは、最後まで化学はベーシックレベルだったんで、もう知ってるよみたいなこと最後のほう多かったりもしたんで、最後のほうはもうなんか大丈夫かなみたいな感じにはなっていました、少し。で、受験期入って、最初に、岩手医科、1次通って、これ、どっかはくるなみたいな(笑)。

ゼロ、空っぽから始めるんだから、自己流は捨てた。

親が両方、別に医者じゃないんで、医学部っていうこと自体が、そもそも未知だったんで、どんぐらいやればいいのかとかも全然、分かんなかったんで、家族全員が。

なんで、本当にもう頼むよみたいな感じで。そうっすね。ただ、合格するまではあまり信頼はなかったです。合格した途端に、やっぱり、みんな手のひら返してくる(笑)、気持ちいいなと思いました。最後受かったとき喜んでくれて、泣いて、泣いて喜んでくれました。

正直、東邦は、めっちゃくちゃうれしいですね。第1志望だったので。1学期とか振り返ってみて、結構、体力的には、部活動、やっぱり、でかかったかなっていうふうに思います。やっぱり、メンタル面的なところも鍛えられたんで、ラグビーで。もう本当に僕、高校の頃はラグビー一色だったんで、あんまり医学部とか目指してなくて。で、高校のときに、一応、親が1個、受けてみたらみたいな感じで東邦受けさせられて、東邦しか知らなかったんで。まあ、東邦、第1志望だったんですけど。

本当にA8ってみんな空っぽだと思うので、自分のやり方でやるっていうのはまず絶対やめたほうがいいと思って。もう全部、先生に聞こうっていうので、全部の集団授業とマンツーマン、それぞれ先生の言う通りの課題をこなして、って感じで、自己流は絶対にやめてました。英語なんかは、下地を作ってくれたのは、梅田先生でしたね。

やっぱり最初にA8の授業を担当、教えてもらって、すごい熱血な人だったんで、で、ちゃんと成果も上がって、最後のほうはちょっと伸び悩んだんですけども、もう完全に下地をつくってくれたのは、もう梅田先生かなって思いますね。梅田先生が作ってくれるプリントがめっちゃ良くて、めっちゃ厳選した上で、作ってくれたんで。それ何回も、その厳選されたやつ何回も繰り返していくうちに、まあもう文法はもう、あっ、これやったやつだみたいな。すぐにぼんと出てきたんで、それはよかったかなというふうに思います。数学は、僕はもう完全に山室先生推しですね。本当に、もともとなんかセンスはあるみたいなことを言われたんですけど、後にいろいろぼろくすに言われて、ほんと、まあ、メンタル強い人だったら、すごい向いてるかなっていう先生で。あの人に教われば、この人の言われたこと全部できるようになれば、まず間違いなく、どこにでも行けるかなというふうに思いますね。僕は、あの人のおかげで数学、得点源になったかなって。最後の冬のときにある、マーク対策みたいな、冬期の集団の授業のやつが、まじですごい助かりました。使えましたね、東邦でも何個か。

2号館も意識してやってみました。

最初は、もうなんか友達つくらないでいこうとしてたんですけど、途中からそれはなんかちょっと情報が薄いなと思って。さっきの丸山君とか、斎藤さんあたりとは、よく勉強の話して。例えば、梅田先生のさっきのそのプリントとか、これ、前やったやつだよ、みたいな話とかやったりしていました。友達できて、情報共有とかがやっぱり強くなったって感じですね。予備校

に朝から夜までいることで、結構、みんな大学について情報もらえるので、それで僕も医学部について情報にもちょっと詳しくなったかなと思いますね、はい。斎藤さんは、A8の中で一番最初に抜け出したかんじで、2回目のマンスリーぐらいからなんか突き抜けて、僕らのクラスで良かったんで、抜きたいなというふうには考えてました。マンスリーとか、他の友達とか意識して、ウィークリーも全部意識して、やっぱ点数を意識して、2号館にも負けないように、って。まず、(ランキングに)名前に載るっていうこと、目指して、2号館にも負けないぞっていう意気込みでやりました。ウィークリーは、もう絶対にやったほうがいいですね。A8とかは、ベーシックレベルだと思うんで、逆に上の人たちが取れないところを絶対取れるから、そこでモチベーション上げたりもしてました。丸山君とかと競って、負けた、勝った負けたみたいな、一喜一憂というか、そこで、張り合ったりできるのが、ウィークリーの良さだなというふうに思います。

勉強の仕方がかわってきた。

夏は、夏さばったら、やばいになっていうか、夏で、まあ、追い付こうみたいな気持ちでいたんで。僕みたいなそういう、自分でやれない人だと、授業もツメツメにしてもらって、絶対に単科とかも取ったほうがいいなというふうに思いますね。秋になって、なんか夏、伸びなかった物理が、秋に、あほみたいに伸びたんで。小澤先生のプリントは、やったほうがいいですね。小澤先生もなんか、プリント厳選して、問題厳選してくれて。力学とか電磁気、熱、原子、波動それぞれ全部やって、その後、入試問題みたいなのを配られるんで、それも全部やれば、もう物理はもう完璧かなっていうふうに思いますね。もう完全に信用してやりました

ね。もう本当に物理は、全部覚える。これ出たらもう答えこんな感じくらいまでやり込んだので、それがやっぱ東邦、そういう小問が多いので、小問、すごい得意になったなっていう実感はあります。

マンスリーでも、秋、秋に急にぐんときて、最後のほうもなんか上位とかに食い込んでたりしてたので、小澤先生とか柳瀬先生とかにも、君、物理できるよねみたいな感じに言われるようになって、マンスリーテストとか見てる限り、2号館も別にそんな大したことないかなみたいなふうに思えてきたっていうか。あー、上の人たちもそんなもんかみたいな感じで。でも、なんか最初のほうは、もうなんかよく分かんないけどノート取ってるだけみたいなことがあったんですけど、後期になって、前のノート見返したときに、ああ、こういうことを先生、伝えたかったんだなみたいなのが分かってきて。石井先生とか、他のマンツールの先生とかから、もうこれやりなさい、これやりなさいみたいなこと言われるんで、あ、まあ、これやろうみたいな、素直に信じてやっていった、言われたことをやり続けてました。授業中も、同じことを何回も言ってくれるんで、2回目同じこと言われたとき、あつ、こういうこと言ってたんだみたいな。なんかその自分の理解が、先生が教えてたことと結び付いてきたみたいな実感ありますね。本当にまあ自分のやり方じゃなくて、先生に言われたとおり、まとめられ、こうやれって言われてこうやるみたいな。そのままやるっていう。それだけで、それを繰り返して身に付ければ、もう絶対、大丈夫だなんていうふうに思いますね。僕とかは、本当に、あんまり余分な知識がなかったんで、すんなり先生の話とか受け入れられたんで。

先生の言葉でハッとなった。

そうですね。まあ石井先生は、大学の話とか、医学部ネタとか、結構詳しく、詳しい情報も教えてくれるので、そこの大学の話とか聞くうちに、医学部早く行きたいなみたいな気持ちにもなるんで、そういう話聞いて、俺も早く受かりたいな、代官山出て、大学行きたいなっていうふうに思ったんで、まあ、そういう面でも励みになりましたし。あとは、単純に、授業も面白かったんで。

こういう人が落ちる、こういう人が受かるみたいなことを、ズバズバおっしゃって、言われ続けてきて、まあ、こうならないようにしようっていうふうには頑張りました。結構、精神論的な話、モチベーションアップするような、石井先生してくれるじゃないですか。一番石井先生の言葉で、ハッとなったのは、聞いてからやるのが愚者みたいな。賢者は歴史から学んで、愚者は、自らの失敗からはじめて学ぶ、だっけ。自分でやってそれ違うわ、って気付くのが愚者で、人が人のやり方を見て学ぶのが賢者みたいな、そういう話を聞いて、これも完全に俺だなみたいな。愚者のほうだわみたいな感じになってたんで。心に残りましたね。そう



っすね。(メンタルが)落ちてるときに石井先生の話は、一番、聞くべきだと思います。

ハードル高いと思っていた小論文。

1 学期から小論で結構、書き込んでいったときも、もうなんか、本当に最初入ったときは、もう別になんかどういふふうにかくとかも何も知らなかったんですけど。だからもう、最初のテストとかは、半分ぐらい、字、字足らずみたいなので、減点めっちゃ食らったんですけど。だから、高橋浩先生から教わって、こうやって書けみたいなこと言われたり、でもやっぱりそう指示されるっていうのが楽だになっていうのは思いましたね。あと、段落3には自分の具体例入れろみたいなこと言われて、で、まあ、そこ以外は全部もうなんか、もうほぼテンプレートだから、そこ考えるだけでいいみたいなふうになったので。やっぱり、すごい、小論もこんな簡単なんだなって、最初、すごい一番、不安だったんですけど、こんなに簡単なんだなみたいな。

高3卒業して、その後そのまま。

浪人が決まって、すぐまっすぐに、代官山 MEDICAL へ、真っ白な状態で。全く素養ができてない段階で代官山 MEDICAL に入るっていうのはとっても大事です。全部教えてくれるというか、下のクラスほど、下のクラスも全部、全部教えてくれるから、別に全然、ま、上の日医とかレベルになるとちょっと分かんないですけど、東邦とかマーク式だったらもう全然、チャンスはあるんじゃないかなっていうふうに思って、ゼロの状態だったから、逆に、素直に全部聞けたって、いうか、そうっすね。本当にゼロだからこそ、ゼロの人こそ代官山に行くべきです。先生も、別に上下あんま関係なく、下には、下の人の気持ち分かっているからみたいな。こうやってやるんだよみたいな。その先生なりのやり方があるんで、これいいなって思った人のやり方で、その教えてもらった人のやり方で、最初から最後までずっとそれやり続けてれば、本当に受かるんじゃないかなと。

逆に、本館でべちゃくちゃしゃべってる人多かったんで、こいつらよりは勉強してるなみたいな、ハハハ。なんか常に性格悪くなって、言い方悪いですけど、本館は、あんまり、俺より成績いいやつはそんなにいないなみたいな、でも、俺より低いやつらも頑張っているからみたいな、俺、俺ももっとやらないとみたいなふうにはなっていました。自分を奮い立たせるっていうか、そうですね。やっぱ石井先生とか、その、イズム的な、受かるイズム的なのは結構、心地良かったっすね。最後まで石井先生の授業は出ておけば、石井先生がまあ、なんかそういう話をしてくれるので、ブレないですね。こう、頑張ろうっていうふうに必ずなるんで、石井先生の授業受ければ。そういう気持ちになりますね。もういいやみたいななったときでも、石井先生の授業受けると、あ、やんなきゃみたいな。



卒業生が語る

合格への 軌跡2022年

WAY TO SUCCESS

東邦大医学部 2次正規合格(追試)
国際医療福祉大医学部 2次合格
杏林大医学部 2次合格
北里大医学部 2次合格

教科書の太字だけ覚えるのって、
それでもう太刀打ちできないんですよ、
医学部入試は。

東邦大医学部進学 村山優綺さん(東洋英和女学院高等部卒)

卒業生が語る

合格への軌跡2022年

WAY TO SUCCESS

杏林大医学部 2次合格
聖マリアンナ医科大 前期2次正規合格
北里大医学部 2次合格
岩手医科大医学部 2次合格

自分がどこをできてないかとかを
素直に認めて、自分はできないんだから
やるしかないって思って、
本当に謙虚にこつこつやんないと
受かんないと思う。

杏林大医学部進学 小川加奈子さん（横浜雙葉高校卒）

ここに来たきっかけは？

村山：村山優綺です。東洋英和女学院高等部卒業で、今は東邦大学医学部に通っています。

小川：小川加奈子です。横浜雙葉高校出身で、今は杏林大学の医学部に通ってます。

村山：私はいろんな医学部予備校の資料を集めて、それでいろんな所を見て、実際に何校か行ったりしたんですけど。代官山だけ、こういうふうになんと細かい合格体験記、その本人が言ったことがそのまま、それも長々と書いてあって、これって本当に合格した人の本音が分かるなって思ったのと。あとは、リアルな合格者数が出るじゃないですか。それが大きくて。私、駿台通ってたときも、え、こんなに合格した人いるっけっていう感じの数で。結構、本当はどうなんだろうっていうのが気になって、それが一番気になってたので。代官山はリアルな人数があるっていうのもあるし、あとここで初めて石井先生とお話したときに、私の東洋英和の先輩が何名か通ってらっしゃって。その方がどういうふうに勉強してたのかとか、その方が現役のとき、どれくらいの成績だったのかっていうお話を聞いたら、私もここだったら1年頑張れる気がするって思ったので。高校の先輩がいたことと、リアルな指標があるっていうのが選んだきっかけです。

小川：私は兄がここで5年前ぐらいにお世話になって。兄も結構いろんな大手の塾を行ってたんですけど、2浪目のときにここに来て、今までそんなに勉強得意って感じではなかったのに、代官山に来て、朝からすごい勉強してる場所が出てきたらしく、朝から本館で、最初A8とかだったんですけど、開く前から並んで、一番ぐらゐに登校して勉強してるみたいなことを言っていて。最終的に2号館に上がって合格させてもらえたので、代官山に対する信頼っていうか、ここに入れば頑張れるかなと思って、ここに行くことに決めました。

苦手の克服とか、勉強の習慣化などありますか？

村山：最初、この生活に慣れるのが結構大変で、自分が崩れちゃうというか、体調を崩したらどうしようとか。多分1日でも休んだら響いちゃうんで、どうしようって最初はすごい思ってたんですけど、やってるうちに慣れちゃったので、つらいとかいう概念がないっていうか。常に毎日やることが決まっているので勉強に迷いがなくて、4教科がルーティンだったので、別につらいとかは特になかったかなと。

小川：成績上がらなかったりしたら、つらいことはつらいんですけど、でもなんか私、意外と、塾来るの好きで。先生と仲良くなれたっていうのもそうなんですけど、ちょっと悩んでも青葉先生とか、緒方先生とかもすごい前向きな言葉を掛けてくれるので、頑張ろうって思って、そんなに落ち込むこともなく、さあ塾行くかみたいな感じで、淡々とやって。今、振り返ってみれば普通に楽しかったかなと思います。

村山：朝は、計算(トレーニング)と、700選(の暗記)とかそういうのやったりとか、密にずっと授業入ってたので、安定してやれてました。日曜日だけは、一応6時までちゃんとやってるんですけど、家、帰ったらゆっくり過ごすというか。私は取りあえず東邦に行きたかったんで、東邦のパンフレットを見てたりとか。あと普通にゆっくりお風呂入るとか、そういうことして。絶対SNSとかYouTubeは見ないようにしました。

小川：薄先生には毎日、質問しに行っていました。本当に、最初、もう、数学ものすごいできなくて。マンスリーとかでも10点とか取ったことあるし。本当に去年、現役のときも全然できなかったんですけど、今年で決めるためには数学どうにかしなきゃと思って。数学が10点とかっていう点数でも合格できたのは、基礎か



らやるっていうのがすごい大事で。薄先生って基礎的な考え方をもとにして難しい問題もできるようにっていうのをすごいおっしゃってて。いろんな難しい公式を覚えるとかじゃなくて、こういう考え方もできるようにしたら全部できるよ、みたいなのを授業で教えてもらえたので、それがすごい良かったです。あとは私、本当にできなかったの、量もこなさなきゃと思って、マンツーマンで確率とか、(問題の)冊子をすごい配ってくれて。何回も復習しろって言われて、それをもうずっとひたすら復習してました。

村山: 薄先生もそうなんですけど、あと平パン(数学科: 平野先生)。薄先生にはよく質問は行ってたんですけど、取りあえず代官山のテキストを何回もやって、ただ覚えるんじゃないくてちゃんと仕組みまで理解してれば、絶対合格できるからって言われてたんでそれをやってたのと、平パンからはいっぱい「確率」、100枚ぐらい「確率」だけのプリントをもらえて、それを見せに行ったり、解いて見せに行って、これ、答え、たまたま合ってるよとか。「確率」って結構、たまたま合うみたいなのがあったので、それ、あんま良くないっていうか、本番でたまたま合ったらいいけど、結局本番で間違っちゃったら意味ないので、そういうところから直してもらったりして。

小川: 確かに数学、質も大事だと思うんですけど、すごい苦手だとそんな質っていうより量が大事かなって思ってた。直前期とかも薄先生に、1問解いたら0.01ずつぐらい偏差値上がると思って復習しな、みたいなって言われて。直前期に、テキストのコピーみたいなのを作ってくれて。

村山: もらったよね。

小川: テキスト問題だけをシャッフルしたプリントみたいなのを、すごい大量にくださって。これをとにか

くやれって言われて、それをもうひたすらやって。その量をこなしたことで結構自信にもなるし、これだけやったから頑張れるわって思ってた。量も大事かなと思います。生物はオガティー(緒方先生)で。オガティーの板書は本当に分かりやすく。学校の授業とかだと単語だけ一生懸命覚えてみたいな感じだったんですけど、オガティーの板書は、どうしてこうなってるのか、仕組みからしっかり理解できて。テスト中も解きながらその板書を頭に思い浮かべて、こうなってるなって思い出せる板書だったので、それがすごい良かったなと思います。

村山: 私、現役のとき、生物の教科書の太字だけ覚えるってやって。それでもう太刀打ちできないんですよ、医学部入試は。そういうんじゃないくて、ちゃんと理解してるのがベースで、そこから知識は覚えるっていうのが大事なんだな。ちゃんと原理を分かって覚えるっていうのが一番大切だったのかなと思います。

成績上がり始めてきて、これ、いけるなって思えた時期は？

小川: 最後まで、絶対いけるわみたいな自信はなくて。数学がネックだったので、数学次第かなみたいな感じだったんですけど。直前期、冬に薄先生が過去問のやったほうがいいリストみたいなのを作ってくださって、それを朝に集まって解いてたんだよね。それを解いて、得点とかも書いてくる欄があって。それをやってくと、そのリストに入ってた、女子医の何年かの問題で、一回、満点取れて。すごい成長したなと思って、そこでやっとな。私、女子医、現役のときに受けて、本当に大問1の1問目と2問目しかできなかったんですよ。今年は、入試って意外と授業でやった問題が出てたりして、実際の問題でこんぐらい取れてるんだって思ってた。ちょっとできるようになっているんだなと思って自信にはなりました。

村山: 私のも最後の最後まで、自信は全然なかったんですけど、最初の国際(医療福祉大)で1次が受かったときに、「あ」って思いました。国際は現役のときに、もう分かんなくて試験中、暇だったんですよ。全ての科目が暇でしよるがなくて。それが、なのに本当にこの1年(間)、浪人を経て受けたときに、数学とかも最後の最後のあと30秒ですって言われてもまだ手を動かして、普通にマーク埋めてたので、そのときに終わって、「あっ。できたかも。」ってちょっと感じたんですよ。ちょっとこれは来るかもしれないと思って。そこからちょっと自信がついたというか。

小川: 私、M2にいたんですけど、M2の中でそんなできるほうじゃなくて。一回、マンスリーとかでもすごい悪い点取って、本当に自信もなかったし、受かるのかなとか思ってたときもあったんですけど。最初のほうは本当に、普通の人は聞かないような簡単過ぎる質問みたいなのもして、でも、どんどん質問していく



うちにちょっといい質問するようになったじゃんとか言ってもらえたりとか。ハイのクラスだったんですけど、ベーシックと下のテキストも渡されて、夏中にやってこいみたいに言われて。おおっと思ったんですけど、やってやろうと思って、ものすごい勢いでベーシックのテキストとか1週間ちょいぐらいで解いて、終わりましたとかいって出しに行つて。そしたら、おお、やる気あんじゃんみたいな感じで、結構やるなみたいに言われて。そういうのをちょいちょい、ちょっと褒めてもらえるのが嬉しくて。このままいいとこ受かったら喜んでもらえるかなとか思って、そういうのもモチベーションになって、先生とのやりとりで結構頑張ろうって思えるところが多かったです。本当によく見てくれてて、寝不足のときとかも、おまえ、絶対寝不足じゃんとか、ちゃんと寝なよみたいな言われて、そんなことまで見られてるんだと思って。勉強してなかったら絶対ばれるなと思って。

自習室での自習時間の使い方は？

村山：私は、1学期マンツーマン入れてなかったんで、割と普通に自習時間ありましたね。2学期からは、化学と生物を入れてました。1学期は6時半を目安に来てました。開く時間には来てたって感じで。

小川：同じぐらいに来てたと思います。

村山：朝早く起きる習慣を付けておくと、本当に受験期、楽で。もう起きなきゃっていう感じで本能的に起きるようになる習慣が私は付いてたので、朝、受験期のときに、ぼーっと眠いっていうふうな顔で行かなくて済む、しゃきとした感じでいけるっていうのがよかったです。

小川：私は朝やることをすごい決めてて、朝来たら、取りあえず夜間(演習)のテキストの計算練習を1日15分やって、その後に700選の暗記をして、石井先生が夏ぐらいに『標準問題精講』っていう英語のテキストの写経するのがいいよっておっしゃってたので、その写経をしてっていうのをいつも、毎日パターンで繰り返してて。朝、そういうのをやっておくと、眠いけど目覚ましにもなるし、1日の始まりをだだだせずに済んだのも結構よかったかなと思います。

村山：日本語にはない英語の流れっていうか、言い方とかって、単に文法書だけを勉強するだけじゃ分かんないことっていっぱいあるじゃないですか。例えば自分が帰国子女とかでそういうのを知ってれば別話なんですけど、純日本人だとそういう感覚っていうのがないので。そういうのを身に付けるのは写経をやったから良かったのかなって思います。

小川：長文読んだときに、結構すうっと読めるっていうか。石井先生のθのテキストとか、ちょっと長めの文とかじゃないですか。それを毎日見てたことで、長文もすらすら読めるようになって、長文に対する抵抗もあんまなくて。実際、杏林の長文、満点で。すごい効果出たなと思って。英語でアドバンテージがすごい

大きかったなと思います。完全に活字慣れと同じように英文慣れしていったって感じが、写経のおかげかも。

村山：あと内容を、θのテキストって選んで内容を載せてらっしゃるじゃないですか。そうすると、その似たようなテーマが出るんですよ、実際の英語の試験で。私、医科薬科(東北医科薬科大)1次受けたんですけど、そのときも、これどっかで聞いたことある話だなんて最初の1段落読んだぐらいで、多分この話続きはこうなるんだろうなっていう、大体の結末というか、流れが見えてきて。

小川：事件もあったよね、同じ(問題)だった！って思って。

村山：数学も、自分のルーティーンとして、朝、夜間(演習)の数学の問題を、朝10分って決めて、できるだけ多くの問題を解くっていうのをやって。あと石井先生がおっしゃってたように700選もやって。あとはθの授業の前回習ったところのをもう一回自分でノートに作って、書いて、そこに自分なりに和訳とかを書いてって、やってみました。ずっと、直前期までね。

自習室はもちろんみんなこつこつやっているのは分かっているんだけど。周りがやっているのを見て自分も刺激されてっていう相乗効果があったのかなって。

村山：それは大きいですね。

小川：みんな、めっちゃ真面目だった。

村山：みんな真面目だった。私、現役のとき駿台にいたんですけど、友達できなくて。できる環境じゃないっていうか、1人でやりなさいっていう感じだったの。それがみんながどれくらいできてるかとか、どういところがみんな分かんないのかとか、私はどのぐらいのレベルなんだろうっていうのが全然分かってなかったの。ここ来て、一緒に頑張る仲間がいるっていうのが一番大きかったかなと思って。

小川：ここの前は、私も駿台に行ってたんですけど、難しかったし、友達も個々で勉強って感じだったので。



しかも先生に質問とかもすごい行きづらくて。質問とかしていいのかなみたいな感じで思ってた。奥のほうに講師室があって。

村山：行っちゃいけない部屋みたいな感じだった。

小川：こんな質問していいのかなとか思っちゃって、こんな基礎的なこと聞いたら嫌な顔されるんじゃないのかなとか思ってた。一回も質問したことなかったです。私、駿台行ったときも、あんまり自習室も使ったことなくて。一回行ったときに、隣でYouTube 見てる人とかもいたし。それに比べて代官山って本当にシーンとしてて、みんなコツコツ勉強してるし、そういう人たちを見て自分もやんなきゃって奮い立たせられるみたいなところもあって。周りがちゃんと真面目にやろうって、合格したいなっていうので一生懸命打ち込んでる環境だからできることなのかな、って今になっては。付箋とかもいろいろ貼れるし。

マンスリーテストの活用術は？

小川：マンスリーって順位も貼り出されるし、気になるは気になるんですけど、それで結構泣いちゃってる子とかいるんですけど。入試本番って、毎日がマンスリーみたいな感じで、できなかったからって落ち込んでる時間もないし、次も受けなきゃいけないから、もう切り替えてできなかったとこ復習してこうみたいにしてかないと、本番きついなと思って。私も、さっきも源河さんの名前出したと思うんですけど、自習室も近くて、マンスリー受けた後に会うことも多かったんで、こちら辺の大問、どんぐらい解けた？とか聞いて、できる人ってここ取ってるんだとかそういうのを知れて。じゃあここを復習しようとか思ってた。友達がここ解けてんの、自分でできてないなとか思ったら、そこを復習しといたりとか。逆に私、ちょっと英語得意だったんで、英語、ここ、どんぐらいできた、とか聞かれたら、こんぐらいできたよみたいな感じでちょっと情報共有したりとかして。そういう使い方がいいかなって思います。M2の生物選択がもう、本当3人ぐらいしかいなかったから、そのメンバーで情報共有ができるのでよかったし、順位貼り出されてんの見て、この人、こんな上にいるわって思ってた。入試では負けたくないなって思ったりしてました。

村山：4月は予想外のM2に入れたんで、おっと思ってたんですけど、それからずっと、成績は波を打つというか、いいときもあれば普通みたいなのもあって。ちょっと一喜一憂はしてたんですけど。あんまり振るわなかったときに、ショックが大き過ぎて。それを割と長引いちゃうというか、また思い出しちゃったみたい、思い出しちゃうことがあって。それで、これ、ずっと1月までやってたら負のスパイラルだなと思って、もう切り替えてやんなきゃっていうふうにあるとき気付いて。でも割と自分はずっと、あんまり人にここ、できなかったとか言うのが結構恥ずかしいタイプだったので、自分だけのちょっとした目標を毎回決めて、

化学苦手だからあと5点、次、プラスした点数取ろうかなとか、あとは自分よりクラスは下だけど、化学だけ上の子とかを見て、この子には追いつかないとなってるのを、自分の心の中で、ランキング見たときに何となく目標を決めてやるっていうのを、マンスリーはそうやってやってました。

次年度、医学部合格を目指す後輩の方々へ

小川：謙虚に、先生に言われたことを素直にやるっていうことを一番伝えたくて。M2とか上のクラスにいたりとか、ちょっとマンスリー良くなったりすると、いけるとか思う人もいるかもしれないんですけど、私、現役のときも、受験生だったし、医学部受験するから、すごい自分頑張ってるって思ってたんですけど、今、浪人してそれを振り返ってみたら、あんときって本当に勉強してなかったなって気付いて。それを薄先生に話したら、それに気付くまでが浪人する時間だよ、みたいな感じの話になって、本当にそうだなと思って。自分がどこをできてないかとかを素直に認めて、自分はできないんだからやるしかないって思って、本当に謙虚にこつこつやらないと受かんないと思うし。ちょっと天狗になったりとか、なまけちゃったり、授業切っちゃう人とかもいるかもしれないんですけど、そういうことやってると合格には近づけないかなって思います。プライドとか言ってる場合じゃない、本当に。もう必死だったんで、絶対今年1年で受かりたいって思ってた。

村山：私も本当に謙虚っていうのは強く押したいんですけど。あと絶対、反抗しない、先生に歯向かわないっていう、これ、重要だって思って。学校とかだとよくあるんですけど、そういう人ってそこまで伸びないっていうか。先生が言ってることが一番正しいし、絶対それが近道だから、それを信じて、とにかくやり続けて。あと恥を捨てるっていうか。私、すごい生物、苦手。毎回当てられても間違ってたんですけど。特に深瀧先生の授業とか、ずっと間違えてたんですけど。最初すごい恥ずかしいなって思ってた。自分のプライドがあるっていうか、そういうのもあるので恥ずかしかったんですけど。でも恥ずかしがってる場合じゃないし、自分が知らないわけだから、理解もできてないわけだから、それで1個プラスして、今、学べてるっていうふうにポジティブに考えるようにして。別にこの人たちに、あの人できないじゃんと思われてももういいやって思って、全部恥ずかしいけどさげ出そうと思って、それで1年間頑張るっていうのも、絶対この1年しかないっていう強い気持ちを持ってやってたのがよかったのかなと思います。

卒業生が語る

合格への 軌跡2022年

WAY TO SUCCESS

防衛医科大学校

2次合格

愛知医科大

2次合格

東北医科薬科大 A 枠・一般枠 2次合格

代官山は、人生の岐路において、
いい方向に舵を切ってくれた
場所だった。

防衛医科大学校進学 檜 康友君（桐光学園高校卒）

3月29日に補欠、回ってきました！

檜 康友です。進学は防衛医科大学校で、1次受かった所は、愛知医科大学、東北医科薬科大学、防衛医科大学校、日大のⅡ期です。で、2次がその愛知医科(補欠42番で)と東北医科薬科のA枠と一般枠両方受かって、あと防衛医科大学校が受かりました。慈恵とかも受けたんですけど、日本医科とかも落ちました。むずかったです。日本医科、もう数学が全くできなかったんで。防衛医科の2次が、3月29日の夕方に回って来て、補欠回っても3月30日までで、たまに3月31日の回る年があるってことも聞いてたんですけど、一番最後来た人が、1人、3月30日の子がいるんで、その子がラストですね。フフ。危なかったです。東北医科にむちゃくちゃ行くつもり満々だったし、部屋探しに30日に仙台に行く予約取ってたんで。29日に防医、電話かかってきて、「このたび繰り上がりましたので、進学する意欲はありますか」というので、やりますって言ったら、いろいろ説明されてっていう感じです。フフ。飯が全部出ます。服も全部支給されます。本は、自分で買います。教科書もくれればいすけど(笑)。代官山に入ったときは、クラス、A3でした。最後がM5です。出世しましたね。最初の4月にクラス分け(テスト)があって、ぎりA3は2号館だったんで、本館には落ちたくないなって、1学期、本当、死ぬ気でやって、割と5月6月は復習やレビュー回せて、失敗せずに。6月に関しては多分20番ぐらいだったんで、それで夏にA1まで上がって、2学期からM5になったって感じです。もともと英語はできなくて、夏明けにちょっと伸びたかなって、1回、英語マンスリーで13位取ったことあって、マンスリーの偏差値が59.8のとき、はい、それ最高値が10月ですね。防医って、問題傾向、結構、変わった問題出してくるじゃないですか、英語とかで。アメリカの選挙制度のやつで、勝者総取り方式を英語で言うとみたいな問題出て、winner take allというのを三ツ橋先生が授業中、言ってたんで、それを覚えてて、おかげでそういうところも取れたりしたなっていうのはあります。知識がないと絶対解けなかった問題なんで、覚えててすごいラッキーでした。

テキストがつつりやってたんで、本番でテキストから同じような問題が出て、高得点につながった。

純粹に、テキストとレギュラー授業と、あと夏期講習、冬期講習の集団授業の予習と復習、十分回せましたね。数学とかは、テキスト以外にも、夜間(演習)の計トレってあって、それだけで演習量もいかつくなっちゃうんで。量が、十分、受験で戦えるレベルにもなりますし。東北医科薬科に関しては、全部の大問がテキスト通りだったんで。東北医科薬科の大問1が接線、大問2が複素数で、大問3が図形で、全部テキストに載ってた問題で。もう全部、ほぼテキストで。平野先生もテキスト重視にやれば大丈夫って、言ってたんで。その東

北医科薬科の問題、結構ネットも見ると、みんな出来が悪かったみたいな書いてあったんですけど、岡宮(岡宮海:獨協医科大進学)とか、あんま数学得意じゃないやつでも、6割ぐらい取ってたりもしてたんで、やっぱりテキストやっとならば、医学部に特化した予備校なんで、医学部の問題は全然、他の人より取れるんじゃないのかなと思うんで。化学も、結構もうほぼテキストとか、あとセミナー、結構やらされてたんで、その問題がめっちゃくちゃできたんで、結構なんか解きやすかったイメージはあります、大学によっては。愛知医科もですし、日大もですし。

現役で防医は、えげつないくらいできる。

防衛医大については、男女比は、男子が3で女子が1ぐらいです。女子が4分の1います。毎年割合が決まっています。多分1浪が一番多いですね。2浪も20人弱いると思うんで、20パー以上はいますね。結局やっぱ頭いいのは現役だったりします、10月の段階でもう浪人と戦える学力がもうできちゃってるってことなんで。みんな賢いですね。特に現役正規はえげつないです。結構、慶應、受かってるけど、ちょっと学費が2000幾らだから、防衛、受かったから防衛行くっていう子もいます。2次で身体測定やります。あと目が悪過ぎると駄目なんで、まあ矯正してるって話あれば大丈夫なんで、そこはコンタクトで賄えちゃうんで心配しなくていいですけど。体重と身体測定以外は、もう勉強面ですかね。防医の対策に関して、石井先生とも話してて、あんまり対策しないでテキストやってて大丈夫って言われて、もう本当ずっとテキストやってたんで、それで受かってるんで、テキストやっておけば何とかなります。数学も、テキストの問題が出てきたん



で、防衛医大は。代官山のテキストの3集の問題だったんですけど、覚えてます。太郎さん(中村太郎先生)に授業やってもらった次の週に出てきたんで、うわ、これ授業じゃんと思って解けました。あと、平野先生に、コサイン10分のパイと、5分のパイ系列は、もう口酸っぱく覚えろ覚えろ言われてたんで、コサイン10分のパイも出てきましたし。計トレ出てきましたね。今でも覚えてます。結局、テキストだけやったからの勝利みたいな感じですね。

スランプはなかったですね。

石井先生も、常に(成績が)上がり続ける人はいないし、上がって落ちてを繰り返しながら底上げされていくみたいなこと言ってたんで、上がって上がってさらに上がってだと、多分、そんな都合のいい成績の取り方ないかなと思って。けど、7月のマンスリーは、落ち過ぎっちゃ落ち過ぎだったんですけど、まあ取りあえず開き直って、8月に備えようって思って、開き直って切り替えてました。石井先生のを聞いてたから開き直れた感じですね。英語以外にも受験の姿勢とか生活面とか医学部の話もしてくれたりしてて。例えば、受かる人って、典型的に、まあ人間は理性と感情でできてる生き物だから、コントロールが大事でそのときどっちが支配してるかって、感情と理性で、理性が上回れば、多分、受かるんですよ。でも感情っていうか欲望が上回ったら落ちちゃうんですよ。やっぱ楽しいとかって感情で感じるものなんで、楽しいほうに流れると欲望が勝っちゃうんですよ。それで僕、1浪目、落ちてるんで。1浪目、北九州のほうの予備校で。まあ、楽しかった、楽しかったっていうか、でも、ここも、友達と一緒に勉強したりして楽しかったは楽しかったですね、違う意味で。でも、向こう(北九州)は土日ともう完全に自由だったんですよ、寮も、母親とか父親からの目がもう完全になかったんで、遊び放題だったんですよ。けど、2浪目は実家から通ってたんで、行かないと親にもうシバかれるんで、それでもう行ってましたね。家が伊勢原で、結構遠かったんですけど、単語とか覚える時間に使えたんで。朝、1学期はもう本当にもう気合入ってたんで、もう朝6時ぐらいに出て、もう7時半とかに自習室にいたりしてたんですけど、後半からちょっと、どんどん遅くなってって、9時ぐらいになってました。へへ。駄目、駄目で、フフフフ、フツ。家、帰るのも10時半過ぎ、で、そっからお風呂、ご飯、で、寝んのが12時前で、1学期はまだ最初だったんで、体力が余ってたんで、結構まあ5時半とかに起きちゃって、睡眠時間少ななくてもいいんですけど、途中からきつくなってきたんで。でも一回下げると、どんどん遅くなってくんで。志望校と一緒に一回下げたらどんどんもう妥協していつっちゃうんで、まあもう本当キープすることが大事かなっていうのは感じましたね。電車の中で数学は、ぱっと見て解法が思い付くか思い付かないかってやって、夜、結構すいてるんですよ、新

百合ヶ丘辺りからもうみんないなくなっちゃうんで電車の時間をうまく使いましたね。日曜日も来てました。全く来なかった日はないです、毎日来てました。物理は問題解いて、定義を覚えてを繰り返してました。定義を覚えろ覚えろって言われるんで、それは大前提だから、それをやりながら、テキストなり、基礎徹底演習だったりで問題を解いてました。

1年目と2年目での浪人生活の違い。

今年になって去年より勉強したからこそ、1年目の受験よりも2年目の受験のほうが不安でした。なんか1年目は、大して勉強もしてないのにやたら自信あったんですよ。今年で受かるかなみたいな。そしたら全部1次落ちて。で、2年目はまあ、そこそこ勉強したって自分でも思ってたんで、なのに、なんか落ちたらどうしようとか、絶対、学力は去年よりもその前よりも上がってるはずなのに、受かるのかなみたいなのはあって、不安は逆に増しました。真面目にやったからこそ。勉強すると、いろいろ粗が見えてきて、やればやるほど穴が見つかってって埋めてっての繰り返しで、まあ正直、多分みんなそうだと思うんですけど、完璧にはならないんで。ま、完璧を求め過ぎずにやろうって。

レビューテストもちゃんとやってみました。

レビューテストは、自分のレベルの応じて出してもらえて、ちゃんとやれてましたね。でも分かんないところは質問行ったり、あと、別の解法を聞きに行ったり、例えば、普通の大学受験のやり方で解く方法と、まあ外積使ってやる方法とっていうので。ベクトルがノリさん(高橋典先生)に担当してもらってたんで、1学期は。ノリさんとこに行行って聞いたりしてました。記述じゃないところは、もう外積とかばんばん使ったほうが、多分、早く解けちゃったりもするんで。だから、大学受験の範囲ではないけど、使えたほうがいいかなというのはありました。科目にもよるんですけど、テキストは、1学期は4、5周したと思います、数学は。確率、ベクトル、複素数平面が苦手だったんで、2集と4集は特にやりました。物理は、3人、寺澤先生、小澤先生、野村先生に行っていました。野村先生は積分微分を使ってくれる感じで、結構すんなり入ってくるなっていうのがあって、けど、定義ってまあ根本は変わらないんで、3人の先生の説明聞いて、表現の仕方が違って、ようやく、あ、そういうことだ、理解できたというのもあったりするんで、誰がっていうのは特になく、3人に同じところを教わって、あ、こういう見方もあるんだって、理解が浸透して、理解が深まったっていう感じでしたね。

不安になるやつは暇人。

石井先生の授業は、すごい分かりやすかったです、予習もちゃんとしたし、なんか、すごい、もう前から2、3列目まで完璧に埋まってたんですよ。教室行くと、

もう、1列目はもう女子とか占領してて。ピンポイントで当てられました、すごい当てられる時期があったりっていうのがあって。夏は日根野(順天堂大医学部進学:日根野龍)と一緒にだったんですよ。んで、日根野がめちゃくちゃ当てられてるイメージあったんで、僕は、たまーにっていう感じで。いろいろ石井先生の言葉は刺さりました。はい。刺さってました、浪人中。一番刺さったのは、もう受験生に関しては、感情・欲望、上回ったら終わりだからっていうのと、あと、不安とかは暇人が感じるものだからっていうのは、もう言うてたんで、取りあえず目の前のこと手に付けて勉強しよってのは思ってたね。復習するとき、結構、時間がたつと忘れちゃうっていうか、忘れます。勉強自体、質と量の掛け算だから、質も上げていかなきゃいけないっていうので、質は、相当考えてました。例えば、できるものだけをやって、大事ですけど、できるところだけやるのは勉強というよりかは、どっちかという自己満足に近い感じなんで、できないものを、1学期中に、一掃してもう洗い流したんですよ、苦手分野。得意の中でも苦手分野っていうのをノートにまとめて、そこをメインにやって、そのあと先生に過去問から引っ張り出してきてもらって、似たような問題を自分でやってたんで。数学とか、どっちかという演習をがつつりやるって感じで、物理は結構2週間前の授業でやったところを、ちょっと変えて出してきたりもするんで、そういった面では、物理とかは復習になったりしました。授業、多くて、ちょっと最初、食らいました。やばいと思いました。多いです。でも、結構、適応能力早いほうなんで、5月ぐらいには全然慣れてたんで。授業中に復習する技を編み出すっていうか、他の授業で、例えば夜間で復習できたりしました。テキストが復習用になってたんで。問題見たときに、これどこの授業でやったかっていうのを思い出したりはしてました。

合格への軌跡は読んでましたね。

これ(合格への軌跡)、ちょっと盛ってないかみたいなのはありましたけど。でも、周りにも実際1年で受かったっていう人も結構多いので、塚崎さん(東京女子医科大:塚崎 彩乃)なんかもう、文系なんで多分I・II Bはかじってても、IIIは絶対やってないはずなんで、しかもあの人、物理・生物受験だし、不利かどうか、ちゃんと受かってっから、本当なんだろうなというのは。結構、(合格への軌跡)見てました、読んでました。僕自身は、結構さぼり癖あったんで、1浪目のときも遊んだりしてたんで、授業が多かった分、拘束時間も多かったんで、そこはよかったかなっていうのはありますね。拘束時間が嫌な人とかもいるんじゃないかと思うけど、僕はもう、そうじゃないとやらないんで、嫌とか関係なく、そっちがよかったですね。忍耐力は多分、付いたと思います。拘束されてる分、ずっと我慢してたところはあったんで。昔は本当、勉強毛嫌いだったんですけど、浪人して今年になって勉強習慣が

ちゃんと付いたんで、その勉強習慣が今でも役に立ってるのかなというのはあります。

今年、医学部合格をねらう後輩の方へ

浪人って人生の岐路だと思ってて、父親とも話してて、正直2浪して駄目なら別に一般学部もありかなというのを考えてたりしてたんですけど、2浪目のときやっと、初めて目に見えて成績上がってきたんで、気持ちっていうかモチベーションも上がって、やっぱ医学部一本でいいこうってなったんですけど。なんでまあ、代官山は、人生の岐路において、いい方向に舵を切ってくれた場所だなんていうのは感じました。特に数学は、市販の参考書とか手を付けず、テキストだけやってれば医学部受験は戦えるし、化学は多分、テキストやれって言われると思うんですけど、もう本当それだけで十分だし。英語も、相当テキストだけで、長文、多いし、医学部に特化した長文だから。文法書で『ネクステ』とか手出すのはいいいとは思んですけど、基本的に軸はテキストでやってたほうが、間違いはないかっていうのは思うんで、それを伝えたいですね。自分も1回いや、現役入って2回、失敗してる人間なんで、ま、7時に来るって決めたらもうずっと7時に来て、いや、今日は7時半でいいかなってなると、どんどんもう気付いたら9時とかなってるんで、本当、決めたらもうその時間に毎日来たほうがいいです。あと石井先生からも、ちゃんと均等にやれって言われると思うんで。やっぱ、僕もそうだと思うんです、夏までに(成績)上げたら、あとは波に乗りやすいかなというのもあるんで、夏は天王山って言いますが、多分、浪人生に関しては夏前が天王山だとも思うんで、浪人はもう夏前までにはそこそこ取っておきたいなっていう、後から追い上げてくる現役のことも考えたりして。



卒業生が語る

合格への 軌跡2022年

WAY TO SUCCESS

日本大医学部
東京女子医科大

1期2次合格
2次正規合格

ここにいれば、真面目にやれば
絶対受かるよね。変に不安にならずに
言われたことやってれば受かる

日本大医学部進学 大石真穂さん（大阪女子学院高校卒）

卒業生が語る

合格への 軌跡2022年

WAY TO SUCCESS

日本大医学部	1期2次合格
東北医科薬科大医学部	2次合格
埼玉医科大	前期2次合格
獨協医科大	2次合格

やる意味あんのかなって
思うことほど強制的に
やらされて良かったなって。

日本大医学部進学 佐々木青葉さん（東京女学館高校卒）

より厳しい環境を選んだのがよかったかも。

大石：大石真穂です。日本大学医学部に進学しました。1次合格は日大と女子医科、川崎医科、聖マ、東医、昭和。

2次、受かったのが、日本大学と東京女子医科大学です。

佐々木：佐々木青葉です。日本大学医学部に進学しました。最終的に、2次合格いただいたのが、日本大学と東北医科薬科大学と埼玉医科大学と獨協医科大学です。結局、4校ですかね。

大石：私は、以前は大手の所に行っていて、駿台と河合に行ってたんですけど、何かあんまりプレッシャーも掛からないし、緩くて勉強できなかったときに、母が知り合いから勧められて。方波見さんっていう方に。

佐々木：私も駿台行っていて、駿台行っているとき、何かただ、授業受けてるだけみたいになっちゃって。高2の最後に医学部に行きたいっていうのを決めて、ちゃんと医専に行ったほうがいいと思っていろいろ調べて。学校の近くにあったのがここ（代官山MEDICAL）だったっていうのと、あと親が、同じ高校の人がいっぱい行ってるっていうことは何かいいところがあるんじゃないかって。おんなじ高校の友達が4人くらい行ってたので。須藤（北里大医学部進学：須藤晶紀）、塩尻（日本医科大進学：塩尻愛菜）とか、他の所も行ってたんですけど、人数が少な過ぎて。他は割と人数、少ないんですよね、全体で、20人とかで。少ないと、自分の立ち位置がわからないし、競争がないから空気も緩くなるし。あと、ここ、ランキングが貼り出されてたじゃないですか。私がちゃんとできないっていうか、駿台行ってたとき、やってもやってなくても誰も分かんないみたいな状態だったので。医学部目指してやるなら、そういうランキングとかはられるのきついけど、そういう状況に自分を置いてやったほうがいいんじゃないかなって。ランキングとか貼り出されるのマジで嫌だったんですけど。

大石：私はあんま人の名前は分かんなかったから。自分の位置しか見てなかったけど、ランキングがあったほうが、親にも頑張ったって言いやすいし。先月は何位だったのが今月は何位になったとか。

佐々木：モチベーションにはなるよ。

大石：目で見える数字とか言えるほうが私は好きですね。

佐々木：結構、周りの友達から、「めっちゃスパルタだね」みたいな。

大石：結構、言われるよね。めっちゃ言われるから。貼り出してる所ないから。

佐々木：ないんです。何校か見たんですけど、医専も。そういう競争みたいなのがなくて。親も、何かちょっと自分の世界だけで勉強するのはあんまり伸びないんじゃないかなみたいな話になって、自分の中でも、誰でも行ける所じゃないっていうか、医学部難しいのは分かってたので、やるならそういう所に身を置いてやったほうがいいのかなと思って、1年は追い込もうみたいな感じで。

ついに、合格通知が届いた瞬間。

佐々木：いや、もう、普通に両親で泣いてました。（補欠）番号ない学校ばかりで、私が。それで埼玉はもう回ってこないかもみたいな番号で、獨協と東北が番号なくて。日大、103とかだったの。日大も回ってくるか分からなくて。本当に来るか分からないみたいな感じで、結構、もう、2浪がちらついて、マジで絶望みたいな感じで。外を歩いても全然楽しくないし、何してても楽しくないみたいな。2浪、どうするのか。浪人続けるかみたいな感じになって、毎日それ考えて。もう、2浪だったらしょうがないかなとは思ってたんですけど、毎日、しんどかったですね。受験勉強よりもつらかった。待つしかないの。しかももう勉強す



るなら早く勉強、2浪目の準備をしないと。そのスタートつまずいちゃうと思ったので、取りあえず塾に毎日来て、自習室座ってみたい。毎日来てました。ふた開けたら。一気に、何か、東北、来てから2週間後とかに日大来て。その3日後とかに獨協と埼玉、同じ日に来て。お母さんは結構、何でも泣いちゃうんですけど。お父さんも、だいぶ泣いてましたね。

大石：それはすごい。うちは軽いし。なので仕事に一応ビデオ電話したんですけど、「よかったよかった。じゃあ仕事」みたいな感じで。

質問に行けるようになった。

大石：ある程度、質問とか、人生でここ（代官山）くるまでに行ったことなかったけど。そういう先生とかに話すのも嫌だったし、積極的には一切行けなかったけど、ちょっとは話しに行けるようになったし、自分のことをある程度自分でできるようになった、昔よりも。昔は全然自分から質問には行かなかった。高校卒業して他の予備校行っても、自ら質問は、話し掛けられない限り話さなかったし。質問、行ったことないし。行けなかった、雰囲気的に。ここはまだ行きやすいけど、先生もやたら多いし。みんな行ってるし。空気感的に、先生がばって集まっても、ここってまだみんなが見ててオープンだけど、講師だけの部屋について言われたら、もう、入れない。

佐々木：私も駿台のとき、話し掛けにく過ぎて全然行っていなかった。ここ来てからかも。学校でも質問行ったりしてなかったから。もう、分かんなければそのままみたい。

大石：いつか分かるだろうみたいな感じで。置いて。

佐々木：取りあえず一回置いとこうみたいな（笑）。こういうことなのかなみたいな感じで。

大石：聞けなかった、先生には。何でだろう？ 雰囲気、ここいいよね、質問の行きやすさ、全然違う、他と。

佐々木：距離感が近いから、先生と。普通のときとかも。めっちゃ、エレベーターとかで会っても話してくれるから。それで、何か。

大石：集団の、ああいう、駿台とかだったら、自分、いてもいなくてもバレないし。

佐々木：誰かいたよね、下に行けば。誰かしら。

大石：質問がそんなたまったこともないし、だから何も考えずに今やることだけしかやってなかった感じ。

佐々木：しかも繰り返し授業で出てくるしね。授業で分かんなくて、質問行っても分からなかったりしても、また時間経って別の授業で出てきたり、何か同じこと3、4回出てくるから。何回もやってるうちに何となく分かってきたりするやつもあるから。

大石：数学とか特に何回も出てきたよね。

佐々木：なんかだんだん理解してって、毎回質問行って。でも、それだけでも時間割いてる意味もないから、取りあえず何となく理解して一回終わらせて、また次出てきて質問行って何となく理解して終わらせてみた

いな、やってるうちにだんだん分かってくるようになるから。

大石：「前期テキストのあそこだったよね」って言うてくれるから、それで、やったと思って。そのときはちょっと慌ててその問題見て、私はちっちゃい付箋みたいなのにちょっと書いて周りに貼ってました。そしてらもう日々、目にするんで。

佐々木：似た問題何回もやってれば分かってくるのもあるかもしれない。

大石：結構、出てきた。

佐々木：さらっと何回か出てきたりするから。そこメインみたいな感じじゃなくても、話の中に出て来たりする。ていうか、先生たち、結構、テキストのあそこって言う言い方するから。

大石：それで伝わるよね。

佐々木：それ、しかも、自分が分かんないとき、ヤバイ、復習やってないみたいな。ヤバイ、ヤバいつてなって。このテキストの何ページとか、前期の何回とか。

大石：うん。このなんちゃらだよとか。

佐々木：そう。回数とか覚えてるから。こっわと思いつながら。

人間関係も気を付けた。

佐々木：自習室の外、出ちゃうと、人がいると、私、絶対しゃべっちゃう人だったから、浪人中、マジで人生で一番、口数は減らしてた気がする。この1年が一番しゃべってなかった。夏ぐらいに話せる子ができたぐらいで。でも、ここ1年でしゃべってもう1浪するのはちょっときついと思って。スマホも多分、人生で一番使っていない1年だった気がする。

大石：友達、本当にもめるのが嫌だったからあまり何もうわさとかも聞かないけど。交わらなくて済むか



ら、聞かなかつたし。携帯は2台持ってて、遊びというか、全部そういうのが入っている物は家に置いて、電源も入れてなくて、週末ぐらいだけ見て。学校の友達も「日曜にしかLINE返さないから」って言うておいて、日曜にしか返してなくて。こっちの人とはLINE交換せずに。終わってからしたんですけど、終わるまでは一切誰とも交換しない。それで夜とかにLINEが来て返すのも面倒くさかったの。携帯を分けてました。2台で。片方は趣味で。もう一個は、ここに来る往復で親との連絡とか、何かあったとき用の。絶対、あると見ちゃうの。それこそ、誰がどこにいるとかの情報とかも入っちゃうから行きたくなるし、絶対見ない。

代官山に来なかつたら受かつてなかつたかも。

大石：私は絶対に受かつてない。大手の駿台と河合に行つて、自分、駄目駄目で、もう、多分、諦めてたと思う、普通に。もういいやと思って。お母さんも、「もう、留学する」とか言つて。「ハワイとかどう」とか言われてて、私、外国語無理だなみたいな感じで。それで最後ここで来てみて賭けてみるってなつてもう一年になつたけど、ここなら受かる希望が見えたから続けたかな。他だつたらもういいやつてなつてた。

佐々木：私も無理でしたね、多分。そもそもここ来るまで勉強の仕方を知らなかつたので、そのまま多分、河合、駿台とか続けてても、勉強の仕方が分からないまま授業だけ行つて、もうずっとその繰り返しになつて成長しないで終わりみたいになつてたので、そもそも大学も行けてたのかなみたいな。結構その次元で。

大石：勉強の仕方は確かにここで学んだかも。勉強のやり方、分かんなかつた。

佐々木：細かく指示出してくれないとできなかつたから、全部言ってくれたのはやりやすかつたし、やる事が明確にしてくれないと。

大石：できなかつた。

佐々木：もう放置しちゃう人だつたから。取りあえずテキストだけやればいいていうのが私的にはやりやすかつたから。いろんなのができないから、各科目これだけやれつてのがあつて、それだけはやればいいていうか。

大石：私もそうだった。1個に絞つてた、やることも。これだけはみたいな。

佐々木：そのほうが結構やりやすい。

大石：ここにいれば、真面目にやれば絶対受かるよね。変に不安にならずに言われたことやってれば受かるし、やんなかつたらそれは駄目だし。だから普通に何も考えず言われたことだけやって安心していいと思う。

佐々木：微積とかも毎日やれつて言われても、本当に意味あるかなとか思いながらやってたけど、終わってみれば、意味あつたなつて思うし、計算力も付くし。やっているうちにスピードも付いてたから、やる意味あんのかなつて思うことほど強制的にやらされて良か

つたなつて。でも、結果はすぐに出ないから微積計算、毎日のやつもやめちゃう人いるけど、薄先生とかはやり続けたほうがいいって、何でか分からなくても取りあえず言われたらやるみたいな。取りあえず素直に聞けば。

大石：駿台とか河合のときと比べて、やること多いけど、自分でやるのがなかつたら遊んじゃうし、あるほうが、朝の時間も、もう来ないと終わんないなと思うから来るし。そっちのほうが私は、決められたこと、言われたことをやるだけだったので楽でした。回らないなと思ったらすぐマンツールの先生に何やるか聞いてそれしかやってなかつたから。私は、マンツールの先生がいてくれたから、回つてないで焦つてることにはなかつたです。

佐々木：私も、スケジュール管理は難しかつたけど、結構、最初のうちから、現役のときからそれぞれ各科目、先生決めてたつていうか、見てもらつてたので。もう、浪人始まつて最初のときから、これだけはやつておけよ、みたいな言われたやつは絶対やつて、予復習で無理なところ出てきたら、マホちゃん（大石真穂）と一緒に、全部聞きに行つて、今、どこまで手が回つてなくて、何を省けばいいとか、どこをやればいいのか聞いて、本当にそれだけやつてみたいな感じでしたね。取りあえずやることを。私、ちゃんとやることを決めないとだらだらやつちゃつて結局終わらなかつたつてなつちゃうの。石井先生が空きコマを半分に分けて計画立てたほうがいいみたいな言つてたので。長過ぎるとできないからみたいなので40分ずつで空きコマ何やるか、書き出して、1週間とかの予定表で、休み時間とかも何やるかとか全部書いてて。それを1個ずつやつてくみたいな感じでやつてました。いや、結構、計画、倒れちゃうこともあつたんですけど。取りあえず、実行できたものを消してく感じが好



きだったの、私は。消えていく感じが達成感があって。20分の休み時間も書かないとしゃべっちゃったり、ぼーとしちゃったり。書いて、それを消したいからやるみたいな感じで、20分休みも全部埋めてましたね。ご飯は5分ぐらいで食べてたのでお昼休みも書いてました。

大石：授業始まる5分前ぐらいに教室入って、何か、卵とかチーズとかパッと食べて授業受けるっていう。

佐々木：ここにいる時間、朝から増やして、とにかくここにいるみたい。とにかく勉強するっていう。

でも、ここにずっといたら、夜型になっちゃいそうだから、だらだら勉強しなきゃいそうだから、それを9、10時で切ってくれるのは逆によかったのかもしれない。

大石：石井先生もちゃんと寝てみたいなの言ってたよね。

佐々木：朝早く来れば夜も眠くなるから。それが大事な気がする。

大石：ちょうどあの時間に（体力的にも）限界が来る。9時半に。

自分にとって代官山の1年とは。

佐々木：一番真面目に向き合った気がする。物事に対して。部活とかも一生懸命にはやってたけど、やっぱり、人生掛かってたから、一番真剣に今まで取り組んだかなっていう一番長い期間だったし、1年っていうのはっていうのは思いますね。

大石：私、こんなに真面目になったことなかったし、焦ったこともなかったし、人生で。初めて焦ったし。何だろう。短かったけど、1個の学校卒業したくらい濃かった気はする。

佐々木：めっちゃ濃かった気がする。去年1年、適当精神やめた気がする。まあいつかっていつも思っちゃってたけど、迷ったらやるみたいな。やるかやんないか迷ったらやるようにしてみたいな。

大石：θの授業とかで、こういうやつは駄目だみたいなことを言うのが何個も結構、自分に当てはまってて。

佐々木：分かる。

大石：人として変えられた。

佐々木：ひやっとする。目を合わせられないよね。それで石井先生にばれてるよね。絶対ばれてる。

大石：そう。それが全部見られてる気がして。1年目はマジで最初、授業行くの嫌なぐらい怖かったけど、何か、全て自分のことを当てられている感じがして。自分のことを全部言われてるのかと思ってたけど。多分、そういう人がいっぱいいたからなんだけど。

佐々木：すごい、現役の自分だって思った。

大石：そう。めっちゃ言われるから怖かったけど、2年目からは、正されてる感があった。今までちょっとあまりにもなまけた人生を送ってたのを正されて、こう行けっていう。

佐々木：石井先生、立ち居振る舞いというか、見ただ

けでたるんでるかどうかまで分かるから、何か、先生の前でだけちゃんとしても、多分、ばれてるんだろうなと思って。常にやっぱりちゃんとやんなきゃみたいな。

大石：緊張感あったよね。

佐々木：どこにいても見られてる気がする（笑）。

大石：美容院とか行ったときとかも、これ、さぼってると思って見られたら嫌だなとか思ってた。何か、緊張感があった。

佐々木：めっちゃ怖いよね。常にちゃんとしないと。そうですね。もう、今、緩みまくってる。去年の反動で。ヤバイ。

大石：緩いし、大学自体がね（笑）。

佐々木：確かに。しょうがないですね、ちょっと。テスト前だけ気を引き締めて。

大石：そうだね。

卒業生が語る

合格への 軌跡2022年

WAY TO SUCCESS

昭和大医学部

1期2次正規合格

聖マリアンナ医科大

前期2次正規合格

岩手医科大医学部

2次合格

愛知医科大

2次合格

海外の医学部プログラムを
断念したけど、
代官山の A10 からスタートして、
昭和に受かった！！

昭和大医学部進学 奈良 拓矢君（広島三育学院高校卒）

海外の医学部プログラムを断念して、代官山のA10からスタートした。

今年、昭和、多いですね。代官山からほんと多いっすね。10人、それぐらいですね。一番最初、現役のときも医学部受けたときは、全落ちでしたね、全落ち、1次で全落ちかな。それから、最初は日本の予備校に行かないで、なんか、海外の医学部に行くみたいなやつプログラムに通ってたんですけど、まあ、それが駄目、駄目で。その海外の大学を受ける受験までの間に、そこに向けた勉強をします、みたいなプログラム。で、そのプログラムをやってる会社の別の支部がそのヨーロッパのほうにもあって、そこでいろいろサポートとかも受けられますよみたいなやつですね。で、それが終わったのが確か9月ぐらいで、で、なんか終わっちゃったから、なんかぼーっとしてたら、ここに、親に、なんか連れて来られて、おまえここに入れみたいな(笑)。はい、みたいな感じで入ったんですけど。前に、いところが代官山に入ったんで、奈良自由造(日本大医学部進学)と、えっと、もう一人、奈良禄太郎(北里大医学部進学)。いところから、おまえ、よかったから行ってみたら、って勧められてって感じですかね。9月ぐらいか、途中からですね。もう1年目は、頑張っただけですけど、受かんないかなって思ってたねやっぱ。9月からの1年目は、代官山になじんだかなぐらいで、あっという間に受験期に入っちゃったって感じで。もう本番っていうか、まあ、しっかり腰据えてってというのが2年目からって感じで1年目は、マンスリーは全然できなかったんで、なんか4科目合計で、100点もいなくて、たしか、合計で、30点、40点みたいな感じだったんで、2年目は、4月入って最初のマンスリーでなんかびっくりみたいな、えー、こんなに取れたっけみたいな感じでしたね。1年目が一番下だったんで、A10なんで、本館とか2号館ってなんだろうみたいな、ちょっと不思議な気持ちではありました。2年目の4月に、初めて2号館に行けて、その、雰囲気というか、がらっと変わって、ぜんぜん違いますね。いや、絶対、2号館に行ったほうがいいと思いますよ。やっぱみんな集中してるし、授業とかも、それぞれ受け方はあるけど、ちゃんとやってるなっていう印象はありましたね。先生が、そのレベルごとに違うんで、僕は2号館の先生のほうが分かりやすかったかなっていうか、いや実力が、理解力がついたんですよ。なんか、その最初の何カ月かは、なんで2号館にいられてるのか分からなかったんで、頑張ってるしかないみたいな。がむしゃらにやってた感じですかね、はい。

英語が特に苦手でした。

英語は、僕、苦手だったんですよ。その中でも北林先生が、やっぱ分かりやすかった。北林先生に英文法見てもらってたんすよ、単語とかイディオムとか文法がもう終わってたんで、そういうやつ、まとめ

のプリントを配ってくれて、自分で、ネクステとか見て、まとめると時間かかるし、実際にどこが出るのかとかとかって、赤本解いてみないと分かんないじゃないですか。だから非効率だから、そういうこうなんかここが出ますみたいな所を教えてください、すごい良かったなって思いましたね。ちゃんとやってれば出るんで。やっぱ質問とか行きましたね。岩瀬先生も、めっちゃめっちゃ面倒見よくて、めっちゃプリントもらいました。ぎりぎりこなせるぐらいですね。いや、もう、うまい、出し方が。こう、ひたすら、問題が書いてあって、何見てもいいから解いて、で、持ってくるみたいな。で、それをその授業で復習してみたいな。感じてたね。もう、全部やりましたね。やっぱ役立った文法、それで伸びたなって。伸びたと思います。ただ、その文法とかって結局、知識じゃないですか。続けないとすぐ抜けちゃうんで、大変でしたね。岩瀬先生に文法見てもらいながら、伸ばしてって、正誤とかもやって、英作文もやって。代官山、どの教科も、いい先生、まあ、たくさんいるけど、結構シンプルに、覚えなくていいことをやらせないし。本当に医学部に合格するための勉強法というのを、ちゃっかり、こう、導いてくれるって感じかな。

授業で復習できるから、集中が続いた。

僕なんか、自習時間多過ぎると逆に集中できなくなっちゃうタイプだったんで、だから授業多かったのがちょうどよかったかなってのがあります。確かに結構ちゃんと詰まってる、なんか他の子もなんか、予備校行ってた子とかと話すと、めっちゃ授業多いねみたいな言われますけど、自習の効率落ちますからね、一人でやってると。授業で一度やったところがまた出てくるので、授業で復習って感じが良かったですね。他の人だと、4時と5時には授業終わって、そこから自習みたいな予備校いってるけど、うち9時まであるから、まあ、やっぱ医専の強みっすよ。ただ、なんかりフレッシュしたいときとかはマンツーマン空いてるところに入ったりとか、下のラウンジで勉強したりみたいなのはやってましたね。何月ぐらいからかな、冬、11月の中旬ぐらいからは仲間と、よく一緒にいるやつらと勉強してたんで、ラウンジにいたこともありましたね。ちょっとしたことだと聞きやすかったりするじゃないですか。なんかお互い勉強に、教えることで勉強にもなるしみたいな。それは良かったかなと思いましたね。12月に入って、マンスリー、ばーんって結果出たんで、いけるぞ、今年って思いましたね。あ、きました、みたいな。ありがとうございます、みたいな感じ。石井先生もま、今年はいけますねみたいな。ま、頑張りましたよ。ねぐらいな感じだったんで、まあ、安心しましたね。先生からの、その、受かるよって言葉めっちゃめっちゃ。いや、もう確実なんで、石井先生、もう、神みたいなもんなんで、もう。あ、今年受かるみたいな。石井先生が言うんだから間違いないと。はい。いろん

な受験生見てきてるから、その時点で確信しましたね。

やっぱり緊張感がある授業だから成績が伸びた。

石井先生のθ。θはやっぱり前で受けたほうがいいですね。最低3列目、だと思います。いや、なんかやっぱり僕1年目も、どうせ受かんないだろうなって思ってたんで、一番後ろで受けてたんですよ。まあ、下のほうのクラスだからあんまり緊張感がないってのもあると思うんですけど、やっぱり前で受けて、ちゃんとこう、びしびし当てられる位置で集中して受けたほうが、ためにもなるし、その参加してて楽しいっていうか。やっぱよく当てられました。前に行けば行くほど。当てられますね。なんか最初は3列目だったんですけど、こう、なんか2学期に入って2列目になってからは当てられるようになりましたね。やっぱある程度の緊張感持って授業受けないと、駄目ですね。やっぱ後ろに受けちゃうと、意識はしてても結局やっぱ、若干、前にいるやつとは、その熱量が違うんで。当てられるんで予習しないとやばいみたいな。そういうのがあるんで。もう恥ずかしいですもん、間違えたら。やってしまった一、みたいな。模試の前後とかで先輩がどうだったかとか、教えてもらったりして、それが参考になったかなって思いますね。数々の医学部の合格者がいるから、やっぱ先生の話ってためになりますね。だから、英語がめっちゃ低い人でもどこどこ受かってるよみたいな。もう、希望ですよ。俺もそうなるんだみたいな。いろんな受かり方があるからさあって、教えてくれて。夏入る前に、M5に上がって、ようやくMクラスっていうか、マンスリー行けたんで、まあ、ワンチャンあるかなとは思ってたんですよ。だから、まあ、ほくほくでした。ついにMクラスだって、い

や、ただ、Mでも下っ端なんで。頑張らないとなってると思ってましたけども。

面接は、無対策は本当にヤバイ。

2次の面接は、僕の場合、不安もいろいろあったんですけど、僕、正規が聖マリと昭和だったんですけど、どっちも、なんか高校の頃のことを聞かれて。聖マリが高校の頃のことだったんで、なんかそれ聞かれたら受かるのかなとか思って。で、昭和でも聞かれて、こ、これはもしやみたい。感じでした。頑張ったこととか。寮だったんで、こう、なんか、寮の中でのこの、役員みたいなやつとかやってたり、ちょっと、何だろうな、なんか労働っていう授業があって、あまり、業者入れないで、自分たちでやりましょみたいな。あと、良い医師になるための素養って、なんですかねってなんか聞かれて、で、いくつか質問した後に、A、Bって紙が置いてあって、Bの紙を取ってくださいって言われて。で、何だったかな、一つに絞って深くやってる医師と、その浅く広く何でも診れる医師みたいな、で、自分はどちらだと思いますかみたいな。僕は、一つのこと絞って深くやってる医師だと思いますって言ったら、なんでですかって聞かれて、ま、いくつかは答えたんですけど、それを身に付けるためにはどうしたらいいですかみたいなって言うので、詰まっちゃったんですよ。なんか、こう、ま、答えたんですけど、それで本当に身に付くんですかみたいな。固まりましたよね。それだけは失敗したなって思いました。代官山の小論文の授業で、結構、面接にも形式がいろいろあってみたいなのをちゃんと教えてくれて、こういうときはこう答えればいいていうのをマニュアル的に習ってたんで、それがすごい良かったかな。英語が苦手とは言わないほうがいいとか、何だったかな、状況設定がされて、なんかこう、何回か答えていくみたいな。そういうところも、すごいためになりましたね。東邦とかばっちり出たんで。まあ、落ちたんですけど。質問の、なんかうまい返し方をするみたいな、そういうのもヒロ先生(小論文科;高橋浩先生)は教えてくれたのがすごい良かった。全然違いますね。無対策だったら本当にやばいですもん。絶対やったほうがいい。

1年を振り返ってみて。

先生の質はやっぱり良かったかな。あと、結構、情報が、集まってるじゃないですか。だからその、どこの大学がどういう問題が出やすく、配点がどれくらいでみたいな。そういう情報はすごいためになりましたね、特に受験期は、その時間配分とかを決める上でも、ためになるし、いかに戦略的に点数取っていかっていくの、がわかるっていうか、受験はまじで、ちゃんと作戦立てて、この問題は何分以内に解いてっていうのを決めたほうがいいと思います。やっぱり、勉強ができるとか、偏差値が高いだけで合格、イコール合格とはならないと思います。もう圧倒的にシビアなんで。時間が足り



ない。足りないですよ。60分の試験で、いかに、こう、戦略立てて、10問、例えば東邦とかもね、数学だったら10問あるうち、7問取れば受かる。この問題解けないとか、そうやって選ぶ力とか、そういうの大事なんで。だからそれを、決めるためにも赤本とかはやったほうがいいと思います。最後はやっぱり戦略立てて大学ごとが重要で、ただ頭いいだけじゃ受からない、そこは大事かな。ちゃんと作戦も一緒に先生教えてくれるし、ここの大学はこういうふうに解けとか、こういう時間配分でいけとか、それをちゃんと素直にできれば間違いなく受かる。1年で。フフフ。まじで、作戦立てないと落ちますね。や、1年目は本当にもう何も知らなかったんで、赤本とかも全然解いてなかったんで、まあ、それは落ちるよなって思いましたよね。やっぱ知識身に付けるだけじゃ、無理です。でも、最後の最後で、ぐーんと伸びましたね。

最初は化学をやっとけばいいと思います。いや、一番伸びやすいと僕は思うんですよ。知識ベースなんで。そう。それで自信付けば、他の科目もやる気になると思うんで。何もできないやつは、最初は化学をやればいいと思います。まあ、でも、頑張るだけなんで。ま、ただ、本館の人は2号館をひたすら目指したほうがいいと思います。はい。全然全然違うんで。違う塾かと思いましたが。いや、もう、うらやましかった。



卒業生が語る

合格への 軌跡2022年

WAY TO SUCCESS

聖マリアンナ医科大 前期2次合格

石井先生がずばずば、
僕の痛いところ、
完全に見抜かれましたね。

本当にもう、何でも
分かるんだな、この先生はって。

聖マリアンナ医科大進学 足立博俊君（慶應義塾高校卒）

自分の生活がちゃんとできてないやつは、3浪する

1次受かったのが、えーと、昭和と聖マリと杏林と獨協だったかな。で、結局2次受かったのは聖マリが補欠2番で、昭和も補欠だけって感じですね。最終的には、まあ、聖マリに落ち着いて、出席とかもそんなに厳しく取られないんで、まあ、自分のペースでやれてるかなって感じです。2年生あたりから厳しくなりそうな気はするんですけど。結構一番大きかったのは、朝早いじゃないですか、代官山って。だから大学生活は、そんな苦じゃなく、朝から勉強することも、あんま大変じゃないかな。代官山には毎朝7時には来るようにしてました。遅くても7時半ぐらいって感じですね。他の人たちと比べて、そんな早いほうじゃないのかもしれないんですけど、他の塾とかと比べたら、やっぱり早いかな。代官山に入って、生活態度もガラッと変わりましたね。自分の生活がちゃんとできてないやつは、3浪するみたいな、4浪するみたいな感じのことを言われて、まあ、確かに、みたいな。自分の生活のどこから改善していけるかなと思ったときに、まずは、朝早くから来て勉強するってことだし、あとカリキュラムもいっぱい詰まってるんで、朝から勉強しないと間に合わないみたいな感じもありました。

代官山に来て、生活態度も変わって、時間も有効に使えるようになった。

3浪目のときに代官山に来て、「君が3浪したのは、自分の生活がちゃんとできてないからだ」みたいな話をされて。確かなって感じはしましたね、その時。1浪目は、●合塾で、2浪目が、えーと一、渋谷の●●ンダムっていう塾にいて、●合塾の授業は、全ての分野を勉強し終わってる前提で始められて、化学とかが全然できずに、4月の一番やる気がある時期にもう一気に挫折しちゃって、もうそっから勉強もしなくなっちゃってって感じですね。僕、理転したんで。クラスの担任の人は分かってるんですけど、担当する講師は、やっぱり、別に事情とか関係なく、ただ自分の仕事やるだけなんで。授業をどれだけ分かりやすくできるかみたいな感じだったと思うんですけど、全然付いていけなくて。2年目で、まあ、医学部専門行こうと思って、●●ンダムは悪くはなかったんですけど、午後が丸々自習時間みたいな感じだったんで、そうすると、集中してできなくなるっていう、もう本当に自分の心の弱さかもしれないんですけど。なんか、だらだら勉強しちゃうみたいな感じになっちゃって。それが合う人もいると思うんですけど、僕はそれが合わなかったから。結局、うまくいかなかったですよ、2浪目のときも。いや、●●ンダム、続ける予定だったんですけど、ただ、親が本当にここでいいの？みたいな感じで、ちょっと調べて。で、代官山っていう、なんか、去年すごい合格者出してる所があるから、説明会だけ行こうみたいな。なんか、すごい塾だなって思った。すごい塾

だなって。ちゃんとしたメソッドがあって思ってた。結構、石井先生がずばずば、僕の痛いところ突いてくるから、よく分かってるじゃん、親にも言われて。見抜かれた、完全に。完全に見抜かれましたね。本当にもう、何でも分かるんだな、この先生はって。受験生のよくないところ、全部知ってるんじゃないかって。代官山は、時間を有効活用できるので、それがやっぱ、受験生としては大切ななと思って。特に、自分の気持ちとか、行動とか律していない人とかは、やっぱ代官山に来たほうがいいっていう気がします。まあ、強制ですよ、朝の9時から夜の21時までやって、帰って寝る、みたいな感じですよ、

だから、午前中の朝早く来た時間と空きコマを有効に活用して、やるべきことはつきりと与えられて、勉強しないとイケないから。やっぱ、ハードではありますし、やることはちゃんとやるよねっていう感じ、あります。

朝早く来て、朝のこの時間帯に微積やるとか、を決めてくってというのが、やっぱ大切なかなって思います。最初は大変だと思うんですけど、まあ、2、3週間経てば、大体慣れてくる。でも、周りも、やっぱ頑張るんで、そういう環境の中にいるから、みんな、相対的に上がっていく中で、ちょっとでも気、緩めたら落ちちゃうみたいな、厳しい環境でもあるかなって思います。父も母にも、さぼる隙もないんで、いい塾だねみたいな感じで言われてました。ちゃんと生活習慣も整いますし、さぼれないんで4月のクラス分けで、ラッキーなことに、2号館スタートだったんですけど、逆効果で、2号館入ったから、9割方受かるっしょ、みたいな。去年とかは、もうほとんど10割近く受かったみたいな話、聞いて。で、M3入れて。あ、これ、今年はいけるみ



たいな、謎の自信が生まれちゃったんですよ。やっぱ、でも下からがんがん成績上げてくる子とかもいて、自分は自分だなんていう、マイペースな気持ちでいたら、焦りとかなくやってたら、すごい子はいるもので、後退していったしまった、というか。恥ずかしい話なんですけど、最初のほう、僕、マンスリー(ランキング)見なくて。競争とか嫌だみたいな、多分、自分の成績が普通に下だったから見たくなかった部分もあるんですけど。最初見てなくてやってたら、クラス落ちて、それでも見なくて。後期から、始まったときに、ようやく、ちょっとちゃんと見ようってなったんです。

夏にさぼってんのがバレて、マンツーマンとってみた。

あの一、夏に、ちょっと、さぼってんのバレて。夏にさぼってんのがバレて、夏休みに入って、気が緩みましたね。てか、気が緩んだっていうか、もうクラスも落ちちゃったからいいかなみたいな、諦めがちょっと出ちゃって。クラスも落ちて、もう無理みたいな。あの一、ガンブラ作ってるの、バレて、家でやってんの、バレて。なんでこの子、遊んでんの？みたいな形になって。周りから、がって言われたのがあったんで、まあ、やるしかないかみたいな、今年で終わらせるんでしょみたいな感じに。石井先生から、あの一、θの文章、全部書けみたいな課題出されて、それをやりつつ。あんまり、もう思い出したくないなって。まあ、無理やり修正してたって感じです。夏に、見かねてか、親にマンツーマンを取ったほうがいいみたいな話されたんですけど、えー、でも、別に授業でいっぱいいっぱいだしみたいな感じがあったんで。マンツーマンは、あんまり取らなかったですね。いや、でも、マンツーマンは早めに取ったほうがいいと思います。絶対、早く取ったほうがいい。人気の先生、取られちゃうんで、後期とかになると。早めで空いてるうちに取っちゃったほうが、スタートダッシュにつながるかなって。夏休みのときに、親が相談して、で、ちょっと無理やり、薄先生入れてもらって。そこでもう、自分の足りなかった基礎知識とかを全部埋めてもらったんで。そのスタートダッシュが、切れるのは、だいぶ、でかいと思います。夏に、横井先生、薄先生、三上先生、取ってやってみたら、1学期からやるときやよかったっていうか、あとで、後悔しました、本当に。絶対、取ったほうがいいと思います。特に、ちょっとでも苦手を感じてる科目とか、苦手を感じてなくても、あんまり点数取れないみたいな科目は、絶対マンツーマン取ったほうがいいと思います。先生が集団を担当してくれているからこちらのことがよくわかって教えてくれるんですよ。もちろん、授業聞けばちゃんと分かるんですよ、先生は授業すごくうまいし。練習問題解けるっていうのも、先生の授業うまいから解けるっていうのもあるんで。でも、実際、じゃあテストやってみて、まあ、ウィークリーでも何でもいいんですけど、取れなかつ

たらできないっていうことなんで。絶対、早めにとったほうがいいかな。抵抗感もあると思うんですけど。1年で終わらせるんだったら、絶対マンツーマン取ったほうがいいと思います。

入試が始まってからも、毎日、試験が終わった後、代官山に帰ってきた。

絶対、帰って来てました。分かんないところとかは全部消化していかないとまずいんで。万が一、他のところで出たら、すごい嫌な思いするじゃないですか。絶対に来て、どこできたか、どこできなかったとか、あそこは取るべきだったとか、問題の全体見て、じゃあ次の大学で、こういう問題出るかもねみたいな話とかはしてもらってましたね。絶対来てました。っていうか、家帰ったら、多分、何もやらないんですよ。あの一、1、2浪してるんで分かるんですけど、疲れて、多分寝るんですよ。で、気付いたら翌日になってるとか、食事になっても勉強に気持ち切り替えるのって結構大変で。それを塾に来て、無理やり変える、気持ち切り替えるっていうのが、やっぱ大きいと思いますね。1浪のときも2浪のときも、毎回落ち込んで家に帰ってましたけど、今年は、そんな暇ないんだよっていうのを塾が教えてくれてて、うん。絶対戻るようにしました、先生が待っていてくれるんで、大体4時、5時ぐらいで試験は終わると思うんで。まあ、2時間でもね、質問する時間は十分あるんで。ちゃんと有効活用したほうがいいと思います。周りにはできたってやつもいるので、本当に嫌でしたけど、気持ちの切り替えのほうが優先なんで。

先生、どの先生もちゃんと見てくださる、面倒見いい先生が多い。

面倒見がいいです、本当に。で、全部分かってるんで、勉強の仕方とかはね、ちゃんと見てくれるんで、うん。誰か1人は仲いい先生、作っと思ったほうがいいと思います。石井先生の場合は、特に、受験生のことをよく知ってる、本当によく知ってるんで。あの一、何でも分かるんですよ。確かに他の先生とかも医学部のエキスパートではあるんですけど、その、科目のエキスパートっていうのもあるんで、そっちの分野が、やっぱ強いじゃないですか。石井先生の場合、全部知ってるんで、うん。だから、僕は石井先生をお勧めします。実際にしゃべってみたら、しゃべってみると、結構ちゃんとフランクに、まあ、ずばずば言ってきますけど、割と遠慮なく言ってくるんですけど、でもちゃんと。逆に遠慮なく言われたほうがね、逆に、何ていうのかな、自分のやることが間違ってるっていうのを。例えば、大丈夫、受かるよって言われるより、もう、いや、ここ、君、足りてないからって言われたら、自分のやることが、ぐって。確かに、実際に受かってるし、多分先生も受かってるっていう確信があったから言ってくれたと思うんですけど。でも駄目じゃないかなみた

いな不安とかもあると思うんです。絶対ね、大丈夫って言われても。それをずばっと当ててくれるんで。

面接は、本当に大事です。やないと2次で落ちます。

僕がどうして3浪してるのかっていうのと、やっぱちょっと、普通の浪人生とは違う経緯なんで。先生、結構昼休み返上してやったりしてくれるんで。ちゃんと見てもらえるから、ある程度、面接のテンプレートっていうか、自分用のテンプレートを作ってもらえるしその練習をしてくれるから、やっぱ大切だと思います。僕の場合は特に下手なこと言ったら、そこでもうどんどん、なし崩し的に落ちてっちゃうんで、ちゃんと言ったこと決めてやってかないとっていうのはあります。授業だけで、小論とかは絶対できるようになるんですよ、マンスリーもあるから、小論は練習して対策できるんですよ。面接って、実際にちゃんと一対一で対話ができないと。ぼくは、緊張して、全然話せなくなるから。土台つくってかないと厳しいと思います。あとは話し方とか、自分の態度とか、あとどういうことに相手は気にしてるのかとか、どこ見てんの、とか、そういう、細々としたこと、例えばこういう返事の仕方したら、こう返されちゃうよみたいな、結構、圧迫面接とか言われるんですけども、そうじゃなくて自分の、結構、自分から隙を作っちゃってることとかが大きいあって。その隙を与えないための授業って感じです。あ、あと、代官山って、どういう塾だった？っていうのは聞かれました。朝早くから勉強して夜遅く、朝から夜まで勉強してましたみたいな、朝から晩まで勉強してましたっていう感じなんで。本当に単純化させるのが面接のこつだと思いますね。

1年を振り返ってみて。

絶対、医学部受かるんだったら、ここに来るのが一番近道だと思います。持ち上げるわけじゃないんですけど、大手と医専一つと、ここ来たんで、何となく分かります、うん。ここ行って受かるっていう気がします。ちゃんとやれば代官山が医学部受験の一番の近道。軌道修正できなかったら、ちょっと厳しかったかもしれないです。でも、しっかり受かったんでよかったです。正直に言うと、やっぱ本館にいる子たちは絶対2号館に上がらないといけなくて。で、2号館にいる人たちは、一番下のA3とかは、もう危機感持ってやるべきですし、M1だからっていいってわけじゃなくて。だから、ちゃんと、自分のやってることの現状を認識しながら、受験勉強するのが大切です。あとは先生の言ってることをちゃんとやる、それだけだと思います。ちゃんと勉強するってぐらいです。てか、もう本当に自分から洗脳されにいったほうがいいかもしれないです。洗脳っていうとちょっと悪いイメージあると思うんですけど、本当に先生の言われるがまま流されて、で、やることはちゃんとやるっていうのが。実際に、その先生が言

ったことを、6割とかじゃなくて、ちゃんとある程度、9割は一番良くて、ベスト10割っていうか、100パーセントなんですけど、それぐらいに近づけていくっていうのが、うん。そうすれば、受かると思いますね。素直さです。吸収力というか。素直さです。反骨心も出てくると思うんですけど、先生は、何年か何十年とかやってる人もいるんで、やっぱ、その先生の言ってるのが、やっぱ正しいわけで。だから、先生のことを好きになって、先生の言うことを言われるがままにやるのが一番ベストだと思います。で、朝は早く来ると、そういう感じですね、うん。それが大切だと思います。



卒業生が語る

合格への 軌跡2022年

WAY TO SUCCESS

岩手医科大医学部

2次合格

夏過ぎ、成績が思いっきり
下がったんで、怖くて怖くて
仕方がなくて。勉強しなきゃ
やばいんだって思って、
震えながら勉強しました。

岩手医科大医学部進学 酒井 翔太君（京華高校卒）

親にも、先生にも、キレられました。

岩手医科に進学した、酒井翔太です。岩手陣は、僕のほかに、佐々木麗人とか長谷川靖とか、小松紗千佳さん、あとは大弓紗由莉さんとか、藤森大輝くん、そのぐらい、6人。嫌だったですね、勉強が。まあ、今も嫌いですけど。ハハハハハ。高3のとき、ちょっとさぼり気味な感じでいたら、バレてキレられました、母親とか、いろんな先生に。お前、来る気あんの？勉強する気ないんだったら、医学部なんか無理よ、行けないよ、みたいな感じで。代官山 MEDICAL でも昼休みのときに6階の会議室に呼び出されて、キレられました。やる気ないの？みたいな。医学部、行くんでしょって。授業さぼってたら、バレると思います。なんか、周りの生徒からっていうより、先生に速攻されました。で、マジやらないといけないうってなった途端、俺、化学もできないし、英語も嫌いだし、逃げてたからかなりツケが溜まって、高3のときは、まだまだ受験なめてましたね。高校3年のときは、どこも、結局、1次とかもなく、当然か？、高3ときはなかったです、全落ちですね。気持ちとしては、もしかしたら、どうか引っ掛かるかも、ぐらいに思ってたけど、一回、挫折を味わって、そこから、浪人して4月ぐらいからはもう、本腰入れて、落ち込んでも時間は返らないから、もう1年かっていうのはあったんですけど、よくよく考えれば、去年、何もしてなかったじゃんって思ったんで、ガチで勉強しました。今年1年、頑張ろうっていう感じですね。親に頑張るからって、続けますって言って、頑張った感じです。4月のクラス分けで、A9とかA10になるんじゃないか、とかって思ってたんですけど、全落ちしてからすぐに春の先取り(授業)やったのが大きかったのか、周りよりも早く始めたんで、なんか、A2にいらして、でも、俺行けんのって、A2で大丈夫か？って、俺はここで死ぬんじゃないかなとか思ったんですけど、まあ、物理はついていけそうだったけど、数学の計算ミスの多さが尋常じゃなかったんで、ここでやっていけないかもな、って思って不安は不安でしたけど、一応、2号館の下のほうからスタートできました。

最初は、ボロボロに計算ミスしてました。

最初、すっげえ計算ミスしてて、もう、ぼろっぼろでした。どこで俺はミスった？みたいな感じだったんで、代官山 MEDICAL のテキストはやるのはもちろん、何か小学生みたいな100マス計算を母親が買い与えて、俺も、最初もう、拒絶してたんですけど、嫌だ、そんなのやりたくない、幼稚だとか言ってやんなかったんですけど、途中から、藁にもすがる思いで取り出してやってたら伸びましたね。俺って、計算過程を無理に飛ばすんで、いると思うんですよ、おんなじような生徒。いろんなところに。この塾じゃなくても、そういうところをやっぱ注意されたり、なんでこうなのかっていうのが自分で説明できなくなったりするんで、

そうするとやっぱり、記憶にも残らないし、やってても、何やってるか分からなくなって。結果、計算ミスにつながったから。そういうのを徹底的に直すっていうか、自分で追えるようにしたって感じですね。何か能天気っていうか、いけるわ、みたいな感じで、のりのりで解いてって、ぼこぼこになってるんで。それでも、次はいけるっしょ、みたいなのがあったんで、楽天主義っていうんですか。でも、岩手とかは楽勝だったかな。計算ミスが、すごいなくなったので、あれ、いけるやんと思って。冬期講習の数学の授業で、マーク対策があって、そのおかげもあって、数学だけ、最初20分で、大問3個終わって、残りの大問1個、場合の数で、どうしても数えなきゃいけないってなって、それを20分ぐらいかけて、ずっと数えてやって。聖マと岩手だけなんですけど、すんごいできて、それで受かりました。やっぱり、計算ミスも、かなり無くなったつつうか、数え方がすごい下手だったんですけど、なんか他の人と同じぐらいには、数えられるようになった感じ。ものの数え方がちょっと、確率、数え方が身に付いたのになって。慎重さが身につきました。

朝早く来て、時間増やして、差をつけることを考えた。

周りと差をつけるためには、朝早く来ようって。学力で差、付かないんだったら、勉強する時間増やして、経験増やすかっていうので、6時ぐらいですかね、自習室到着は。他にも2号館は来る人は来てましたね。シャッターが開く前に、前に10人以上、並んでるから、きょうは暑いな、みたいな感じ。寒いなあ、みたいな、やってましたけど。ちょっとゆるんだときは、ありますね。1週間ぐらい。やばい、起きれない、てなって。なんか、気持ちの問題っていうより、体力的に朝、起きられなくなって。夜もすぐ寝ちゃうようになったときが1週間ぐらい、どっかであって。それで、危なかったっていう。で、何とか持ち直しはしたんですけど、で、結構そこが、きつかったですね。大学入ってからは、その半分しかしてないんじゃないかなっていうぐらい楽ですね、もう大学入れば、プラモも作れるし。山にも行けるし。何だ、これは、天国か、とか思いながら。浪人ときは、何もできなかったですよ。本も読めないし。ひたすら小論文のテキストを読む、みたいな。そんな感じで。なんか小論文、すごい苦手だったんで。読まざるをえなかったですね。SNSとか、ゲームとか、一切、遮断して。LINEも、そもそも誰とも交換してなかったんで。スマホは受からないと使えないじゃんっていうのが強かったんで。じゃあ、使わなくていつかって。

来たくないって思いはありましたよ。

個人的にはありました、なんか、何でこんな朝早く起きてんだろなって、ちょっと、なんか、自問自答してた変な時期はあったんですけど、でも、それでも来なきゃいけないっていう強迫観念が強くなって、来て

た感じですかね。怖くて仕方がなかったです。特になんか、夏休み、途中からはもう何か、成績も思いっきり下がったんで、怖くて怖くて仕方がなくて。ああ、(自習室に)いなきやいけないんだ、勉強しなきゃやばいんだって思って。震えながら勉強してました。夏なのに何でこんなに寒いんだろうっていうぐらい。悪寒が走るぐらい勉強して、でも、勉強しても、勉強すればするほど、目標が遠のく感じが。なんか、万里の長城の最初の2、3歩、歩いてダウンしそうなぐらいな感じで、辛かったです、本当に。課題が、課題しかないんですよ。なんか、道が縮まることは絶対なくて。見えてくる課題は大きくなって。その分、自分の走る速度も上がるんで。課題に対する自分の走る速度が上がれば、受かるしっていうのがあったんで、本気で取り組みましたね。

問題演習の処理速度は上がったと思います。

「処理速度」がやっぱり大事だと思う。数学とか物理に関して、化学もそうですけど、この1年で相当処理速度を上げられたのかなって思いますね。化学は小林先生のおかげで上げられたかな。英語はきつかったです。そもそも読めないんで。処理も何も、構造の解説から始まんないで。情報の処理の前に、暗号解説です。最初は自分独自の解説法で、最初それでした。もう、なんか、傲慢でした。今から思うと、強情で傲慢な、くそ野郎だなんて思います、自分のこと。本当、なんで威張って、周りの人は、あんまり威張ってはいなかった記憶が、なんで俺、こんなに傲慢なんだろうなって、今、思えばそう思いますね。全然、駄目だなんて思いますね。なんか、もう、ちっちゃい領域で、俺、できてるじゃんって。やっていけばやっていくほ

ど、現実を見て、落ち込みはしたんですけど、もちろん、それはありつつ、でもやんきやなっているんで、まあ、続けた感じですね、続けたっていうか、処理をできるようにトレーニングして。で、合格にはこぎつけたんですけど。

面接の集団授業で周りを凍らせた。

変なことを言う人なんで、俺は。すごいやばくて、集団のA3のクラス授業で、今でもすごい覚えてんですけど、やばいこと言ってるなって自分でも分かったんですけど、家族のいない患者が、植物状態っていうか、誰も何もできない、で、安楽死じゃないや、尊厳死を迎えさせることも、人工呼吸器を外すこともできない、どうするかってなったときに、君、どうします？、みたいなことを授業中、尋ねられて。「取りあえず臓器、売ります」、みたいなことを言ったんですよ、本気で言ったんですよ。そしたら、もう、しーんとして。やばい空気になって、笑われて。やばいじゃんって自分でも思って。ああ、やばってなって。感覚がやばいなって思いましたね。もちろん受験本番のときには、前もって矯正、修正して、もうちょっと、常識的なことを言おうみたいになって、それで一応適応はしたんで、聖マと岩手は。でも聖マは厳しかったですね。でも、振り返って、心が折れなかったのは、今から考えれば、俺すごいじゃんって思います。ノリさん(高橋典先生)とか小林先生とか、すごい励ましてくれましたし、ノリさんも、励ましてくれるんですけど、小林先生がすごい優しい人なんで。「お前は実際この1年間、すごい頑張ってるから、大丈夫だよ」って言われて。すごい支えられたり、癒やされたりしましたね。ノリさんは、前期からずっとお世話になっていた先生で、一番最初に影響受けたのはノリさんかなって感じですね。「変ですね、君」とかって言われて。褒め言葉なんですけど、「気持ち悪いです」とかって言われて。解き方が変で。楽することしか考えてない解き方をすると、なんか、いいですね、きもいです、とかみたいな、そんな感じだったんで。褒められて、嬉しかったです。

浪人して、自分が成長したなって。

高校の時とは違って、自分の中で、浪人してみて、医学部に行きたいんだなっていうのは強く感じました。けど、やっぱり尻をたたかれたっていうのもありますし。でも何だろ、一番大きかったのは、色んな、こういう先輩方の「合格の軌跡」を見るというか、参考になったのもあったかなと思います。他の合格した人、代官山で同じく医学部に受かった先輩の人の、軌跡が気になって、なんか、え、こいつ俺よりヤバイじゃんって思いながら、俺もいけるんじゃないかなとか思って。その人とか、え、偏差値30?!俺いけんじゃねえか、とか思いながら。すごい悪い意味ですけど、ご本人には、すごく悪いことなんですけど。はい、俺でもいけんじゃん、とか思いながら、モチベーションに



して勉強しました、はい。自分は、なんか、まあ、岩手しか受かんなかったですけど、医者のやること、父も医者なんで、聞いたんですけど、もちろん患者を治すこともあるし、研究することも、後輩を育てることも、大事なかなと思って。医師を目指す上で、そういう心構えというか、心構えを教わったりもあり、先輩ら、いっぱいいるし、実際、岩手も、はい。でも、やっぱ英語は続けてください。できなくても続けたほうがいいです。やっぱり、成績にかかわらず、何ていうんですかね、継続力は身に付くんで。やっぱ英語ですね。英語できなかった身なんで、英語をもっと重点的に勉強してればよかったなって身からの話ですけど、はい。やっぱり継続できるようになりましたね。なんか、途中で諦めて、ぼーいじゃなくて、分かんないな、辞書引っ張り出して読んだりっていうのはできるようになったから、成長したかなっていうのはあります。人間性は、どうか分かんないですけど。なんか、まあ、母親いわく、まあ、ちょっとだけ優しくなったって感じですね。もともとそんな悪いやつじゃなかったらしいんですけど、根は。根は悪いやつじゃなかったとか、言われるの謎ですけど、なんか、まあ、表に出す優しさが増えたらいいです、はい、そんな感じですね。



卒業生が語る

合格への 軌跡2022年

WAY TO SUCCESS

昭和大医学部 II 期 2 次正規合格
杏林大医学部 2 次合格
北里大医学部 2 次正規合格
東京女子医科大 2 次正規合格

受験で、“時間管理術”を
身に着けることができた。

昭和大医学部進学 中村弥貴さん（東京女学館高校卒）

高1から始めました。

中村弥貴です、東京女学館高校出身で、昭和大学に入學しました。ありがとうございます。2次最終合格が、杏林と北里と女子医と昭和のⅡ期ですね。正規は昭和のⅡ期と北里と女子医が正規でした。私もびっくりですよ。自分でも絶対、受かると思ってなかったからびっくりしましたね。なんか、1次こんな受かると思ってなかったし、結構、多分、2次が弱かったのかなって思います。高1から代官山 MEDICAL に入りました。高1の春の途中から入りました。女学館の人、多いから、近いし。英語は青葉先生と三ツ橋先生で、数学は五十嵐先生と山室先生だったかな、高1の最初。で、化学は高橋龍先生。3科目スタートで、最初、はい。高1のときはもう、取りあえず楽しく勉強してた。勉強が楽しいって思えるような1年でしたね。ま、ずっとなんですけど、それが。

高2の夏ぐらいからはちょっと本気でやり始めたかなって感じですね。高3からだったらちょっと遅かったかなって思います。私、英語が苦手で、高2の途中で、青葉先生のテストゼミでも、ランキングが出るんですよ。それもなんか最下位とかで、あ、これはやばいわって思って英語をちゃんと勉強し始めたって感じですかね、高2から。ランキングで自分の位置が分かるから大きかったです。学校の成績は普通に、まあ、全然、平均は超えてる位置にいた感じかな。高3のときは、定期テストとか全く勉強してないんで。志望校は、ずっと高1のときからお父さんが東医だから、東医、行きたいなとか言ってたけど、高3のとき、目標を高く持って昭和とか言って、勉強したら受かっちゃいましたね。うれしかったです。今でも、実感、湧いてないみたいな感じ。なんで昭和、行ってんだろうみたいな感じです。

英語は苦手だったっていうか、あんまり好きじゃなかった。

これ言ったら結構やばいんですけど、英語に関しては、もう全部、4択とか”勘”だと思ってて、真央ちゃん(日本大医学部進学：高田真央)も言ってたんですけど、英語は勘だよなとか言って、最初、話してて。なんかもう、解き方とかもよく分かってなかったから。でも、ちゃんと先生の授業聞いてしっかりやってたら、あ、全然、違うんだなって思って気付いて、そっから語法1000もちゃんと一個一個、解き方、その文法の解き方を勉強するようになりました。そっから伸びたかなって感じですね。青葉先生、めっちゃ優しいし真面目だし、ちゃんとアドバイスしてくれるし。めっちゃいい先生でしたね、はい。高3の最後は、記述みたいな。添削してもらってましたね。英作とか、丁寧に見てくれてって感じでしたね。青葉先生が一番お世話になった人。

いろいろな先生の解き方を身につけられた。

質問は、結構行けてました、質問、行ってめっちゃ分

かりやすいのは、中村(太郎)先生、めっちゃ分かりやすいし丁寧だし、あと、薄先生もめっちゃ分かりやすかったなって思います。優しい、本当に。フフフ。ヒラパン(平野先生)は、やる気の出る言葉を掛けてくださるから、それはそれでヒラパンは好きでした。それが結構、励みになってたかな。ヒラパンにやれとか言われたことはちゃんとやるようにしてたから、これはもう絶対この解き方でやれとか、ヒラパンの言うこと、めっちゃ聞いてたって感じ。いろんな先生に習うと、解き方も考え方も違ったりするから、自分はこのやり方がいいとかもそれで選べたし、自分に合ったやり方を選んでよかったなって思います。だから、いろんな先生に質問、行ってたと思います。物理の小澤先生は作問者の意図をめっちゃ丁寧に解説してくれるし、解き方が丁寧だから、一番、合ってたかなって思います。寺澤先生はめっちゃ、もう大好きなんですけど、寺澤先生はなんか必殺技みたいな教えてくれるんですけど、小澤先生は、基本を丁寧に教えてくれて着実に解いてく感じで、癖のない感じで分かりやすかったです。優しかったし。先生とやったところ、試験中、本番で、聞こえたんですよ。

点数開示しました。

東医だけ見れました。東医はあと4点でした。はい。しかもそれがなんか、数学の解答を1個ずらしてその後めっちゃ泣いたのは覚えてます。しかもなんか、回収される直前、気付いて。それをずらしてなかったら、あと4点だから、もしかしたらいつてたかもしれないですね。それはショックです、本当に。数学が一番低かったのもあって。Ⅱ期まで頑張って。Ⅱ期まで頑張って。Ⅱ期、でも、昭和のⅠ期が、Ⅰ期の2次が落ちたときはめっちゃ一番、悲しかったですね、もう。もしかしたら行けるって思ってたから、それで悔しくて、一応、後期も出願して、昭和だけ出願しました。受かると思ってなかったんですけど一応みたいな。

高3の夏は、理論と無機をめっちゃ、やった。

もう夏ですね。夏、めっちゃ無機やった。高3の夏はめっちゃ化学をやったイメージがあります。理論の冊子、1学期の冊子も夏だけで、3周とかして、そんな難しい問題じゃないんですよ、でもそれ、基礎をめっちゃ固めて高3の夏で。それで、理論の大体の問題はできるようになって、その夏の授業がなんか演習だったんですよ。だからそれがちょっと難しい問題とかやるので、その、冊子をいっぱいやってたから、自然と応用できて、結構、解けるようになってたかなって思います。で、夏明けに伸びた気がします。夏明けの一発目の英語で5位、取って。なんか、1回、θの授業で石井先生に褒められて、それもめっちゃうれしくて、そこからもっと勉強するようになりました、英語がそのとき5位だったから、中村さん最近、調子いいじゃんみたいな。θの授業中にみんなの前で言ってくださ

ったからうれしかったですね。

規則正しい生活をできてたかな。

朝は6時台には来るようにしていました。ほとんど6時台に来て最後までやってましたね。毎日。

朝ご飯も食べないで来て、朝ご飯、おにぎりとか持ってきて、で、朝、駄目だと思うんですけど、食べながら積分とかしながらおにぎり食べてやってましたね。勉強しながら食べてやってました。朝はなんか、中村先生に積分をやれって高2のときに言われたのをずっと覚えてて、朝は計算しなさいみたいな。だから、それを守ってましたね。朝は絶対、積分計算して、そこから始めてました。英語は眠くなるから数学を無心で積分してました。フフフ。夏とかは昼とかも、おにぎり2個買って、立って、無機とか見ながら、もう10分で食べるくらいの、すぐ済ませてましたね。ゆっくりぐだぐだ食べたりはしてなかったかな。

友人、ライバルが勉強の励みになって。

真央ちゃんの勉強への熱がすごくて、それ見て驚いて、思わず真央ちゃんに刺激されて勉強してたかな。真央ちゃん、テストでできなくて泣いてたりするから、こんな勉強熱心な子いるんだって思って、見習って頑張るようにしてました。高1のときから、勉強めっちゃしてたから、ありがたいです。まじ、真央ちゃんいなかったら受かってなかったかなって。学校では内職してました。ずっと内職、もう内職しかしてないで、短い10分休みは友達としゃべって気分転換して、長い昼休みとかは早弁するんです、お弁当を変な時間に食べて、昼休みになった瞬間、ダッシュで図書館に行って過去問1個、解いてました。学校では、まじ、学校時

間、無駄にしたいくないと思って。先生、ごめんって感じだけど、ま、内職してました。めっちゃ集中して内職してました。もう何回も遅刻はしましたけど。申書的に遅刻の回数って載って、25回くらいしたんです、遅刻を。載ってたのかな。学校で、学校では、あの、終礼のときは先生が起立って言って、さようならを言い終わる前に教室から出てダッシュでバス停、向かって、もう即帰ってました。で、もう、誰よりも早く帰りたくて、で、すぐ代官山に行きたくてって感じですね。誰もまだ帰ってないときに自分一人だけ、校門出るっていうのが。1人で、みんなよりも1個早いバスに乗りたくて、誰もいない。走って行ってましたね。優越感です、ですね。高3の中でも代官山に来てるの一番早かった、と思います、一番。

自習室は先輩の席を受け継いで。

3階の入って真っすぐ行って、奥から2番目。うん。フフフ。ちょっと愛菜先輩(日本医科大進学:塩尻愛菜)の受け継いだんですよ。その席を。それもあって、ちょっと、うれしかったですね。日医、受かった人がここで勉強してたんだと思って勉強してました。本当にずっと自習席で勉強してました。ブースとか全然使わないで、ずっと自分の席でやってました。ポストイット貼って覚えなきゃいけないやつ、貼ってましたよ。でもなんか、貼ると安心しちゃって意外と覚えてないみたいなことが、それに気付いてあんまり貼るのやめちゃいましたね。普通に暗記はちゃんと書いてやってました。もう、取りあえず繰り返す、同じ問題、繰り返すって感じ。テキストに四角と日付書いて、そこに丸、バツ、三角で出来を書いてやってました。物理の類題集とかはもう多分、何周、5周とかしたんだと思います。それでだんだん、最初バツだったのが丸になって、1回、丸だったただけじゃ安心できないから、また何週間後に解いて、また丸だったら、あ、これもうできるようになったんだなと思ってやってました。うれしいです。丸になると。本当に同じテキストを何周もっていうのが一番大事だなと思いますね。本当にセミナー、なんか、何だろう。物理も類題集が配られてたんですけど、それしかやってないかなってぐらい。それと、それを取りあえず、もう何周も繰り返すのと、なんか、本当に分かんなかったら基礎から分かんねえってなったらセミナーに戻ってやつたり。で、もうセミナーと、その類題集、あとはもう授業で復習みたいな、それだけです。いつも。

ウィークリーはガチでやってました。

結構、ウィークリー、ガチ勢だったんですけど、ウィークリーが類題集から出るみたいな感じだったんで、全科目、満点、取りたくてウィークリーは。だからもう何周もやってましたね。ウィークリー大事にしました。英語も、700選とか、あれもなんか結構、捨てる人とかいたけど、何回も学校とかでもずっと書いて



たりしてた。それで結構、英語も力になったと思うし、数学は、テキストの類題みたいなもの出るから、もうテキスト何回もやってたし、ウイークリー、まじで満点取りたかったから。毎回、2位ぐらいにはいたかなって感じですわね、はい。

1位は、黒坂(昭和大医学部進学:黒坂陽一郎)かな、多分、物理と生物で難易度違うから、生物の人とはあんま比べたりはしないけど、必死にウイークリーの勉強してました。ウイークリーをちゃんとやってたら意外とできるようになるから。入試でもウイークリーの問題と同じような問題が出たりするし。ウイークリーはちゃんとやったほうがいいかなと思います。

現役で医学部に受かるために大切な事。

高校生は、浪人生と比べて、とにかく時間がないから先生に言われたことを最低限こなす。学校の時間もちゃんと有効活用してできるだけ早く代官山に来ることですわね。あとは、無駄に周りとしやべったりしない。休み時間に立ってしゃべったりはもうしないで、自分は、みんながしゃべってる時間も勉強するぞと思って、休み時間もずっと勉強しました。あと、ご飯とかも、あの、おにぎりだけ立って食べる。何か暗記しながら。そういうのが多分、大事だったんだろうなって思います。家では何もやってなかった。家、帰ってお風呂、入ってすぐ寝て、朝はできるだけ早く来る。学校、来る前にも来れたら、来たらいいと思います。

受験で、時間管理術を学んだ。

大きかったですわね。本当になんか、夏、そう、石井先生に、あの、ああいう予定表あるじゃないですか。あれを1コマを半分に切って書いてやれって言われて、

それをまじでちゃんとやりました。写真あるんですけど。

え、そうそう。拡大コピーして半分に割ってやること書いて、で、それをちゃんとできたらチェックしてみたいな。もう本当にちゃんとやりました、そこは。時間管理術、っていうか、そういうことも学んだ感じする、受験のときに。夏は特に本当、この時間でこれやってみたいな。でもなんか、中途半端なところで終わっても石井先生が、その、ちゃんと切れって言われたから、そこはもう長引かせずに、全然、解き終わなくても潔く一回それはやめてってやってましたね。中途半端なときもあって、気持ち悪かったですけど、そう先生に言われたことをちゃんと。1個ずつ細かく、朝は計算やってみたいな。分けて、こうやってやってました。結果、内容的にバランスとれてました。携帯のストップウォッチ置いて。はい、終わりって感じでやってました。素直にやるのが大事です、本当に、言われたことを。これはめっちゃ素直だったなって自分でもそう思います。その成果、やっぱり秋に出て。出ましたね、最後のほうに。本当、ずっと偏差値50の前後をうろろしてて、大体50ぐらいで、最後に、なんか、55なって60になって終わったって感じです。最後、初めて60台いったから、もう気持ちよく入試が受けられました。自分でも可愛いなと思います、本当に、今、思えば。本当に可愛いなって。素直だった。



卒業生が語る

合格への 軌跡2022年

WAY TO SUCCESS

昭和大医学部 1期2次正規合格
杏林大医学部 2次合格

自分の夢のために頑張れないんだっ
たら、最初から医学部、目指さない
ほうがいいなって。そんな楽な道
じゃないんで。みんながみんな
行けるようなところじゃないんで。

昭和大医学部進学 伊藤 旦君（青稜高校卒）

3浪目で、宅浪しようかと思たけど、代官山 MEDICAL へ来てよかった。

1次合格は、慈恵、昭和、杏林で、2次合格は杏林と昭和で、進学は昭和です。楽しいです、やっぱり。寮なので他の大学と違って、ずっと友達という時間なので、ちょっと修学旅行がずっと続いてるっていう感じがちょっと近いかな(笑)。きれいなほうの寮です、僕は。白樺です、黒坂とか武田とか平井とか大鹿とかも同じ寮ですね。

第1志望は特にあんまなくて、まあ、浪人数も浪人数だったんで、上位校行けばいいかな、っていうのはあったんですけど、3浪目だったんで、はい。1浪は●台にいて、2浪は●田●ル●にいました。金沢とか1次は行けたんですけど、駄目で、やっぱ2次が強い予備校とかに行っちゃちゃんと対策しないと駄目だと思って思いながらも、僕はもうそのとき、もう勉強ちょっと疲れちゃったりとかして、宅浪でもいいかなって、3浪目は。全然、自分で塾とか探してなくて母が結構ネットで調べたら、なんかこの代官山 MEDICAL が2次対策がすごい強いっていうので、ここ入ってみたらっていうので来た感じですね。2浪目までは、2次の授業みたいなのはあったんですけど、なんか一方的に聞いているだけっていう感じで、あまり2次を重視してるって感じじゃなかったんで。あんまり面接対策とかできないまま、面談もなしで。で、母の勧めで、代官山 MEDICAL に来たときは定員締切ぎりぎりだったんです。それこそ、3月末とかかなと思います。本当にぎりぎり、ラスト1枠2枠ぐらいで入った感じだったんで、ラッキーでしたね。まあ、宅浪しようかなって思ってたけど、まあ、親もいいよって言ってくれたんで、じゃあ、腹決めてこの1年で最後、代官山で決めるかって感じでしたね。

逃げたら、あとで、後悔すると思った。

やっぱりここで(3浪目になって)、逃げたら、絶対、後で後悔するなと思った。ここまで来たらもう引き下がれないなっていうのはありましたし、親にもやっぱお金も出してもらってたし、時間も使ってるんで、もうここまで来たら逃げられないっていうのはあったし、やっぱ自分の医者を目指したきっかけっていうのが、すごい大きいものだったんで。僕が高校のときに1年留学してたんですけど、そのときのホストファミリーのお子さん2人いたんですけど、男の子2人兄弟でどっちも年下だったんですけど、弟のほうが病気の子で。で、その、病気の人がいる家庭で自分も実際に生活してみて、自分自身もつらいだろうし、一緒に生活してる家族もその病気の子とは違った不安だったりとか悩みとかつらさっていうのがあるなっていうのを、そこで自分で体感して、こういう人たちの手助けだったり、こういう人たちの負担、減らせたらいいなって思って、そこで医者を目指すようになったんで。もともと医者家系だったからとかじゃなくて、全然、両親も医者とか

じゃないし、兄弟に医者がいるとかでもないんですけど。応援してくれた親には、本当に感謝。でも最初お母さんに言ったとき、「厳しい道だけど覚悟はあるの？」って聞かれて、「やる」って言って、そこからずっと、応援してくれて納得いくまでやりなさいっていう感じだったんで、そこはすごい感謝してます。いや、もう留学中に言いましたね、「医学部入りたい」って言って。自分の夢のために頑張れないんだったら、最初から医学部、目指さないほうがいいなって思いますけど。そんな楽な道じゃないんで。それこそみんながみんな行けるようなところじゃないんで、ほとんどの人がやっぱ絶対、苦労してから入るべき場所っていうか、入る場所なんで、生半可な気持ちで目指すのは良くないなって思いますね。僕の場合は、医者になりたいっていう明確な目標があったからこそ挫折しなかったのがあるかなと思います。漠然と医者になりたいなぐらいだったら、他の職業もあるしなっていうふうに、多分、途中で諦めがついちゃうと思うんですけど、僕はやっぱそれがちゃんとあったんで。今年、2次の面接で、杏林だったかな、で聞かれた気がします。医学部受けるのやめようとか思わなかったのみたいなのと聞かれました。自分の夢だったんで諦められませんでした。この1年で、浪人して、成績上がりましたとか勉強の仕方とか受験に対しての捉え方変わりましたか？みたいなのは聞かれて、僕は、自分の夢のためにやっぱ真面目に取り組むことが大事だなって思うようになりましたみたいな感じで答えました。それこそなんで今まで受かんなかったと思う？みたいな聞かれたときに、自分では頑張ってるつもりだったんですけど、今、考えれば甘かったんだなって思いますって答えました。両親には、「よく頑張った」って言われました。いや、もう本当に。で、昭和は正規だったんで、もう結果出た瞬間、安心というか、やっと終わるって思って、僕もなんか涙出ちゃって。外科志望です。

ウィークリーを完璧にやれば、マンスリーの対策になる。

途中からはやっぱどんどん友達とかもできて話すようにはなってたんですけど、でも僕自身としては、そこが、一番大きかったかなと思いますね。1浪2浪のときはもう塾では誰ともしゃべらないで、友達も作らなかつたんでずっと1人だったんですけど、代官山 MEDICAL で初めて、人と話すようになって。もともとメンタルは強いほうだったんで、1浪2浪のときもそう、病むとかはなかつたんですけど、やっぱ友達と話せば気は楽にもなるし楽しいし、結構、真面目に取り組みやすい環境ではあったかなと思います。微積の計算のスピードを計る授業だったかな、それがきっかけで、周りとか話そうになって、クラスのひと。阿部ちゃん(杏林大医学部進学:阿部尚樹)、えーっと、河原佳生(金沢医科大進学)とか、あとは長谷川靖(岩手医科大進学)、なんか男子が結構、少なかった気がする

んすよ、女子が、源河さん(昭和大医学部進学:源河史歩)、小川加奈子さん(杏林大医学部進学)、内山さん(東京医科大進学:内山莉佳子)、川島さん(日本大医学部進学:川島綾美)とかとも、授業でやった問題の解法とかウィークリーのランキングについてとか話してましたね。

長谷川靖、彼に関しては、多分、僕と出会ってなかったら今年も駄目だったんだろうなと思います。どんどん人を失っていくんですよ。彼もその一人で、結構、失いかけて、失ってたんですよ。僕と話すようになってから、少しずつ、僕の友達とも話すようになって、そしたらどんどん僕の知らない間にいろんな人と話すようになって。で、みんなからヤッシー、ヤッシーって呼ばれるようになって、すごい最初の頃は全然、笑わなかったんですけど、冬ぐらいにはもう、すごくよく笑うようになって、ハハハ。それで、面接の印象とかも変わったのかなとは思いますが。最初来たときは本当にもう暗い感じで怖かったんですけど、今はそこまで、最初の印象とは全然違う感じにはなってる。だから人に恵まれたかなって思いますね、今年は。周りがよかったかなって思います。高め合える環境がよかったですね。僕は、ウィークリーは英語は2、3回ちょっと満点逃したんですけど、あとはほとんど満点でやってましたね。前期はそれこそ前の週とか、その前の週ぐらいの内容が出るっていうのだったんで、ちゃんと復習をして臨んでっていう繰り返しをしてたんで、そこでもまた復習ができるんで。英語の『700選』は、構文の勉強っていうのもありましたけど、自分の中で、いかにして暗記を最短で終わらせるかっていう自分の頭の使い方だったり覚え方っていう意味でも、勉強にはなってたんで。代官山のテキストの場合、章の数も

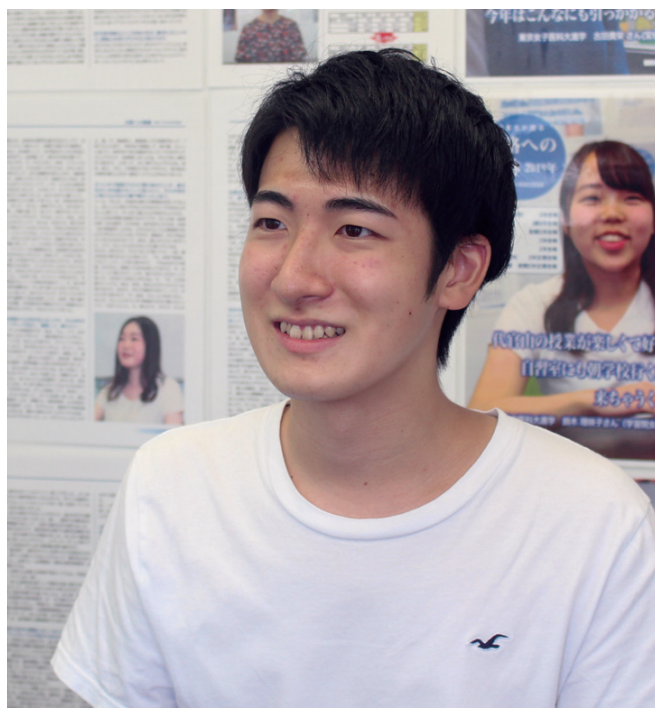
あるし問題数も多いんで、全部覚え切るっていうのはなかなかで、1回、授業終わって復習して、ウィークリーのためにもう一回復習して、そこで2回復習できるんで、結局ウィークリーのための勉強が自分のための勉強にもなるんで、復習っていう点では、うまく活用してやってました。そうすると結局それがマンスリーの勉強にもつながってるんで、わざわざマンスリー対策しなくても、ウィークリー対策しておけば結局、自動的に復習はできてるんで、わざわざマンスリーに力割かなくてもっていう点では、マンスリー対策に充てる時間を他の勉強に使えるんで。なるべくうまく使うのがいいかなって思います。

今年、代官山にいた1年が、僕の中で強烈な1年でした。

それこそ浪数重ねると成績伸びにくいみたいなこと言われてると思うんですけど、僕は本当に自分でも伸びたなって分かるぐらい今年は伸びたんで、あんまり浪人数は関係ないと思いますし、自分のやる気とやり方次第っていうのがすごい大事なかなって思いました。それこそスポーツとかだったら、努力は裏切らないみたいな、と思うんですけど、勉強は結構、平気で裏切ってくるんで、やり方と、時間の使い方だったり間違えちゃうと、本当にそれが無駄になっちゃうんで。暗記の仕方とか覚えやすさとか、計算の速さとかって、絶対に僕と同じ人っていうのは絶対、誰もいないんですよ。だから自分で見つけていけない限りは、自分に合ったやり方っていうのは分からない。個人的にはやっぱり夏で本当に完結っていう感じです。夏に前期の内容を固めておけないと、後期の演習のときに解けないんで、解けないとまた後期の復習をしなきゃいけないんですけど、解ければ別にそこまで復習に時間割かなくていいんで、他の勉強ができるんで、そこもやっぱりまた効率化につながってくるんで、前期の内容をいかに夏固めるかで後期も決まってきますし。で、後期の問題解ければ、そこで自信も付くし、自分のメンタルケアにもなって、解ければ他の問題にも挑戦してみようって意欲にもなるんで、そうなるってやっぱ冬とかにもまたつながってきて、それが結局、受験にまで全部つながってくるみたいな。だから、簡単に言うと夏で受験は完結っていう言い方になりますね。

2次での逆転も十分にありうるので。

僕は、この1年間、2次対策が重要だと思って生活してたんで、やっぱそれこそ上位校を目指してる子とか、マンスリーが振るってないなっていう子とか、マンスリーに載ってるけどちょっと下のほうだなっていう子とかは、絶対に小論文やったほうがいくなと思いますね。マンツーで2次の面接の対策はやっぱやっというほうがいかなと思います。そこで逆転全然ありますね。逆に素点めっちゃ良かったのに、最後そこでひっくり返ることだってあるので、2次の自信

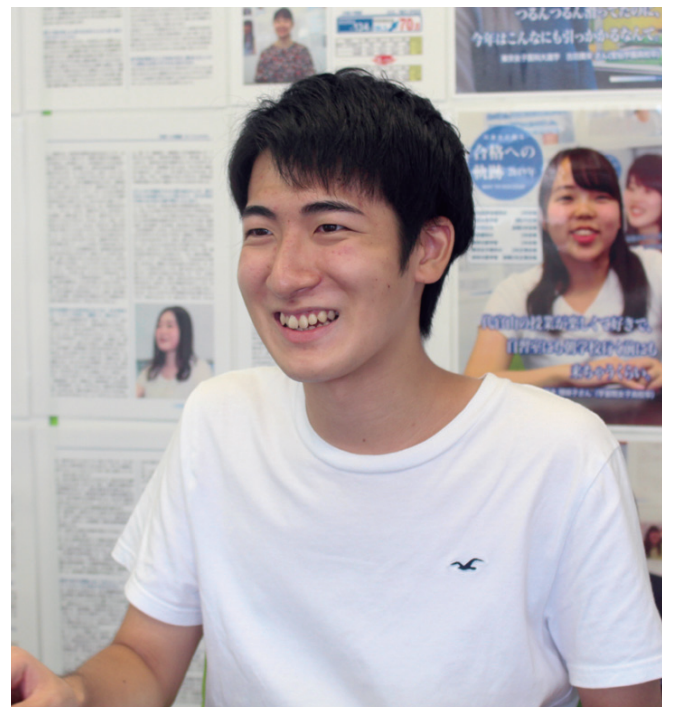


があるとないとで、全然、気持ちも変わってきますし。それこそ僕は、1次さえ通っちゃえば2次落ちはないっていうぐらいの自信があったんで、取りあえず1次通すっていうふうになれば、どこも合格来ないっていう状況には多分ならないかなと思うんで、早めに対策してちゃんとできるようにしといたほうがいいなと思います。代官山 MEDICAL は2次力強いから、1次突破してからの2次合格率はかなり高いんで。

3浪目こそ、授業も充実していました。

結構、勉強に集中はしてたんで、充実はしてたかなと思います。授業は、学びが多かったんでやっぱり面白かったですね、授業は。個人的にはやっぱり数学が、一番印象が強かったですね。平野先生。薄先生、長澤先生、特にその3人が僕は分かりやすくて好きでしたね。もともと数学が苦手だったし、数学だけクラスは下に下がって、でも、その3人の授業受けて、ちゃんと復習してできるようになるっていうのがすごい、目に見えて分かる授業だったんで。授業での定着率がすごい高いっていうか、授業内での理解度が高かったんで復習してても、授業中に先生が言ってたこととか、授業中の映像っていうのがすごい頭の中でよみがえるっていうのが多くて、そのおかげで、やっぱり復習もはかどるし、自分が間違いやすいポイントとかも、先生「ココ、ポイントだな」って言ってたっていうのとかも全部思い出せるし、すごいできるようになりました。全然違いましたね。定着率が違う。先生の教え方がうまいっていうのもあるのかもしれないんですけど、すごい分かりやすくなって。根本理解もありますし、アプローチの仕方とかも明確に教えてくれましたし、なんでそのアプローチをするのかっていうのとか、こういう仕組みだからこう考えるんだっていう土台の部分を一から丁寧に教えてもらったんで、そこがやっぱり理解の助けにはなったかなと思います。生物も、やっぱり単純に覚えるだけだと思ってても、実はこういうこう原理があって、こういうメリットがあるからこういう仕組みがあるんだっていうので、流れができるっていうか、自分の知ってたものと知ってたものの間がこうつながって、あ、そういうことなのかっていうので理解しやすくなって覚えやすくなるのかっていうのもありましたね。緒方先生が結構そういうつながりが多かったかなと思いますね。結構、説明に時間をかける先生なので。化学は、原先生もそうですし三上先生とかも、こういうふうになってるからこうなるんだっていう考え方っていうか、なんでこういうふうになるのかっていう原理を教えてもらうっていうのがすごい多かったですね。朝は、1年間ずっと平日、土曜日までは7時に来て、日曜日は8時ぐらいに来て、ラストまでいるって感じでした。朝の2時間は、授業中に先生の指示が計算やれって言ってたんで、最初のほうは計算やってたんですけど、あとあと、そ数学の復習とかをやりました。代官山のテキストしかやってないです。『チ

ャート』はそれこそ浪人、現役も含めて、ほとんど触ったことないです。面接対策は、確か、初回か2回目ぐらいの授業で、ヒロさんが授業中に、何浪、3浪以上、再受験、あと去年2次落ちみたいな、三つ候補挙げて、これに1個でも当てはまる人はちょっと私のところに来てくださいみたいなので、僕は、二つ当てはまってたんで、ちょっと行かなきゃなと思って行って、見てもらったら、やっぱり全然できなくて、これで自分、去年、落ちたんだなって、そこですごい痛感して、それで対策をみっちりやってもらって。面接で言っちゃいけない答えとか、言っちゃいけない言い方とかをすごいしてたっていうふうに気付かされて。これ駄目なんだっていうのが多くて。なんか基本的に素直にしゃべればいいよって言われてしゃべってみたら、そのとき思ったことを言ってみたら、それじゃ駄目なんだっていうのを、2次対策授業で、分からされたっていうか。全然、言い方一つで変わるなっていうのをすごい痛感しました。面接をやったら、この問題の捉え方っていうのが徐々に見えるようになってきて、それが小論文で応用できるようになって、気付いたら小論文が書けるっていう状況になってました。



卒業生が語る

合格への 軌跡2022年

WAY TO SUCCESS

埼玉医科大

後期2次合格

浪人生は特に、対面授業がいいです。
浪人ってやっぱり、自分の生活が
たるんでたから、受かる生活を
してなかったから落ちたわけで。

埼玉医科大進学 藤川晴英君（長野日本大学高校卒）

最後の砦としての代官山 MEDICAL

藤川晴英です。1次合格は、杏林と東医と埼玉後期で、2次合格が埼玉後期です。進学先も埼玉医科大学ということになりました。僕、3浪目ですね、3浪目でここに来ました。3浪目で代官山 MEDICAL に来て、で、1年で合格。1浪目のときは、長野の予備校にいて、えっと、2浪目は、●MS に行ったんです。長野予備学校っていう。アハハ。ちょっと、●台がちょっと絡んでるぐらいの予備校なんですけど。医学部のコースにいたけど、医専じゃないです。はい。現役の時は、ちょっと国立医学部志望が強かったんで。医学部、受けたけど、まあ、センターで足切りとかでしたかね。推薦だったんですけど、評点が良かったんで。推薦で出したんですけど、ちょっとセンターの点数が足りなかったなって。2浪目から共通テストになりました。長野の予備校、行って、まあ、1浪して。まあ、で、次、やっぱ、東京に行かなきゃってなって、その時に親戚とかの勧めもあって、もともと、浪人する時から、ちょっと東京に行こうかなと思ってたけど、高校の友達もみんな長野の予備校にいるし、自分、いいかなと思って。多分、いけるでしょみたいな感じで、一応、長野、行ったんで。で、駄目で、あ、やっぱ駄目だって、それで東京、出てきて。周りの勉強ががちで高校生活やってきた人たちの姿、やっぱ見ていかないとな、と思って。親に頼んで代官山 MEDICAL に行かせてもらいました。関東圏の大学を狙ってたっていうわけではなく、単純にやっぱ、予備校を東京の予備校のほうが、いいんじゃないかって。2浪目のときも、国立はちょっと若干狙って、まあ、だから、私立専願にしたのは、本当に今年っていうか、3浪目のときですね。3年目で、まあ、医専にしよう。医専の私学にしよう。ここ(代官山 MEDICAL)は、もともと、いところが通って、鈴木啓太(東邦大医学部卒)っていうんですけど。かなり前に卒業してて、ちょっと年齢が離れてるんで。で、その子が1年で受かってたっていうの聞いたんで。ああ、じゃあ、代官山 MEDICAL しかないなと。最後の砦だったんで。ハハハ。啓太が通ってた時代から、ずっと実績がすごいと思って、結構、実績、出てたんで。私学実績が。やっぱ、代官山、行こうかなって思って、来ました。もう、ここしかないねって。ハハハハ。後がないからかな、もう。縛られた環境になっちゃうけど、もう、それぐらいやんないと駄目だなって。やっぱこのままだと受かんないっていうふうに思ったんで。ちょっと●MS は自由なところもあるんで。あと、朝はこっちのほうが全然早いし。代官山のときは、朝6時ぐらいに起きてたし、朝ちょっと、朝ご飯、食べるの遅かったりしたんで、ちょっと早めに起きて。自習室行くと、もう、他に來てる人結構いて、勉強していると、自分も、あ、やべ、やんないってなっちゃうんで。初めから2号館です。6時台に來てる人、結構いました、いました。それこそ、僕の自習室の隣に桑満(杏林大医学部進学:桑満隆生)とかいたんですけど、桑満と

か阿部(杏林大医学部進学:阿部尚樹)は僕よりいつも早く來てて。で、ずっと勉強したんで。益子(国際医療福祉大医学部進学:益子友里)か、あと、宮本(東邦大医学部進学:宮本秀太郎)とか。みんな早かったんだ。そうですね。でも、あの列は、かなり刺激的でしたね。いい列でしたね、前も後ろも。アハハハ。2号館の自習室はある意味盛り上がってるというか。だんだん受験に近づいてくると、ありますね。

空き時間が増えると、だらけてしまうので、授業が詰まってるよかったです。

僕は、A1 スタートです。僕としては、もうちょっと上に行きたかったかなって、やっぱ、M3、M4とかにいたかったかなって思ったんですけど、でも、蓋開けてみれば、A1も、それこそ本当に、桑満がいて、益子がいて、井原(日本大医学部進学:井原幸佑)がいて、中(金沢医科大進学:中川伶)がいたり、その辺が結構、刺激的で。あと、久保田(東北医科薬科大医学部進学:久保田芳人)とか。ある意味、緩い環境の予備校から、自分にこう、強制かけられなかった状態から、もう、強制的にやるしかない環境に追い込まれて、いや、僕、結構、適応が早くて、すぐ慣れましたね。もう、気合、入れて。もう、ががつがやってこっていう。で、夏、入って、M5に上がったんですけど、何だろう。ちょっとね、全科目、そろわなくなってきたんですよ。まず、物理とかが、ちょっと落ち始めちゃって。で、えっと、数学も、なんか、ちょっと、ミスっちゃってっていう。ケアレスミスで。それが、本当しょうもないミスなんです。ああ、ここ、文章読めてたら、絶対もっと点数取れたな、みたいな。ちょっと後悔の連続でしたね、そこは。M5に上がって、授業が急に分からなくなったっていうよりかは…、自滅ですね、テストになると獲れなかったですね。そうですね。僕は、授業中以外は、あんまり人の目、気にしてなかったんで。きっと、下から上がってA1で、また上に上がっていく人も、まあ、いれば、A1で2号館、上がって、満足して、下に落ちるって人も、きっといるんだろうなって思って。自分で成績どうだろうと、結果、受かればいいんでっていうふうに思って。それでも、ちょっと低迷したときはランキング見に行きませんでしたね。うん、見ないですね。あの一、化学だけちょっと見たかな。ちょっと、1階の、2号館の1階のMとかNだったかな、あの辺に行きながら、お一、あ、載ってる。アハハハ。あー、全然、凝視はしない。別に取ってても。結局、受験で落ちてしまえば意味ないから。あんま気にしないですね。いや。3浪だからかな。アハハ。そうですね。気には、もちろんなってるんですよ。なんだけど、まあ、気にしないようにしたっていうほうが正解かな。1学期と夏期講習の面談期間ですか、そのなんか空白の時期に、だらけるっていうか、多分、夏期講習のときの予定見れば分かるんですけど、1日中、オール空いてるっていう日がたまにあったと思うんで

すよ。で、それ、2日連続とか、3日連続ぐらいになると、かなり暇なんです。そうすると、集中力が一気に下がっちゃうんです。だから、ちょっと忙しいぐらいがいいかなって思ってた。特に夕方がきつくなるんですよ。帰りたくなっちゃうんですよ、だんだんね。授業あると、やっぱ先生の顔を見て、さばれないなって、やっぱ、あらためて気、引き締まる場所が。ずっと自習室いるとね。なかなか。あとは、ちょっと環境を変える、勉強する環境を変える、自習室にずっといるっていうよりは、ちょっと開放的な教室で授業を受けるっていうのでめりはりを付けるっていう、そういうのも狙って。

面接で、特に、多浪対策っていうものは必要かも。

「なんでそんなに浪人しちゃったの？」みたいな話とか、普通に聞かれたら、普通に答えられるようなことでも、いざ、面接の本番になると、答えられないことがあるんですよ、頭、固くって。で、その練習をしてみたり、多浪生って、何だろうな、学力が多少高くても、面接で、ちょっと、人間的に難があるみたいな、やはり、社会に出てないんで。まあ、あくまで、僕の考えですけど、多少マイナス面が出ちゃうっていう、だからこそ、前向きに考えるっていうことを教わってましたね。あんまネガティブなことを言わないっていう。いい方向にこう、言い換えるみたいな。あとは、やはり論理的に破綻しないようにって、人前で話すのが苦手だったけれど。普通にはできるようになりました、戦えるレベルになりました、みたいな、軸が、ぶれない話し方だったり、小論文の書き方だったり、ある意味、ぐさぐさと多浪に対しては、聞いてくる面接に

しても、こう答えるのがいいよ、とか、僕の場合、こう答えてもいいんじゃないかって、オリジナルのある面接対策を浩先生がしてくれたのが大きかったですね。それこそ、一番初めの、小論文の授業が結構、多かったですけど、小論文の授業でも、ちゃんと、4段落に分けてって。ちゃんと起承転結つけてっていうふうに、あと具体的につけるっていうのも、結構、言われてきたんで。で、そこは、入試んときも、ひたすら意識しながら、テーマに対して、ぶれないように、あとは自分の体験談を書くっていう、自分は体験談に関しては、多少、ちょっと想像入ってもいいからって感じで。うん。ひたすら字を埋めるっていうことをやってみました。

三者面談で、「行けるよ」って言われて自信をもって、試験に臨めた。

三者面談のときに、「いよいよ化学が1次突破は行けるラインにいるけど」って石井先生に言われて。それまで自分、そんなに化学、まあ、2浪目までは、化学なんて本当、嫌いだったし。で、石井先生に言われて、ちょっと自信持って、臨めるようになって。冬期とかも演習講座になるんですけど、そのときに、自信持って、スピーディーに正確に、ばあーって解けるようになって、みたいな。やっぱ、いいんですよ。石井先生の言葉は、かなり心にくるというか。モチベーションにつながるというか。石井先生がやばいよって言ったら、本当にやばいんだろうし。石井先生が大丈夫って言うんだったら、まあ、多少のことがあっても、まあ、耐えるっていう、ちょっと、うん。うれしかったかなって。まじで、これぐらいの点数取ってたら、この大学、行けるからっていうふうに。他の人は、本当にパーセンテージを言ってくれるんでしょうけど、僕の場合はそこまでじゃなかったんで。もう、ちょっと、がくんっていったとき、あったんで。で、がくんっていったときに、ちょうど三者面談も入ってたんで。で、パーセンテージまで言われなくても、全然、「石井先生、あの一、慈恵、受りたいです、日医、受りたいです」って言っても、止めないでくれましたし、うん、止めませんでしたね。

オンラインは緩くなってしまう、対面が一番。

やっぱ、コロナあっても、ちゃんと、来て学ぶっていうのが大事です。だから、大学は今、オンデマンド、Zoom、対面っていう、まあ、遠隔授業や対面授業のハイブリッドなんですけれども、対面の場合は、いろんな人がいてその人の勉強してる姿を見ながら、教授の話を聞いて、ノート取ってくっていう、そういうこともできますし。帰り道とか友達と話したりするっていうこともできるし。で、それに比べて、オンデマンド、Zoom だけだと、一方的に先生がひたすらしゃべって、ちょっと、たるみにつながっちゃうし、浪人生は特に、対面が一番いいです、うん。浪人って、やっぱ、現役時代、落ちた年に、自分の生活がたるんでたから、



受かる生活をしてなかったから落ちたわけであって、ちゃんと受かる生活してたら受かってるんですから、ちゃんと。現役だろうと。それこそ代官山の現役で受かった高校生も、そうです、黒坂(昭和大医学部進学：黒坂陽一郎)とか、森口とかね。あと、高田さんとかあの辺がいて。で、あいつら結構がつがつやるんですよ。学校、終わって、制服姿で。あれ見てると、ああ、若いなっていう。ハハハ。いやあ、自分も高校生のときは、これぐらいできればなと思って。うーん。やってみたかったですよね。あれぐらいの生活ね。確かに、現役生もやっぱ、刺激されてるんで、こっちが。現役生はずっと塾いれないからっていうのを、反面、来たときの集中度っていうのがすごく高くて。すごいですよ。切り替えがすごいですよね。あの人たちは。何だろう、だから、本当に、いろんな意味で切磋琢磨できる校舎ですよ、代官山 MEDICAL は、本当に。いろんな意味で切磋琢磨できる。同じクラスでもそうだし。あとは、上のクラスの人たちとか。自習室、同じとか。結構、面識もできるんで、やってると。目標がみんな医学部合格を目指して頑張ってきて、しかも対面なんで、授業終わった後、授業始まる前に、話したりして、まあ、いろんな意味で友達もできますんで、それこそ、受験会場でも顔を見かけるんで、愛知から、東北医科薬科ときも、あんなところに井原いるし、みたいな。アハハハハ。隣に山原いて、あれ、マンスリーかなって。アハハ。聖マリも、隣、岡宮で、で、斜め前に益子いてっていう。アハハ。かといって、僕、そんなに、べちゃべちゃ話す人でもなかったんで、ある程度、適切な距離感持って。あんまり干渉しない程度で話すっていうぐらいだったら、まあ、いいんじゃないですかね。受験、終わった後とかも、井原とかしゃべりながら、奈良拓とか、武田とか岡宮とか一緒に帰ったりしましたね。あの辺、アハハハ。代官山ならではのですね。

代官山は、他の予備校とは違う。

いやあ、僕の場合、ここも含めて、予備校は3つ行ったんで、思うんですけど、ここはもう、他の予備校とは、いろいろと違うんですよね、なんかね。まず、先生の距離感、違います。あと、マンツーマンっていうのがあって。で、授業のレベルは科目ごとに合わせてくれるし、オリジナルなテキストの授業っていうのがあって。そのテキストも、ちゃんと実用性のあるもので。先生たちも、力のある先生がいっぱいいて、友達もみんな真面目で。うん。不拔けてる人なんて、全然いないんで。あとは、朝早くから開いて。夜は9時半まで開いてるっていう。あとは、タイムカード。あれも実は、ちゃんと見てて、あー、ちょっと、朝、遅いかなって。夜、頑張ってると思ったり、そういう指標となるものが結構あるんですよ。だから、マンスリーやウイークリーの順位表とか特に自分の指標にしましたね。あとは、授業の中での、何だろうな、実戦的に問題解かせて、テストゼミやって。みんなの出来具合見るとかね。

この問題できてるできてない、っていうオープンなところがあってね、この問題、こいつはできてる、みたいな。で、あ、すげえとか思ったり。刺激もいろいろと受けられますね。



卒業生が語る
合格への
軌跡2022年

WAY TO SUCCESS

昭和大医学部 1期2次正規合格
杏林大医学部 2次正規合格

「おまえ、何しにここに来てんの？
受かるためじゃないの？ 3浪もし
てるんでしょ」って、岡宮に、めち
やめちやストレートに全部言って。
「おまえ、勉強するしかないじゃん。」

昭和大医学部進学 武田真輝君（東京都市大学付属高校卒）

A2は、今思うと、いいクラスでしたね。

昭和大医学部と杏林大医学部が2次(合格)出て、昭和に進学しました。自分でも、やべえなと思ったんですけど、先生方も、1次(合格)の数が少なかったのを結構言っていて。「どうしたの？」って。まあ、3つしかなかったんで、結局、1次では。東医も開示したら、1次、最低点だったので。杏林は、受けた瞬間、1科目目の理科で受かったと思ったんで確信できた。昭和はまじで受かったと思ってなかったですね。もう、物理、ぼろぼろだったのと、英語も何も分からなかったし。落ちた。採点するじゃないですか、最初、ここに帰ってきて。英語の文法、丸付けて。15個中4、5個しか合ってなかった。ああ、もう落ちた、もう無理だと思って、みんなに、笑って「俺もう落ちた、昭和」と言ったら、慈恵の試験終わった後に親からLINE来て、何かあるんだけどみたいな。1次合格してるよって。え？って思いました。あり得ない、あり得ないみたいな。結果、2次も受かって。ふた開けてみたら意外と物理がちゃんと合っていて、化学が、みんなできてないところを、ばんばん当たってたっていうのがあったかな。自分は、1次、杏林が最初出て、そこからは一個も出なかったんで、昭和までは。最後の最後まで残るのかなみたいな思ってたら、一番最初に合格が決まったので、東京の中で。杏林、2次受かった瞬間、やっと受験が終わったって。現役のとき、後期試験まで受け終わって、受かんないかなあと思いながら、親に、「じゃあ塾はどうするの？」ってなって、最初、●クサスに1週間体験に、なんか普通にいきそうになったんですけど、で、授業受けて、1週間したら入塾みたいな感じの流れになりそうになったんですけど、途中、代官山 MEDICAL の面談を受けてみたら、実績も全然違うし、●クサスは、なんか人がいないっていうか、活気がなかったんで、最後、1週間ぐらい経って、●クサスは辞退して、代官山 MEDICAL にそのままその日のうちに入ったんです。雰囲気というか、代官山のほうが、何か明るそうだなってと思って、こっちに来ましたね。ここ(代官山 MEDICAL)は、選抜試験がないので、すんなり最初のクラス分け受けてみて、いやあ、びっくりでしたね。いや、全然、もっと下だと思ってたんですけど、案外、別に普通なんだなと思って。自分の高校の成績だと、下から3分の1にはずっといたので。結構、2号館すんなり入っちゃったなと思って。今思い返せば、入ったクラスが受かった要因なのかなと思ってます。A2、いいクラスでしたね。周りが良かった。だって、あれですよ、最初のA2の中で3人、昭和なので、最終的に9人中3人が昭和なんで。しかもその3人は全員M5まで上がった人たちなので、奈良(奈良 拓矢君)も含めて。A2は、岡宮(岡宮 海君: 獨協医科大進学)がいたのもそうだし、結構、女子陣も強い人が多かったんで、楽しかったです。最初の4月のどっかの岩崎先生の授業で、一気に仲が深まりました。盛り上がったんです、みんな全然、英語分かっ

てなかったって。仮定法の授業か何かで、みんな、俺も、フフッ、その、ifしか書いてないっていうところで、めっちゃめっちゃ。そこで一気になごんだかなっていう、一気に仲良くなりましたね、そこで。それでちょっと、自分は英語できなかったんで、安心しました。

物理がマジ、ヤバかったんです。

寺澤先生がK教室でめっちゃめっちゃでかい声でやって。やっべえ人いるって。ちょっと、最初どん引きしましたね、やべえ人いると思って。でも授業聞いたら、めっちゃくちゃ分かりやすいじゃんって、面白いっすって、仲良くなりましたね。力学、分かりやすかったんですよ。まじ、最初は耳が半端なくやばかったんですけど。すごい先生なんですけど、結構繊細らしいんで、それもちっと面白いなと思って。物理は、クラスの調整があって、レベル下げてもらって、物理は本当に一番、ど底辺だったと思うので。うん。いや、まじで、化学と数学に助けられたおかげでA2に入ったなと思うので。多分、それなかったら昭和受かってないかなって思って。で、このままじゃ物理無理だと思って、親と相談して、6月にマンツウを入れましたね。柳瀬先生、すごい良かったです。はまりましたね。自分の決断したタイミングが良かったのかなと。柳瀬先生、後期から、本館の人がめっちゃめっちゃマンツウ申し込み始めて。けど、自分が先に6月にはもう取ったので。そこからは一回もちゃんと崩さずやり続けられましたね。教え方っていうか、柳瀬先生は、基本は忠実にみたいな。で、プリントをうまく使ってやってましたね。何か段階踏んで。後期から冬期のプリントで、100題ぐらいを渡してもらって。そこからいっぱい出ましたね。東医、昭和に、類題とか、愛知でも結構ありましたし、よかったです。聖マリは結構、ドンピシャだったって感じでしたよ。しかも、100問、バラバラに出されるだけじゃなくて、100問のその1問がどこに該当するかのテキストのページまで書いてくれたんで、1問ずつやって、それができなかつたら戻ってやる感じで、演習量を相当増やせましたね、多分、俺以上に物理やった人、いないんじゃないですか。そんな感覚だと思います。テキストやって徹底(問題演習)やって、後期のテキストもやって柳瀬先生のプリントも全部やったので、多分。そこまで物理は、頑張ってやり込みましたね。でも、一番苦しかったのは10月で河合記述模試のときの物理。柳瀬先生にめっちゃめっちゃ頑張ってもらって。自分もめっちゃめっちゃ、毎授業、プリント終わらせて持っていくぐらいの勢いでやってたんですけど、にもかかわらず、河合の偏差値52で、ショックで、みんなの20点ぐらい下だったのかな、一瞬メンタルにはきましたね。いやあ、しんどかったですね、あの時は。確かにショックでしたけど、まあ、下向いてもしょうがないし。結構、そこは、きつかったというより、やばいと思って。メンタル的にやられたというか、このままじゃやべえな、やるしかないんだなと思って、そ

こからまた馬力かかりましたね。

ウィークリーは、満点を目指していました。

ウィークリーについては、代官山 MEDICAL に入ったとき、満点取ろうと思ってました。英語は1回だけでしたね、満点じゃなかったのは。めっちゃめっちゃ悔しかったですね、もう。そうなんです、16回目ぐらいです、確か。最後の最後で、カンマか何かがなかったみたい。俺はもう、帰ってきた瞬間、はあって感じ。去年、1人だけだったんですよね、多分、ずっと満点だったの。めっちゃめっちゃ悔しいです。最後の2人まで残ったんで。「英語満点は当たり前」ってみんなに言ってたんで。だから、それを言うことで、自分にもちゃんとプレッシャーかけながら、多分、自分の性格上、決めたことは絶対やるっていうのは、高校の部活のときにアメフトを始めたときもそうだし。ダイエットもそうなんですけど、やるって決めててそのダイエットも始めたんですけど、結局、30キロ減ったんで。いや、ウィークリーの英語は、やれば、誰でもできるんで。「やればできることは、ちゃんとやろう」ってみんなに言ってました。岡宮とか特に、「まじ、満点取れない」とか言ってたんで。「いや、意味分かんないよ」つって。あれで満点取れなかったら受験受かるわけないじゃんっていう感じのレベルで言ってたんですよ、全部。けど、それをメンタル弱い子とかに言うって危ないんで、それはちゃんと人考えて。てか、ここにいる人たちはみんな受かるんだろうなと、思っていましたね。まあ、ウィークリーの英語で取れないんだったら、マンスリーも順位に載れるわけないじゃないですか、英語は覚えるだけなのでそこを覚えて頑張って満点取ろうよって。そういう成功体験を増やすほうが、結果、マンスリーに

載るのにも近づくのかなみたいな、思ってたので。ウィークリーは、ひたすらやってたほうだと思いますね。4科目の合計で、ランキング、外したことないと思う、多分。最後らへんとか、多分、トップ10にずっと入ってた気がする。言い方はすごいあれだけど、単純明快で、毎週毎週やったことの復習をできないやつが、受験受かるわけないじゃんっていう。みんな、やるのが遅過ぎるんですよね。まあ、1日前に1回書いた程度で覚えられる人は、英語できると思うんですけど、あんまり英語得意じゃない人がそれやっても、結局、無理なんですね。自分は、最初は、どのぐらいやれば満点取れるか分からなかったんで、10回以上は書いてたんですよ、試験前までに。で、最終的に夏以降は、だんだん10回から3回とか2回とか減らしてって、まあ、音読したら覚えるよねみたいな感じに変えてきてましたね。あれにずっと時間使うのは逆に意味ないと思います。無駄かなって思う。数学もやってて得意だったんですけど、数学はなかなか満点が逆に取れなかったですね。

メンタルは強かったし、負けず嫌いだったんで

メンタルは、強いですよ、自分負けず嫌いなので。みんなを、結構鼓舞してたっていうか、同じA2のクラスの岡宮にも、結構言ったんですけど、めっちゃめっちゃ俺がいたから受かったみたいに言ってた。それは正直、そうかなと思う。いや、もう、色んな人から、陰で色々言われて。で、それを俺に言ってきて、「それじゃあ、おまえ、何しにここに来てんの？」って岡宮に言って。「受かるためじゃないの？ 3浪もしてるんでしょ」つて、もう、めっちゃめっちゃストレートに全部言って。「じゃあ、おまえ、勉強するしかないじゃん。別にそんな人、関係なく、受かれば何でもいいんだから、まず勉強しろ」みたいなことを結構ちゃんと言ったら、多分、効いたのか、やりだして。で、「化学もセミナーやれ」つったら、セミナーやってたかは分からないですけど、三上先生のプリント頑張ってやってたらしくて、一回、マンスリー、負けそうだったんです。それぐらい、頑張ってたんで。で、もともと英語はできてたから、まあ、大丈夫かなって。そうですね、まあ、仲良くなりつつ、こいつにも頑張って欲しいっていうあれがあったんで、去年、自分も受かったのは、必然かなと思って。だから、よかったかなと思いますね、今。やっぱ、代官山 MEDICAL ってそうやって生徒同士が仲良くなる場所もあるから、いい意味で。まあ、言い方は悪いけど、やっぱ、他の予備校とかじゃ、ちょっと、流される子たちもやっぱいるっしょ。でも同じ医学部目指してるんだし、ちゃんとやる人が多かったですね、そういう意味でA2良かったですよ。あと、源河(源河 史歩さん：昭和大医学部進学)さん、やばかったです。佐久間さん(佐久間 悠希さん：北里大医学部進学)もやばかったですね。あの人だけじゃないですかね、ほぼ6時にずっと来て。まあ、平井(平井 豪君：昭和大進学)も



途中からだったんですけど。佐久間さんのあれは、いや、体調悪くなるんじゃないかと、ずっと心配してて。言われましたもん、結構、前期とかA2で、隣の席座るときとか多かったですけど、「もし倒れたら助けてね」って(笑)。

先生の活用術

先生、うまく活用したほうがいいですね、絶対。質問の内容とかも大事で、やっぱ、本館の人が先生に質問してる時のやつ聞いてるんですけど、長いなと思って聞いてると、それ、質問なのか？っていうのもあるし。で、質問の仕方がちゃんとしてる人は結構、受かるかなっていうのがありますね。的確にね。「こうこうこうで、僕はここまでやったんで、ここでつまづいてると。これが分かんないですよ」とか、ただ話しに行ってるんだったら、ちょっと、止めてほしいかなみたいな、それは思っていましたね。自分がわざわざ20分の間に來てるのに、それはちょっと違うかなと。やっぱ自分で考えないと駄目ですね。その、勉強の仕方は。うん。結局はやり方は自分次第なので。まあ、質問に20分かけるとしたら、難問も聞いてます、多分。それだけ先生の質は高いです。うん、質めっちゃ高い。数学は特に2号館での先生はすごいっす。全員、もう、びびりますね。やっぱ、全然違う？いや、すごいですよ。なんで一瞬で分かるんだっていう。すごいと思いますね。まあ、これはこうじゃない？って。やっぱえと思って。

「足切り」を経験しました。

聖マリ落ちたときは、まじで意味分かんなかったっすもん。自分よりできてないと思ってた人が、どんどん1次合格取ってるのを見ると、メンタルにきましたね。は？と思いました。あり得なくね？と思って。で、聖マリはやっと謎が解明できて。開示したら、1次の最低点より高かったんですよ。でも点数が、足切りくらった。英語が足切りくらったみたいなんです。全体は1次合格の10点ぐらい高かったです、平均50点で37点だったんです。確実に受かったと思ってたんで、受けたとき。化学が25点ぐらい高かったんですよ、平均よりも。で、数学も21点かな、高くて。物理も10点ぐらい高かったんですよ。だから普通に、受かってんなと思ってたら。受験者全体の平均なんでちょっと微妙なんですけど。

最後に、言っておきたいこと。

友達は選んだほうがいいですね。あと、授業は切らないのは、間違いないですね。うん。授業切ることにあんまり意味をなさない。結局その時間やってんのかって話なので。大学生になったら自分も切りだしたので、今はその取捨選択をできる立場にいないよっていうのは分かってほしいかなと。何でもどんどん入れてかないと。吸収していかないとね。まあ、別に、聞くだけが全てじゃないし。自分で考えなきゃいけない。真面

目過ぎるのは良くないです、多分。真面目な女の子は結構、危ないかなあって。いや、何か、真面目過ぎる女の子は特に、みんな、色んな先生に聞くじゃないですか。で、そのまま忠実にやろうとするので。自分がない、そもそも。なので、色んな人に合わせ過ぎて結局うまくいかない。で、成績はなぜか下がる、頑張ってるのに、みたいになっちゃう。自分で考えてやるのが一番、受かるかなって思いますね。そこが一番大事じゃないですか。



卒業生が語る

合格への 軌跡2022年

WAY TO SUCCESS

金沢医科大

前期2次合格

間違いなく、1次試験の点数が
ぶっちぎって取れていたから
受かった。結局のところ、
私立医学部は点数至上主義なんです。

金沢医科大進学 中川 伶君（清風高校卒）

代官山に来てから、すごく変わりました。

中川 伶です。進学先は金沢医科大学で、2次受かったのも金沢医科大学のみで、1次、受かったのは、えっと、金沢医科、東北医科薬科、聖マリ、あと獨協の4つです。きっかけは、母親が予備校をいろいろ探してくれて、僕は、もともと東京医科大学に行きたかったっていうのが、まずあって。東京医科大学にめっちゃ行きたいっていう気持ちが、ずっと、大阪おったときからあって。やっぱ、東京の大学ってなると、東京の予備校が、情報多いっていうのがあるから、母親の中では東京の予備校に行かせて、なおかつ、寮に住まわせるほうが、人として成長できるんじゃないかっていうのもあるから、いろいろ探していく中で、ホームページ見たら、代官山 MEDICAL が、すごく、見てていいなっていうのを、母親から聞いて、それも自分見て、ここに決めましたね。現役、1浪のときは大阪のほうに出て、現役の時は、ちょっと、名前、出しますけど、メディカ●ラ●って所に行ってたんです。正直、僕は、ラ●では、成績もあんまり伸びなかったし、なんか講師もカリキュラムもここと比べて全然違うし、まあ、でも行かないと分かんないのもあるんで、だから、要するに、あんまり僕はいい所っていうふうには思ってた。で、1浪も1浪で、完全個別塾というか、医専を名乗ってる個別塾、行ってたんですけど、親身になってくれなかったっていうのは、その1浪のときありました、その予備校。で、2浪目から、代官山でやらしてもらって。でも、はたから見たら、何ていうか、めっちゃ時間かかるとるとやんけっていうふうに思われても仕方ないんですけど、僕としては、すごく最短で、行けたんじゃないかって、思ってた。実際問題、学力レベルが、高校のときとか、偏差値も全体で40いってるか、いってないかぐらいやったんで。全統記述もそうですし、あとは、まあ、駿台の全国模試とか、偏差値40前後とかやったんで、だから、それを今、医学部、行けるまでの学力にしてくれたのは、間違いなく代官山のおかげっていうの、思ってますよね。感謝してもしきれないぐらいあります、代官山に対して。まあ、1年目のときは、僕、あれ、あれやったんすよ、A10、スタートだったんで。だから、すごい底辺からのスタートやったんすよ、1年目。1年目は、ひたすら、がむしゃらにやって。ひたすらやっていく中で、どうやったら勉強する時間を確保できるかっていうのも考えるようになったし、なりふり構わず先生に聞きに行くようになったし、おかげで、考える姿勢というか、どうやったら効率良く事を進められるかっていう思考回路が、手に入れることができましたね。代官山 MEDICAL に来て、その、自分の精神力がちゃんと前を向くようになったというか、医学部に本気で行きたいっていうふうに、やっと思えるようになったんで。そうです。代官山 MEDICAL に来てから、すごく変わりました。まあ、やっぱり、周りの友達がすごく、なんか、意識高いっていうか、自分も医学部、行きたいっていう人も、

すごくいてたので、自分も感化されましたよね。いや、まあ、最初は慣れなかったっす。まず、方言というか。僕が、こういう、関西弁、バリバリしゃべる人間なんで、とてつもなく標準語、周り標準語だらけやんみたいな。当たり前なんですけど、ギャップというか、カルチャーショックはありました、ある程度は。あと人生初の1人暮らしってのもあって。

もともと最初からできる生徒は、あまりおらんと思いました。

もともと、最初から優秀な子は、言うとおりの、多分、いなくてというか、いないっすね。石井先生も、それ、おっしゃってましたよ。本当に、自分でできなかったりとかっていう子が、確かに多くなって印象なんだけど、やっぱ、それはあって。で、やっぱ、じゃあ、それは先生たちの引っ張り方とか、まあ、石井先生の、こう、授業だったりとかっていうので、やっぱ、そういう子たちも、みんな、できるようになるって印象はある。やっぱ、あの一、石井先生の言うこと聞いている人は、まず、伸びましたよね。で、僕は、1年目、2年目、まあ、1年目は、結構、言うこと聞いてたほうではあったんですけど、でも、途中から、良くも悪くも、運よく、マンスリーの点数が徐々にガンって上がってきたんですよ。それが、逆に勘違いを生んでしまった。自分は、もう、できるわ、みたいな。2年目、代官山でお世話になるってなったときに、やっぱ、自分の心のどこかで、まだ、甘えがあったのかなっていうのはあったんですよ。で、もう、甘えがなくなった人って、もう、目が怖いんですよ。あの、もう、今日、絶対やらんとあかんとか、明日も絶対やらんとあかんって、毎日を、そう、死に物狂いで生きてる人が、結局、1年で受かったりとか。一緒に頑張れば何とかかなるかっていう、ちょっと甘え、甘える方向にいつてしまったんすよ。だから、それが、まあ、最終的に1次、受かったけど、2次まで、つかめることができなかった、勝ち取ることができなかったっていうのは、

僕にとってのターニングポイントがあった。

チューターで来てくれてた深井悠介君(東京慈恵会医科大学進学)とか、東医、行った鈴木雄哉君(東京医科大学進学)とかもチューターで来てて、たまに会うとき、いろいろ、相談とか乗ってくれたりとか、俺の話、聞いてくれたりとか、すごいありがたかったっすよね。だから、そういう人がいるから、そういう人がいてくれるから、自分もその期待に応えたいっていうか、自分も医大生に早くなって、なんか、医学のことで関わるっていうか、語れるようになりたいみたいな、同じ分野を語れるようになりたいっていうのはすごくありましたね。去年の同僚っていうか、同じ年のメンバーで仲の良かった二神拓路君(聖マリアンナ医科大学進学)とか、小原久幸君(埼玉医科大学進学)とか、あと石原彰悟(東邦大医学部進学)。この3人は、めっちゃ仲良か

ったっていうのもあるし、彼らにも、すごい、応援してもらったりとか。二神と、小原君に関しては、しゃあないってか、普通に受かるレベルっていうのは認識してたんですけど、まあ、ちょっと失礼かもしれないっすけど、石原彰悟に関しては、もう1回一緒に1年やるっていうふうに思ってたんす、正直。クラスもほぼ一緒やったし、あと、彰悟自身も半分諦めてたんですよね。でも、なんか、最後まで諦めずに、後期試験のときも、勉強、自習室で頑張ってたって、1次は、6個か受かったけど、全然、補欠回ってこなくて、もう1年かなっていうふうに思ってたら、最後の最後に東邦、回ってきて、もう、めっちゃ、いい所を一本釣りしたっていうのが、なんか、まあ、ちょっとショックやったんすよ、僕としては。本人は、すごい嬉しいので、それは本人の気持ち尊重しますけど。ただやっぱり、僕からすれば、ああ、受かったんかみたいな。「おめでとう」って言いましたけど、でも、やっぱ、素直におめでとうとは言えなかったっすよね、僕が受かってないから。だから、彰悟に関しては、先に受かっていったのは、辛かったっていうか。正直、ちょっと、泣きましたね、彰悟が受かったとき。ああ、彰悟に置いていかれてしまった、どないしよう、みたいな。なんか、思わず、ふと、泣いてしまったときはありましたね。めっちゃ苦しかったんで、あんなときは、バリバリ、苦しかったんで、それが僕としては、ある意味ターニングポイントというか。本気で、本気でやらんとあかんみたいな。朝の、あそこ6時に開くんで、6時前とかに、なるべく行くようにしてて、仮に遅くても、朝の6時15分とかに来て、タイムカード押して、自習してましたね。

浪人してて、どうしようもないぐらい、自分でできない人やったら、代官山が一番効果的な環境と思う。

代官山 MEDICAL に来てまず、思ったのは、医専の先生っていうだけあってめっちゃ詳しいです。代官山 MEDICAL 以外で、こんなに、いい、親身になって聞いてくれる先生がそろってた予備校ってないと思って、僕はここ来て良かったなって、めっちゃ、思います。先生に話いろいろ聞いてもらえるっていか、勉強だけじゃないから、受験って。

最終的には、それはもちろん、点数しか見ないんだけど、それだけを伸ばそうと思っても、なかなか伸びないから、心の支えだったりとか、相談乗ってくれる人がおるっていうのは心強かった。クラス分け、毎回のクラス分けでも、この子は、点数、上がってるけど、実際、得点力はあるけど、実力的にはどうなんやろとか、努力の継続力っていうか、こいつ、上げたときに、ほんまに、そのまま上っていくタイプか、ちょっとだらけるタイプか、多分、そんなとこまで見られてるんやと思う。めっちゃ、言われました。そこができて、できてないで、結構、変わるし、だから、精神的に大人になった人は上げられてる印象がありましたね、僕の中では。なんか、勉強できてても、結局、なんか、人としてできてなかったら。ここが駄目なんやったら、ここ直そう、ここがあかんのやったら、ここ直せばいけるかなみたいなっていうのは考えるようになりましたよね。そこが、他の予備校と、違うとこかなっていう、やっぱり、そいつの、多分、個人個人を、ちゃんと見てるから。すこぶる食い縛った結果、あの一、今があるんで。そこは、やっぱ、感謝してますよね。代官山のおかげでもあるし、代官山の先生がたが、めっちゃ励ましてくれたんで。何より、山崎先生と、小椋先生、太郎先生や高橋典先生は、めっちゃ励ましてくれましたよ。ノリ先生には、いろいろ自分の話、聞いてもらって、今年は大丈夫やっていうふうに、断言して言ってくれたっていうか、ノリ先生の、あの一言は、でかかったですね。いろんな先生と多分、僕、しゃべってます、基本。大手の予備校とかでは親身になる先生なんて、絶対、ありえないと思います。まず、大手の予備校でいいと思います。そのぐらい、ここが、環境として素晴らしい。精神的に弱い子とかには、いいのかもな、こっちのほうが。自分でできる人は、まず、そもそも浪人とかしてないと思いますよ。浪人してて、なおかつ、どうしようもないぐらい自分でできない人やったら、ここはすごく適切というか、代官山が一番、効果的なんじゃないですか。僕は、絶対、そうですね、代官山を超える医専はないと思ってます。自分でできる人は、基本的に、大手の予備校行って、自分で突き詰めて、計画立てて、それこそ、現役で受かるし、なんなら、国立の大学に受かるんで。だから、そういう人じゃない、そういう部類に入らない人は、間違いなく代官山で1年頑張ったら、普通は受かると思います。



僕が特殊なだけで。やっぱ、こういう人もいるよってことだけは、声を大にして伝えたいです。やっぱり、意識高い人は、新年度が始まる前から準備してるんで。それこそ、鈴木雄哉とかは、春の先取りのときからずーっとやってたっていうのを聞いたんで。だから、彼も、東医にめっちゃ行きたいって言ってたんで、実際、その行きたかった東医に、今、行ってるんで、彼は。だから、そこが決定的な差なんかなっていうのは感じます。春、大事です、やっぱり。本当、それは思います。ただ、でも、春からできる人って、元から、高校のときから頑張ってた人とかやと思うんですよ。受験が終わってもすぐにスタートを切れる人、苦じゃないっていうか、勉強を楽しんでいるようにさえ見えた、京極政樹君(東京慈恵会医科大進学)っているんですけど。慈恵に行った京極君とかやったら、数学が大好きなんですよね、彼。で、物理も、嫌いじゃないとか言ってたんで、だから、勉強好きやったら苦じゃないっていうのを、彼、見て思いましたね。だから、やらなあかんというよりかは、勉強を楽しむっていう思考におけるほうが、いい所、受かるんかなっていう気がしますね。僕は、そういう思考には、さすがになれなかったですけど。ただ、今、まだ、こうやって、代官山で頑張ってる人やったりとか、あとは、代官山、これから、浪人を考えてる人やったりとか、現役で医学部、受かりたいと思ってる人が、この合格の軌跡、読んでるんやったら、まず、勉強を楽しむっていうのを、ここで、味かうほうが、一番、手取り早いと思います。

私立医学部は実力至上主義。

心の余裕が、今、すごいあるんで。なんせ、医学部にいるっていう事実が、自分を、すごい自信付けてくれるし、医学部に行っている自分が、誇らしいから。今は。勉強、楽しもうっていうふうにもなれるし、大学に入った今は、勉強、楽しめてるのは、今まで習ったことないことを楽しめてるのは、間違いなく代官山MEDICALでやってきたから、芽生えた思考なんやなと。でも、僕の場合は、多浪っていうなんかうしろめたさ見たいのがずっとぬぐい切れなくて、でも、多浪生とかも、いると思うんですけど、確実に、医学部行きたいって気持ちが、なくなる限り、希望は絶対にあるので、あとは、根性を見せるしかないっていうのは思いますね、男は。いや、折れないのが、まず、大事です。俺も折れなかったんで。折れなかったから、医学部受かったんで。やっぱり、勉強めっちゃ頑張って、1次試験、ぶっちぎって点数取れてるからこそ、こう、ディスアドバンテージがなくなったっていうのがあるからだと思うんですよね。代官山の先輩で、僕が一番印象的な人でいうと、杏林行った安永君(安永尚生)とかは、杏林の正規やった理由は、間違いなく、1次試験がぶっちぎってたからって、聞いて、端から見たら、4浪なわけなんですよ。あと、東邦に受かった白須さん(白須大士)が、6浪って聞いてたんで、彼に関しても、

やっぱ、点数、ちゃんと取れるとこ、がつつり取ってたから。そうなんですよ。6浪なのに、聖マリ、受かってる、正規で。だから、それは、間違いなく1次試験の点数が、ぶっちぎって取れていたから、頑張ってたから、これだけ受かったってのもあるんじゃないかっていうふうに、僕は見てて思いますね。結局のところ、私立医学部は点数至上主義なんで。



卒業生が語る

合格への 軌跡2022年

WAY TO SUCCESS

聖マリアンナ医科大 前期2次合格

他の予備校とは違って、びっしり
授業あったんで、抜けれないし、
授業の中でちゃんとやらせて
くれてたんで、サボれなかった
のは大きかったですね。

聖マリアンナ医科大進学 沖 和浩君（暁星高校卒）

サボれなかったのは大きかった

1次合格をもらったのが、帝京大学と東北医科薬科大学と聖マリアンナ医科大学です。2次合格がきたのが聖マリアンナ医科大だけです。浪人生活を、代官山MEDICALで過ごして、1年で受かりました。現役の時は、勉強、全然してなかった、正直に言っちゃうと、全くしてなかったんで。代官山で勉強の毎日の習慣は付いたかなとは思ってます。現役のときは、10月までずっとサッカーやってて。で、えーとまあ、言い訳にはなるんですけど、ずっと部活やってたんで、疲れたっていうのもあるんですけど、やる気が起きなかったっていうのが大きくて。で、なんか周りが結構焦って勉強とかしていく中で、まあ、俺は何とかなんじゃね、みたいな、そんな思いがあったんで。あんま勉強はしてなかったんですね。で、現役の時は、1次合格は1個もなかったですね。代官山MEDICALに来て見て違ったことは、石井先生が一番、何て言うんだろう、合格へのビジョンを見せてくれたっていうのが大きかった。現役の時は野●ク●に通ってたんですけど、その塾、時間帯が悪かったっていうのもあるのかもしれないですけど、先生がその授業の前後しか、捕まなかったり、なんかちょっと質問したくても、受付んとこに事務の方しかいらっしやなかったりとかあったんで。それに比べると、(代官山MEDICALは)6階来て、誰か数学の先生いないかなみたいな感じで。しかも1人の先生にずっと教わってるわけじゃなくて、色んな先生に教えてもらってるんで。それに先生はすぐ名前を覚えてくれるんで、質問、なんか全然違う分野のところで質問はいけるんで。分かんない時にすぐ対応してもらえるのは、代官山MEDICALのいいところだと思います。他の塾とは違って、びっしり授業あってって感じだったんでなんか抜けれなそうだなっていう。長時間自習頑張ったっていうよりも、ちゃんとやらせてくれてたんで授業の中で。サボれなかったのは大きかったですね。なんかその、代官山じゃない友達とかにも、何時まで勉強やってんだってって、9時まで授業あるからつつたら、なんか、うーみたいな感じになるんで(笑)ですけど、ほんと、授業多いのはのはメリットですよ。1年間監獄みたいな感じでしたけど、受かるかなっていう思いはありました。

友達みたいな先生が多くて、すぐ6階来て質問に行けた

いや、良かったですね。結構、薄先生とか緒方先生とか記憶残ってますけど、何て言うんだろ、馬鹿でも分かるように説明してくれるっていうか。当時多分、何にも分かってなかったと思うんですけど、僕は。でもちゃんとやれば俺でもできるなって思った授業ではありました。なんかちょっと、言い方悪いかもしれないですけど、友達みたいな先生が多くて、すぐ6階来て質問に行けるっていうか、そういうのが良かった。分かんなかったら、友達よりも、先生に質問しに来たか

なって感じがします。英語、別に得意ではなかったんですけど、根拠のない自信っていうか、まあ、いけるっしょみたいな感じでいたんですけど、そのなんか、一番最初の授業を受けてみて、一番最初の誰の授業だったかな、えーと多分、田中先生、田中良平先生だ、授業で文法やってもらったときに、思ったより何にも分かんなくて。なんか日本語で説明してくれてることをいまいち理解できなくて、何言ってんだろってなっちゃって。で、もういいよ、マンツーマン必要だなんて思ってたのと、なんか1週目の授業を受けてみて、ちょっと面白かったから田中先生と岩瀬先生取ってみようかなって思って、二つ取ってみました。いや、田中先生も良かったんですけど、岩瀬先生すごい良かったです。色々まあ、まとまったプリントみたいのがあるんですけど、語呂合わせとかダジャレとか、色々あって。覚えやすいっていうのもあるし、授業をしてもらってて、すごい楽しかったっていうのもあります。なんか5, 7, 5みたいな感じで。あの一、先生の、何て言うんだろう、理にかなったじゃないですけど、何だろう。先生がじっくりきたやつしか、そこには載っていないんですよ。なんですけど、すごいしょうもないダジャレとかが、その授業中にはポロポロ出てくるんで、そういうの、なんか笑いながら覚えてた気がします。生物の山崎先生は本当に、あの、図。教科書の図とかって、細かくいろいろ書いてあるじゃないですか。それを山崎先生は結構簡略化して書いてくれて、まず重要なところを説明してくれて、細かいところはまたその後で質問しなくても、言ってくれるんですけど。まずここ、覚えるっていうのを簡略化した図で教えてくれて、その後いろいろ教えてくれるんで、すごい好きでした。

2号館上がったときは、めっちゃ嬉しかったです。

夏のマンスリーの結果で、あの紙(ランキング)に、一番下の方だったんですけど、(自分が)載ったのは結構嬉しかったですね。載ってからは毎回意識するようになりましたね、あと何点で載れたのに、みたいなのはありました。なんか載ったらやっぱ、格好いいじゃないですか。俺、生物だけは多分結構、毎回のように載ってたんですけど、他(の科目)は全然載ってなくて。生物だったら同じクラスで、あんまり負けてなかったんで。自分は生物が得意だったんで、1個だけでも自分の得意教科があることに安心感を持っていたっていうか、あんま危機感はなかったんですかね。ちょっと、今考えるともうちょっと危機感を持ったほうがいいかなと思うんですけど。ウィークリーなんかも返ってきた時に、0点で返ってくるのがどうしても嫌で、何て言うんだろう、その単位によっては、もうこれやりたくねえよみたいなのもあったっちゃ、あったんですけど、まあちゃんとやりましたね。言うてテストじゃないですか、テストで手抜きの嫌だったんですよ。だか

らちゃんとやってました。ウィークリーは、ちゃんとした復習の場じゃないですか。テスト系がなかったら、やらないと思うんですよ、俺の性格だと。ウィークリーがあるから、やばい、復習しなきゃ、みたいになるんで。1学期の内容って復習すると結構価値あるじゃないですか。それはうまくいったかなと思います。緒方先生にマンスリー見せに行ったときに、「ちゃんとウィークリー取れてるからいいね」って言って、全然ウィークリーちゃんとやってなかった人とかには、毎回ウィークリーのチェックが入ってたりするらしいんですけど。俺はその、毎回ちゃんとやってたんで、点数もそれなりに良くて、ウィークリーだけだったらまあ結構良くて。お前はちゃんと大丈夫みたいな認識を受けてたんで、ちゃんとやってて良かったなと思います。目の前の課題っていうか、どんどん詰め込まれるじゃないですか。ウィークリー、ウィークリー、マンスリーみたいな感じで。ああ次ウィークリーだ、ああ次ウィークリーだみたいな感じで。どんどんやっていくうちに、ちょっとずつ学力上がっていったかなって感じはします。その成果もあって、本館から2号館に移った時はめちゃめちゃ嬉しかったですね。まじで嬉しかったっす。A2上がった時のマンスリーで、結構できたって感触があって、その時が40番ぐらいだったのかな総合(ランキング)で、確かそのぐらいだったと思うんですけど、その紙(ランキング)の中段ぐらいに、自分の名前あるのを見て、「ん!？」みたいな(笑)そのときが、はい、11月のマンスリーだと思うんですけど、多分それが一番(得点)高かったです。2号館ってそんななんか、雰囲気キツイみたいなそういう感じあんまりなかったんですけど、その休み時間とか空き教室で、めちゃめちゃ3、4人ぐらいでグループになって、

過去問解いてたりするのはなんか、2号館ばいになって感じはしてましたね。M1の人とかがガチで勉強してんのをを見ると、ウォーって思いましたし、「これが受験か」と思って。ちゃんと過去問とか解き始めましたね、自分でも。

冬のマンツウで苦手を補強できて、絶対的な安心感があった

山崎先生には、基本的に過去問ベースで進ませてもらったんですけど、嫌いな範囲、やってない範囲が出てきた時に、ぼろぼろなのが、結構もろかったのがそこで分かったというか、分かったつもりだけで、実際は、こんなできないのかなっていう。冬とかに、自分で過去問やる緩さよりも、先生がちゃんと見てくれる過去問演習って違うと思うんですよ。山崎先生と一緒に過去問やって、そこを解説してもらって、穴埋め、ポロポロあったし、ぼろぼろって崩れそうなところを補強できたのかなって感じがして。やっぱ、冬にマンツウ取ってるとなんか安心感が違いますね。俺、補強されたなって実感が湧くっていうか、ここは補強されたからもう大丈夫みたいな。ちゃんと冬と直前でちゃんと補強してもらったから、ここは大丈夫みたいな、なんか絶対的な安心感があったんですよ。それはすごい良かったですね。だから実際、生物で、植物は結構出たんですけど、何個か直接習った内容が、その合格に結びついたかなって言いすぎな気もするけど、マンスリーとか模試をやってくと、自分が解ける問題と、自分が解けない問題って多分、ぱっと見て8割方分かると思うんですよ。ぱっと、ただすらっと思って、これは解けるなっていうやつと、これはちょっと厳しくね、みたいなのが多分、分かれてて。これは解けるなっていうところはちゃんと先生もなんか、君はここはもうできるって言われてるところとか、もうその何回も復習して自分の中でここはできるって自信を持てる場所とか、そういうところは絶対取ろうっていうふうに思ってた。それで時間が余ったら、無理じゃねって思ったところをちょっとチャレンジしてみて、最初の2、3問ぐらい解けたら万々歳みたいな。

一本の軸に先生のアドバイスや自分の考えを付け足していく

全然、最初から軸なんてなくて、なんか、無一文みたいな状態で代官山 MEDICAL に来たっていうんだったら、多分先生の言うことをそのまま聞いてれば、そのままそれが軸になっていくと思うんで良いと思うんですけど。ギュウギュウに詰め込みすぎて、なんかちょっとノイローゼみたいになっちゃいましたとか、もう学校来たくありませんとか、そういうふうになるぐらいだったら、自分の芯をしっかり持ちながら、先生の言うことを聞き、まあ先生の言うことを無視するってのは絶対ない、駄目だと思うんですけど。先生の言うことは絶対聞いて、その先生がこうした方がいいよ



って言ってきて、俺こう思ってたんですけど、こういう駄目ですかって言って。なんか、あ、それでもいいんじゃないって言われたら、その自分の軸に、その先生が言ったことをちょこちょこ付け足すとか。逆にそれはちょっと駄目だなって言って、先生がこういうふうにしたほうがいいよって言うんだったら、そこに、その先生のほうを軸にして自分のを付け足していくでもいいし。なんか、軸は1本必要なのかなとは思ってるんで、そこは重要だと思います。なんかストレスをため過ぎないように、俺、勉強別に好きじゃないんで、ストレスはたまるっちゃたまるんですけど、溜まって、「あああ！」ってなるよりかは、自分のペースで、無理やり前を走ってる人を捕まえに行かなくても、なんか最低合格ライン、文字通り合格のラインを自分の、マラソンぐらいの、そんなマラソン42キロを、なんかガチダッシュしてる連中に追いつくんじゃなくて、チョロチョロ3時間ぐらいで走ろうかなっていう。それぐらいの気持ちでやってましたね。そこまで頑張って追いつこうとして、途中でなんか、もう無理ってなるよりかは、自分の中で頑張る、頑張れる範囲で頑張ろうかなとは思いました。みんなで過去問バリバリ解いてるっていうのもいい習慣だと思うんですけど、僕の中ではやり過ぎて疲れて、ダメになるくらいなら、一本軸のある考え方で、自分のペースで走っていく方が良いと思いますね。



卒業生が語る

合格への 軌跡2022年

WAY TO SUCCESS

獨協医科大

2次合格

テストの結果とかは納得して受け入れる。それで、次どうするかって話なんで。一喜一憂しないで結果出すために次何考えるかってやってきたんで合格したんだと思います。

獨協医科大進学 大西 真理子さん（淑徳高校卒）

勉強時間の記録やトイレに行った時間の記録をノートに書いてた。

大西真理子です。1次受かった学校は、杏林と東北医科薬科と獨協です。進学先は獨協医科です。全部の試験終わった後、ウイルス性の肝炎で入院してたんですけど、入院してる時も「まだ受かってないな、どうしよう。」って思ってたなら、そしたら獨協（の合格通知）来て、母も喜んでましたね。私、代官山 MEDICAL に来たとき、A 10 だったじゃないですか。A 10 からだと、受かるとしても、結構、偏差値が低いとこなんだろうなみたいな感じなんじゃないですか、A 10。それで、やっぱ、絶対どっか受かんない感じがして焦ってましたね。元々予備校探してる時、専用の自習室があったのは、でかかったなと思って、私、高校のとき●台だったんですけど、あそこは、専用の自習室じゃないので荷物とか置けないんですよ。専用の自習室があったら、予備校に来るじゃないですか。家だったら勉強できないんですよ。（専用の自習席）あるんだったらいいなっていう。いいと思います。ここ（代官山 MEDICAL）の自習室、本当に良くて。まじであってよかったなって。自習室で自分の席で勉強する癖が付いちゃって、自習室じゃないと勉強できなくなっちゃって。家では勉強してないです、本当に。眠くなることもあったんですけど、仏教徒だったので瞑想の仕方を教えてもらって、で、息をゆっくり吸ったり吐いたりして。その後に、めちゃくちゃあくびが出てくる、寝る直前みたいな感じになるんですよ。そこで、思いっきり起きるんですね。3分ぐらいでいい感じになれるんですよ。めちゃくちゃあくびが出てきたら、やめるってやると、ちょうど3分ぐらいで覚醒しますね。目をぱっと開けて、水とか飲んだりして。それやって起きると気分がすっきりして、眠くなくなります。なんか座禅組んでるお坊さんの世界ですね（笑）あと、時間も計りまくったんですよ。トイレに行くの5分とか。（自習席が）2階のときは5分だったんですけど、3階になったら近かったんで、ある程度、3分とかね。あとは勉強する時間もノートにつけてて。何時間、ちゃんと勉強したか計りたかったんで。例えば、17分に1回立ったら、17って書くんですよ。出てきたら、25分とかに出てくるじゃないですか、25分とか書いて。後で、勉強する時間、勉強が終わった時間があるじゃないですか。そのときも、時間書いというて、それで、途中で何分マイナスかなみたいなふうにつけてって感じですね。で、勉強行き詰まったりで気分が乗らない時は科目変えてました。石井先生が仰ってたんですけど、40分周期ってやつ。40分取りあえずやるんですけど。40分経ったからやめとかやると、次の週になったときに、さっきの続きやんなきゃって感じで。続きだったからなみたいな感じで、やんなきゃいけない感を出して、やれるんですよ。途中で終わったところから整理して前やったとこの復習にもなったし、マンスリーテストの前とかやばかったんで、その時はや

る科目を3個、40分周期で回してました、科目ごとに飽きたら回す、みたいな。

「勉強してない人ほどへこむ」と言われハッとした。

高校が終わって、春休み、全然勉強してなかったんです。そしたら、やらかして大変なことになりました（笑）。オリエンテーションで、あなたたちのクラスはA 10とかですって石井先生に言われて、マジ？って。もう、周りはみんな勉強してるんだ、まだ予備校の授業始まってないのに勉強してるんだみたいな、そういう感じだったんですよ、最初は。私、馬鹿だったんで、その時点でかなり出遅れてて、（春の）先どり授業は取ってたんですけど、その日だけ授業に行って遊んでたんで、今思い返せば何のために取ってたのかって感じですけどね（笑）。1学期になって、最初、授業終わった後に、小島先生（数学科）が紙を配ったんですよ、最初に教えてくださって。宿題ですって言われたんですけど。それで、先生のところに持ってきてくださいねって言ったのがすごく印象的で。先生のところに持って行くようなシステムなんだ、みたいな感じなので。普通、予備校って受付で集めて終わりって感じじゃないですか。良かったなって。そのときに、普通に聞きに行って、全部教えてもらって、良かったです。その後のクラス分けをしてA 8に上がったんですけど、やってもやっても出来ないみたいな、そこから何の変動が無かったじゃないですか。その時が結構挫折感大きかったです。私、テストで、1回ひどかったんですよ。全部やらかしたみたいな感じのときがあったんですけど。それで、その時は、石井先生が授業で、「勉強してない人ほどへこむ」とか言っていて。おーって思って。それで、合計で24時間ぐらい、へこんだんですよ。寝てるときはへこんでないんで。合計24時間ぐらいへこんで。それで、やらなきゃなってなってって感じでした。で、そんなことを平野先生（数学科）に、本当に、まじでやばかったみたいなこと言ったら、そしたら、うんうんって聞いてくれて「テスト10個ぐらい受けたら、1回ぐらいやらかすよ」って言うてくれて。結構そういう言葉で救われてましたね。

質問は、先生に全力で聞きに行ってた。

代官山 MEDICAL で他に気に入ったところが、先生にめっちゃ聞けるとこですね。私、同じ科目だったら、どの先生でもよくない？っていうふうに思ってる人だったんで。分かんないところあったら、誰が来てるか見に行かずに、取りあえず聞きに行くみたいな。代官山 MEDICAL は、どの科目も先生が多いんで、取りあえず、6階に行って、その科目の先生を探して聞くみたいな感じでした。そこですぐ聞けるので、良かったなって。勉強時間の記録をつけてるくらいだったんで、並んでる時間がもったいないから誰でも聞きに行っていました。マンツーマン取ってなくても村上先生（数学科）にめ

っちゃ質問対応してもらって。自治医の問題とか集めていただいた問題をやって。それで聞きに行って、先生の休み時間の時間の、大体1時間ぐらい空けてるじゃないですか、真ん中ら辺に。そんなとき、40分使ってもらってっていうふうなのを毎日やって。申し訳ないなと思いつつ、本当にありがたいなって思つて。数学の自習は本当に代官山(MEDICAL)のテキストと先生から貰ったプリントだけ、テキストも4周、苦手な単元は5周くらいしてました。英語は田中良平先生(英語科)のマンツーマン取ってましたね。田中先生は接頭辞とか教えてくれるじゃないですか。単語が、なんでそういう成り立ちなのかっていうのも教えてくれるんですよ。あとは、go skiingは言うけど、go to skiは言われないみたいな、そういう話したり、文章に出てきた単語の成り立ちとか、なんでこんなふうに言われるのか、どこから来た単語なのかみたいな。マニアックな感じで面白かったです。物理は、野村先生のマンツーマンが結構好きでした。面白いんですよ。めっちゃ面白いですよ、本当に。普通の授業だとクールな感じなんですけど、マンツーマンだとそういうのが無くてめっちゃ面白かったです。授業でプリント貰うんですけど、自習の時に、あれ全部やって。分からない所を質問? 対話形式でやってもらって、とても良かったですよ。親からも言われたんですけど、助けてほしいときに助けてって言えるのもちゃんとした力だよみたいな。助けてっていうふうに言えることが大事だよみたいな感じのことを言われて。分かんないところを先生に全力で聞きに行つて。やばいときとかも、ここがこうで、まじでやばいみたいに言えてたんで、良かったなと思つてます。

テストの結果とかは納得して受け入れる。

後輩へのアドバイスとしては、「春は、やろう」っていう、春はまず勉強しようってことです。春はちゃんとやろうっていうのが一番ですね。とにかくやれるだけやる感じ。代官山に来たら勉強すると。予備校に来てまで遊んでいる子とか、論外なんで。親が泣くぞと思つたら、勉強ちゃんとできると思いますよ。予備校に来て勉強することがいいです。なるべくここ(代官山MEDICAL)に来て勉強する。まずは練習量っていうか、テストの結果とかは納得して受け入れることとか、それで次どうするかって話なんで。過程に一喜一憂しないで結果出すために次何考えるかってやってきたんで合格したんだと思います。あとは、体調管理ですかね。試験期間に熱出してたつてのもあるんですけど、ちゃんとご飯食べないと病んじゃうなって。あと、心構えというか、姿勢面なんですけど、ぼっちでもどうにかかります。ぼっち大丈夫ですね。多分、予備校だったからつてのもあるんですけど、友達いなくても余裕です。やることは勉強なんで。絶対仲良くしなきゃいけないのは先生で、他の子は、別にいてもいいなくてもいいみたいな感じじゃないですか。やっぱり、結果なんでつて改めてこの受験で強く思いました、はい、私、前からそういう傾向もあったんですけど、代官山MEDICALに来て強くなりました。



卒業生が語る

合格への 軌跡2022年

WAY TO SUCCESS

帝京大医学部

2次正規合格

松前先輩が、医学部受かんなかったら、もう死ぬくらいの覚悟でやってたからって言ってたので。ああ、もう、そういう覚悟を持ってる人が受かるんだなって。

帝京大医学部進学 田中 陽来君（自修館中等教育卒）

ウィークリーは、満点目指してました。

田中陽来です。1次試験受かったのは杏林と東北医科薬科と帝京と獨協と昭和前期と、聖マリ後期です。で、2次試験受かったのが帝京で、進学先も帝京に通ってます。自分入れて3人ですね。渡邊裕佳さんと愛甲くん(愛甲尚哉)。受験時期の最後のほうになると、いつも、もう無理じゃね?って思ってしまうて、家だとネガティブになってしまって、自分一人だけだとネガティブになってたんですけど、ここに(代官山 MEDICAL に)来てからは、そういう思考にならないようになって、もっと頑張ろうって思って、1年頑張って、足らなかったところを補って補って、やっとたどり着いたって感じです。自分、割とウィークリーを大事にしてて、とくに英語は大体、満点狙ってやってたし、載ったらそれがめちゃくちゃうれしい。数学もテキストの復習してればちゃんと反映されるようなテストが多いから、それも頑張ってやるとランキング載れたりしてやる気も出るし、しかも、総合ランキングで載ってるとうれしいなって思って頑張れたし。あとは、普通の授業とか質問しに先生にしょっちゅう聞きに行ってたんですけど、そのときも、ただ問題をやっているだけじゃなくて、先生が求めていることを先に言えてると、すごい褒めてくれたから。なんか、そういうのをモチベーションに頑張れたかなって気はします。

先生たちは、授業終わった後でも、20分でも30分でも付き合ってくれた。

1浪目は、千駄ヶ谷の予備校にいました。なんか、医専でしたけど、メ●●カっていう所にいました。いや、まず、開いてる時間帯が違うし授業数も全く違うし、演習量ももちろん違うし。まあ、正直、授業の中身も全く違ったとは思います。代官山 MEDICAL は、全部、先生たちが決めてくれて、これやらなきゃいけない、あれやらなきゃいけないっていうので最初、面食らった、いや、まあ、正直、びっくりしました。自分で決めずに、言われたものをやるってこういうことなんだって、最初の1カ月くらいは思っていたりしました。代官山は、紹介してもらって、小川君(小川智成:聖マリアンナ医科大進学)に教えてもらって来ました、その人もちゃんと1年で受かってたから、それと同じことやろうっていうか、先生に言われたことをやろうって思って通い始めてたから。まあ、慣れるまでは大変だったけど、だんだん慣れていきましたし、きっと周りの子もそうだからって思うようにしたら、ちょっと気は楽になるし。授業中も、当てられて仮に間違えたとしても、間違えたほうが記憶に残るっていうか、あのとき間違えたなって、テストのときに思い出して正しい答え書けたら、それはそれでいいのかなって思うし。数学の演習のテストゼミのとかで、薄先生が教室内を見て回ってるときに、薄先生と同じ解法とか、前期に習った解法どおりに解けてると、当てられるじゃないですけど、なんか、ポンポンってやられて、グー

(Good)ってやられるとめっちゃめっちゃうれしかったですね。で、たまに、解説するとき、田中の答案が良かったから、それでやるわってわざわざ言ってくれたりして。実際、自分の答案じゃないけど、多分、先生たちのをまねして解いてるだけだから、自分で作り出した答案とかじゃないけど、そう言われると自信になるし、もっと復習しようってなりましたね。自分のとこまで見てくれるの?って思ったりしました。ノートの取り方っていうか、ノートに解いているものを見て判断されてるんだなって純粋に思ったし。そんなの、1浪のときにはなかったから。すごい見てくれるんだなって思いましたね。数学の啓寿先生にも、解いた答案が見たいからノート持ってきてねって言われたりしてたし。野村先生も、ノートに解いて、丸付けせずに持ってって、どこまでできてるか、ここから間違ってるから、じゃあ、そこから解説しようか、みたいな感じだったから。いや、めちゃくちゃすごいと思います。本当に、頭が上がんないですね、先生たちに。生徒がどういう状況かとか、どこまで理解しているかとか、しかも、それがめちゃめちゃ正確だから。信頼できる先生に会えたかな、代官山で。もう、恵まれました。授業終わって帰るか移動するかくらいなのに、質問に行くと、あ、いいよ全然つつて20分、30分、付き合ってくれたりして。試験期間中も、本当は1コマしか来ないのに、その後ろずっと付き合ってくれたりして。本当に助けられました。

ここ(代官山 MEDICAL)に来て大きく変わったこと。

まず、なんか、やる前に諦めなくなっただけかなって気はします。来る前、ここにお世話になる前とかは、なんか、いや、無理でしょって最初に思うほうだったんですけど。なんかそれが、やれば、時間はかかるかもしれないけど、結果につながるし。そうすると、お、いけんじゃん、もっとやろうってさらに上がっていくこともあるし。で、それで、ここ(代官山 MEDICAL)だったらランキングが貼り出されるから、そこで1位とかになると、しゃべったことない人からすごいね、とか言われるし。あと、先生とかにもなんか、急に背中たたかれて、おまえやったやん、みたいなこと言われたりするし。そしたらなんか、余計、満足するんじゃなくて、もっとやろうってなるし。で、それは、1浪目にはなかったことだから、進化できたのかなって思いました、今になってから思うと。もちろん休んだことは一回もないと思います。ぶっちぎったセンスとかないから、コツコツやってないと崩れ落ちちゃいそうって思ってるし、そうしないとできる子たちにはかなわないなって思ってたから、絶対休まないようにしようって思っていました。体調を理由に、やっぱ、休むのは良くないなって思ってたずっと通ってました。毎日、帰る前に、「明日のやることリスト」を、時間割の裏紙に、チェックリストを作って、来たときにやること迷わないよう

にしておいて。で、朝来たら予習やって、ルーティーンがどんどん出来上がってきて、それを崩すの嫌だなんて純粋に思うから、それを守るためにも行かなきゃって思ってた感じですかね。自習室は入ってすぐのところだったから、いなかったり休んでたりすると、みんなが感心あるかどうかは置いといて、多分、バレはするから。あ、それも嫌だなんて思ってたし。休めない。授業1回休んだだけで相当な痛手だから。なんか、学校の授業と違って1コマで何かの単元が終わっちゃうかもしれないから。しかも、見てくれてる先生がいっぱいいるんだから、それは休めないですよ。特に、浪人してる間は余計に多分、自信がなくなっちゃってると思うから、先生たちに助けられたことは多分、幾度となくありましたね。いや、でも、いつも不安でしたね。成績的にはいい感じじゃんって言われることがあったんですけど、それでも全然、自信になんないし。だから本番そうなるかどうかなんて誰にも分からないから。なんか、θの授業で突然、石井先生に名前呼ばれて。え、俺なんかしたかなって思ったら、英語ランキング1位とか言われて。ちょっと言葉が出なくて、驚いてますねってフォローが入ったんですけど、いや、でも、うれしかったですね。しかも、同じクラスの子とか一緒に授業を受けてた子たちが、あいつすごくね？みたいになったから、頑張らなきゃって余計、思いました。

毎朝。おばちゃんが「おはよう」て。

夜更かしとかは絶対にしないようにしてました。生活リズムが乱れるようなことはないように。いつも決まった時間帯。大体12時くらいに寝て、6時くらいに起きてっていうのをずっと繰り返してた感じですかね。ご飯は、着いてから食べてました。6時に起きて7時

半くらいに着くから、それで2号館の教室に1人でこもってやって、8時半過ぎたら勉強止めて、ご飯食べて1限に向かう、みたいな。そのルーティーンで。しかも、そういうルーティーン化していると、2号館の朝、来てくれてるスタッフの方いるじゃないですか、おばちゃん。その人が、なんか、よくあいさつに来てくれるようになったから。そういうあいさつに来てくれるから、行かなきゃってなるし、そこでも。コンコンって来て、おはようって入ってきてくれるようになったから。そう、そのあいさつをするために7時半にいて勉強しなきゃって。小さいけど、すごい元気なおばちゃん。そうそう、めっちゃめっちゃ元気。また明日ねって。そうやって自分頑張ってるのを、認めてくれてるっていうか、なんか、声掛けてくれるって大きかったですね。

合格者座談会の一言が重かった。

ここ(代官山MEDICAL)って、なんか、毎年夏の前くらいに、去年の合格者が予備校に訪問するってやつ、あるじゃないですか、合格者座談会って、はい、松前くん(日本大医学部進学:松前和輝)、って人が目の前で行ってたんですけど、医学部受かんなかったら、もう死ぬくらいの覚悟でやってたからって言ってたので。ああ、もう、そういう覚悟を持ってる人が受かるんだなって、そのときに。やっぱ、直接言われるのは、やっぱ、重みがあるので。なんか、文字とかでも確かに感じるけど、やっぱ、直接言われたら、そりゃ重いし。実際、影響を受けました。石井先生も、メンタル的に強くなるワードとかいっぱい言ってくれてたのを今も覚えてるし、出願のときの戦略も詳しく教えてくれて、あの先生、すごくてこう、相手に合わせるのめっちゃめっちゃうまくて、質問待ってるときに別の子が質問してたんですけど、なんか、自分のときとは、対応が違ってたんですけど、なんか、雰囲気がちよっと違って。なんか、びっくりした覚えがあります。僕は、いや、行きやすかったです、本当に。

先生のおっしゃることは、なるべく多くを吸収して、発揮できなかったことがあったとしても受かるくらいになれるといいのかなって感じですね。なんか、石井先生が言ってたと思うんですけど、100パーセントを目指すんじゃなくて、120パーセントを目指す、目標の大学もワンランク上げないと自分の志望校は受からないって、人生、第2志望からだって。

